

1000/24

理學士富士谷孝雄著

中等
教育
日本地理教科書

東京

敬業社
成美堂發行

中等教育 日本地理教科書下卷目錄

第六章 山陰道

位置	一三三
廣袤	一三一
山脈	一三一
水理	一三一
氣候	一三七
物產	一三九
農	一四〇
工	一四三
商	一四四
漁業	一四五
交通	一四六

本日地理教科書下卷目錄

目錄

十

住民	二四八
宗教	二五〇
教育	二五〇
都市	二五二
備考	二五四

第七章 山陽道

位置	二五五
廣袤	二五五
山脈	二五五
水理	二五六
氣候	二六一
物產	二六三
農	二六四

本日地理教科書下卷目錄

目錄

十一

工	二六六
商	二六七
製鹽	二六九
漁業	二七〇
交通	二七二
住民	二七五
宗教	二七七
教育	二七七
都市	二七八
備考	二八〇
第八章 南海道	
位置	二八三
廣袤	二八三

山脈	二八四
水理	二八五
氣候	二九〇
物產	二九一
農	二九三
工	二九四
商	二九五
漁業	二九六
交通	二九九
住民	三〇三
宗教	三〇五
教育	三〇五
都市	三〇六

目錄

十二

備考	三〇九
第九章 西海道	
位置	三一
廣袤	三一
山脈	三一
水理	三一
氣候	三一
物產	三一
農	三一
工	三一
商	三一
漁業	三一
製鹽	三一

目錄

十三

日本地理教科書下卷目錄

交通	三五二
住民	三五七
宗教	三六〇
教育	三六一
都市	三六三
州南諸島	三六六
琉球諸島	三六七
備考	三六八
第十章 北海道	
位置	三七一
廣袤	三七三
山脈	三七三
水理	三七九

目錄

十四

日本地理教科書下卷目錄

氣候	三九〇
物產	三九五
農	三九九
工	四〇〇
商	四〇一
漁業	四〇九
交通	四一〇
住民	四一一
宗教	四一七
教育	四一七
都市	四一八
備考	四二〇

中等教育 日本地理教科書下卷目錄終

目錄

十五

理學士 富士谷孝雄著

第六章 山陰道



山 陰 道

山陰道ハ丹波丹後但馬因幡伯耆出雲石見及ヒ隠岐ヲ以テ成リ本洲
西北ニ位シ北ハ日本海ニ瀕シ東ハ若狹近江山城及ヒ攝津ノ四州ニ
接シ南方及ヒ西方ハ一帯ノ連峯ニ由リテ山陽道ト分割セラレ之ヲ經
緯度ニ徴スルニ山陰道隠岐ヲ除クハ北緯三十四度十八分ヨリ同三十
五度四十八分ニ達シ東經百三十一度四十分ヨリ同百三十五度四十六
分ニ亘ル、

丹後ノ東岸並ニ出雲ノ北岸ヲ除クノ外ハ山陰道ノ海岸ハ極メテ凹
凸ニ乏シ而シテ本道ノ廣袤ヲ見ルニ丹波ノ東隅ヨリ出雲ノ松江ニ至

ル距離凡六十五里松江ヨリ石見ノ西境ニ至ルモノ凡三十八里南北ノ平均幅員ハ十五里ニ過キヌシテ本道ノ總面積壹千百九方里五分五厘ナリ就中隱岐二十一方里九分八厘
 前已ニ述ヘタル如ク中國ニハ東西ニ流走セル一帯ノ山脈アリ之即チ山陰山陽ノ兩道ヲ分割スルモノニシテ兩道ノ橫脈ハ皆此主山脈ノ餘波タルニ過キヌトス

日本地理教科書

山陰道ノ峻峯ニシテ實測ヲ經シモノヲ枚舉スレハ丹波ニ畑山(二六七九六尺)丹後ニ由良嶽(二二五七二尺)但馬ニ粟鹿山(三二六〇四尺)氷ノ山(四六二〇尺)因幡ニ扇ノ山(四七〇二五尺)那岐山(五二六〇二尺)鷲峯山(三二〇四三尺)伯耆ニ大山(五八七七三尺)出雲ニ琴引山(三五一二一尺)大萬木山(四〇五二四尺)石見ニ三瓶山(三八七〇九尺)大江ノ高山(二六一三六尺)青野嶽(三一三五尺)等アリ就中伯耆ノ大山ハ中國ニ冠タル高嶺ナリ
 山陰道ノ川河ハ横溪ニ依ルヲ以テ河道長大ナラス而シテ丹波ノ保

山陰道

津川、佐治川、大蛛川等ヲ除クノ外諸水概チ皆日本海ニ注入ス左ニ主要ナル川河ヲ記述スヘシ
 保津川ハ源チ丹波國桑田郡山谷ニ發シ途ニ弓削、大谷、園部等ノ諸水ヲ容レ、龜岡ヲ過キ、保津村ニ到リテ大堰川ノ名稱ヲ受ケ山城國葛野郡ニ入り桂川ト成ル水源ヨリ淀川マテノ長凡五十五里
 和知川ハ丹波國桑田郡佐々里村山谷ニ發シ途ニ高屋川、上林川等ヲ容レ、天田郡福知山ニ到リ福知川又音無瀬川ト稱シ、丹後ニ入りテ由良川ト成ル丹後州界ニ至ル長凡廿三里
 由良川ハ一ニ大川又大雲川ト稱ス、二箇村、地頭村等ヲ經テ北流シ、由良、神崎二村ノ間ニ到リテ海ニ入ル州界ヨリ長凡七里、丹波國福知山マテ舟楫ヲ通ス
 佐治川ハ丹波國氷上郡山谷ニ源ヲ發シ途ニ久下川ニ會シ、播磨多可郡ニ入り加古川ト成ル源ヨリ州界ニ到ル長凡九里

日本地理教科書

大、蜘蛛川ハ源ヲ丹波國多紀郡ノ山間ニ發シ、諸水ヲ容レ、氷上郡ニ入リテ久下川ト成リ、竟ニ佐治川ニ會ス、長凡十里、
 朝來川ハ源ヲ但馬國朝來郡ニ發シ、途ニ糸井川、廣谷川、八木川等ヲ容レ、又出石川ニ會シ、豐岡ノ東側ヲ過キテ海ニ入ル、長凡十六里、
 矢田川ハ源ヲ但馬國七味郡氷ノ山ニ發シ、途ニ小代川等ニ會シ、下流村ニ到リ海ニ入ル、長凡十三里、
 千代川ハ源ヲ因幡國智頭郡ニ發シ、俣川、土師川、佐治川、曳田川、八東川、靈川等ノ諸水ヲ容レ、高草郡賀露村ニ至リ、湖山池ノ餘流ヲ受ケテ海ニ入ル、長凡十二里、
 日野川又簸川ニ作ル、源ヲ伯耆國日野郡ニ發シ、途ニ二部谷川、尻燒川等ヲ容レ、皆生村今村ノ間ニ至リ海ニ入ル、長凡十七里、下流ニ米川ト稱スル分水アリ、境浦ノ西ニ至リ海ニ入ル、享保中開鑿スル所ニシテ、小流ナリト雖モ頗ル灌漑ニ便ナリ、

山陰道

大川又簸川ト稱ス、源ヲ出雲國仁多郡船通山ニ發シ、初メ西流シ、中頃北流シ、竟ニ一大彎曲ヲ爲シ、宍道湖ニ入ル、長凡二十里、大川ニ合スルモノニ室原川、龜島川、馬木川、阿井川、深野川、三刀屋川、久野川、阿用川、牛尾川等アリ、又本川ノ上流ニ横田川及ヒ斐伊川ノ名稱ヲ附ス、
 神門川ハ又乙立川或ハ古志川ト云フ、源ヲ出雲國飯石郡琴引山並ニ同郡女龜山ニ發シ、初メハ北流シ、後ニ西流シテ海ニ入ル、長凡十九里、馬木村ヨリ別ニ長溝ヲ鑿ツ、之ヲ十間川ト云フ、長二里、瀧三間下流神西湖ニ入ル、
 江川ハ一名石見川ト稱ス、源ヲ石藝兩州ノ界九瀬山ニ發シ、備後ヲ繞リ、邑智郡ニ至リテ復石見ニ入リ、初メ西北流シテ瀧原村ニ至リ、之ヨリ方向ヲ轉シテ西南シ、又西走シテ渡津ニ至リ海ニ入ル、長凡五十里、舟楫ノ通スル所、廿里、瀧三町十九間餘ニ達スル所アリ、
 高津川ハ二源アリ、一ハ石見國美濃郡上道川村ニ發シ、一ハ同國鹿足

日本地理教科書

郡田野原村ニ起リ、兩水横田ノ近傍ニ於テ合シ、更ニ北流シテ中島ニ至リ海ニ入ル、長凡十四里半、舟楫ヲ通スル七里許、
 山陰道ノ諸國ニハ湖沼夥多ナラスト雖モ、獨リ出雲ノ北岸ニハ三湖厓列シテ頗ル奇觀ヲ呈ス、又因幡及ヒ伯耆ノ沿岸ニモ湖沼アリ、出雲ノ諸湖ト殆ト一列ヲ爲ス、是蓋シ此近傍ノ地盤漸次隆起ノ海ノ一部陸中ニ擁塞セラレテ湖ヲ爲シタルモノナランカ、左ニ湖沼ノ著名ナルヲ列記セン、
 湖山池、ハ因幡ノ北岸ニアリ、周圍三里廿六町八間、東西一里、南北廿四町、中ニ青島アリ、湖水千代川ニ入ル、
 東郷池、ハ伯耆國河村郡ニアリ、周圍二里廿一町、東西廿四町、南北二十町、湖ノ下流上橋津村ヲ過キテ海ニ入ル、
 中海、ハ出雲ノ東北隅ニアリ、南伯耆州界ヨリ北島根郡本莊村ニ至ル五里餘、西意宇郡掛屋村ヨリ東伯耆國會見郡外江村ニ至ル三里十四町餘、而シテ周圍ハ十六里十一町ニ餘ルナリ、中江ノ海峽ニ依リテ海ニ通

山

陰

道

ス、中海ノ舊名ヲ意宇海ト云フ、海中ニ大根島及ヒ江島アリ、
 宍道湖、ハ出雲ノ北邊ニアリ、東西四里十町、南北大凡一里半ニシテ周圍十三里餘アリ、松江ノ南ヨリ馬瀨瀬戸ヲ經テ中海ニ通ス、
 神西湖、ハ出雲國神門郡ニアリ、昔神門湖ト稱ス、周圍一里廿三町餘、東西十二町餘、南北九町十五間、下流指海川ト成リ北海ニ入ル、左ニ山陰道ニ著名ノ礦泉ヲ列記スヘシ、

(泉名)	(泉質)	(温度)	(泉名)	(泉質)	(温度)
但馬湯島	鹽類	一三七 ^度	伯耆三朝	炭酸	一三七 ^度
但馬吉岡	礫類 硫黃類	一三四 九二	但馬岩井	鹽類	一一七
出雲玉造	鹽類	一四九	石見志學	鹽類	一〇八
石見溫泉津	鹽類	一一五	石見上有福	單純	一一四

山陰道ハ南ニ一帶ノ山脈ヲ構ヘ、北ハ日本海ヲ隔テ遠ク亞細亞大陸ト相對ス、以是其温度ハ緯度ニ比シテ低小ナルヤノ疑ヲ起スノ人アル

ヘシト雖モ沿海ニ黒潮ノ支流ヲ容ルニ依リ、氣候稍温和ナリ、蓋シ本道ニ於テハ唯境ニ測候所ヲ設置スルノミナレハ、未タ充分ニ氣候ノ如何ヲ辨明スルルヲ得スト雖モ、今境ノ觀測ヲ以テ加州金澤、長州赤間關等ノ觀測ト比較セハ、沿岸氣候ノ大要ヲ察知スルヲ敢テ至難ニ非サルヘシ、之ヲ數年ノ觀測ニ徴スルニ、三所ノ溫度左ノ如シ、

地名	溫度	
	最高	最低
金澤	八七、九〇	二九、三〇
境	八六、七二	三一、八五
赤間關	八五、八二	三四、八八
		平均
		五五、二二
		五六、八四
		五八、四六

明治廿一年及ヒ廿二年ノ觀察ニ依レハ、溫度ノ高低左ノ如シ、

地名	溫度	
	最高	最低
金澤	九三、七四	九四、八二
境	九一、七六	九二、二二
赤間關	九一、七六	九三、七四

日本地理教科書

山

陰

道

最低	平均	最高
二一、〇二	五四、三二	九三、七四
二一、九二	五五、二二	九四、八二
二二、六四	五六、六六	九一、七六
二四、四二	五七、七四	九二、二二
二七、五〇	五八、一〇	九一、七六
二八、七四	五九、五四	九三、七四

此兩表ニ徴シテ考フルニ、山陰道沿岸ノ寒暖ハ平均五十六七度ノ間ニアルヘシト雖モ、夏日ハ九十二度餘ニ達シ、嚴寒ノ節ニ際シテハ二十三度以下ニ降ルカ如シ、而シテ山村ノ溫度ハ平均五十度内外ニ居ルナラシ、若シ其レ氣壓並ニ濕度ノ平均及ヒ風ノ方向ニ至リテハ次表ニ就テ見ルヘシ、

地名	平均氣壓		平均濕度		雨量		風(多方向)
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	
金澤	七六、二二	七六、二二	八〇、〇	二五、五二	二五、五二	二五、五二	南東及
境	七六、二一	七六、二一	七六、五	一七、八四	一七、八四	一七、八四	北東及
赤間關	七六、二四	七六、二四	七六、五	一五、九七	一五、九七	一五、九七	北東及

山陰道ニ主要ノ地位ヲ占ムル物産ハ金、銀、銅、鐵、鉛、石炭、茶、藍、煙草、麻、漆、杉材、栗材、樅板、藥草、生糸、山蠶糸、綿絹織物、魚介、海藻等ナリ、

日 本 地 理 教 科 書

明治廿一年ノ調査ニ依ルニ、官行鑛業ニ係ハル鑛物ノ産出高ハ生野(但馬)ニ金八千六百四十二匁、銀五十七萬七千七百九十九匁、銅五千二百四十七貫目ナリ、又同年ノ民有鑛山ノ産出高ヲ視ルニ銀ハ丹波ニ一六七三匁、丹後ニ九、一二〇匁、但馬ニ八、〇四二匁、石見ニ二八九、〇八四匁、銅ハ丹波ニ一七、四〇二貫、丹後ニ三七、一貫、但馬ニ二一、三貫、因幡ニ六二〇貫、伯耆ニ一〇二貫、出雲ニ二五、三六九貫、石見ニ一、二八、五六〇貫、鐵ハ伯耆ニ八六七、四八一貫、出雲ニ一、〇〇四、二六四貫、石見ニ九四七、四九七貫、鉛ハ但馬ニ五四七貫、石炭ハ出雲ニ二五〇、五五五貫ナリ、而シテ出雲並ニ石見ハ我國ニ於テ最モ多ク鐵ヲ産スルモノナリトス、

本道ノ耕地ハ全面積ノ凡百分ノ十二半ニ該當シ、田地ハ十萬四千餘町ニ達ス、而シテ米ノ收穫概チ百十九萬石ナリ、本道全體ニ關スル麥類ノ收穫高ハ未ダ之ヲ詳ニセスト、雖モ鳥取縣(因幡、伯耆)ノ收穫ハ大麥一五、一三、四一石、裸麥二、二七、九五石、小麥一、九、一四、四石ニシテ、島根縣(出雲、

山

石見、隱岐)ノ收穫ハ大麥一三、三〇二石、裸麥一〇、九八二石、小麥一三、一〇五石ナリ、之ハ明治廿二年ノ統計ニ由ルモノトス、

山陽道ノ養蠶並ニ製茶業ニ關スル國別統計ハ之ヲ詳ニセス、故ニ右兩業ニ就テ細密ニ論述スルヲ得スト、雖モ、左ノ統計表ヲ觀察スレハ、兩業ノ概景一斑ヲ推知スルヲ得ヘシ、

畑積百ニ對スル桑園ノ比例

陰	道	山
丹波	一六、三	丹後
但馬	四九、二	因幡
伯耆	〇、六	出雲
石見	〇、一	隱岐
		未詳

桑園ノ總面積ハ凡四千五百十八町步ニシテ、就中二千四十一町步餘ハ但馬ニ、千二百九十八町步ハ丹後ニ、千四十町步餘ハ丹波ニ屬ス、島根縣及ヒ鳥取縣ノ繭蠶糸並ニ真綿ノ産出高、廿一年調査ヲ視ルニ、前者ニハ

日本地理教科書

繭千四百廿一石、蠶糸千二百五十七貫、真綿百五十三貫、後者ニハ繭六千三百五十六石、蠶糸三千七百八十九貫、真綿三百三十九貫ナリ、今此産額ヲ以テ全山陰道ノ産額ノ一半ト爲スモ蓋シ大ニ過キサルヘシ、何トナレハ養蠶ハ丹波、丹後及ヒ但馬ノ三國ニ於テ大ニ盛隆ヲ致セハナリ、
 山陰道ニ於ケル茶園ノ面積左ノ如シ、
 丹波 九一五^町三
 丹後 五四^町五
 但馬 一六二、一
 因幡 五三、七
 伯耆 九、三
 出雲 一一三、八
 石見 一〇二、八
 隱岐 一〇、〇
 合計 千四百廿壹町五段歩
 明治廿一年ノ統計ニ依リテ島根縣並ニ鳥取縣ノ製茶額ヲ視ルニ、實ニ十壹萬千四十二貫ナリ、然ルニ兩縣ノ茶園ノ廣袤ハ僅カニ二百八十九町六歩ニシテ、全道ノ茶園面積ノ殆ト四分一ナリ、故ニ山陰道全体ノ

山陰道

製茶額ハ凡五十萬貫ニ達スヘシ、
 山陰道ノ諸國亦多ク漆ヲ産ス、而シテ主要ナル産地ハ丹後、因幡、伯耆等ナリ、
 山陰道ニ較著ノ工業ヲ舉ンニ、丹波ニ貫編織、丹後ニ縮緬、紬編、製紙、但馬ニ鑛業、製紙、伯耆ニ製紙、木綿、出雲ニ木綿、玉細工、石見ニ鑛業、紙布、石細工等アリ、又諸縣ニ陶器並ニ漆器ヲ製ス、
 明治廿一年ノ統計ニ由ルニ島根縣カ産出セシ絹織物、木綿織物、絹綿交織物並ニ其他ノ織物價額合計ハ十二萬八千七百九圓ニシテ、鳥取縣ノ製出價額ハ總計九萬六千百卅八圓ナリ、此外亦帶地ノ製出アリ、其價額總計ハ島根縣ニテ十二萬八千八百十八圓、鳥取縣ニ九萬六千五百廿一圓ヲ爲ス、
 廿年ノ統計ニ由ルニ島根縣並ニ鳥取縣ニ於ケル紙類ノ製出價額ハ廿一萬七千七百五十四圓、陶磁器ノ製出價額ハ壹萬六千六百八十七圓

ナリ、但丹波、丹後、但馬等ニ係ハル織物、陶磁器並ニ製紙價額ハ未タ之ヲ詳ニセス、

山陰道ノ住民ハ専ラ農業並ニ漁業ニ從事シテ商業未ク盛隆ヲ爲サス、故ニ鳥取、倉吉、米子並ニ境ノ四ヶ所ヲ合シテ僅カニ問屋十七、仲買二百廿八、卸賣百五十九アルノミ、國立銀行ハ石見、國津、和野ニ一、其拂込資金八萬圓、因幡國鳥取ニ一、其拂込資金二十萬圓ナリ、廿一年調査、又廿年ノ調査ニ依レハ鳥取縣ニ私立銀行一、其資金五萬圓、銀行類似會社三、其資金三萬六千五百圓、島根縣ニ私立銀行一、其資金六萬圓、銀行類似會社五、其資金八萬九千百圓アリ、

明治廿年貨物十萬圓以上搭載シテ鳥取縣ニ出入セシ船舶ヲ調査スルニ、涼船ニ於テハ出港八百五艘、其噸數七萬九千三、入港同上、西洋形帆船ニ於テハ出港三十四艘、其噸數五千五百、入港同上、日本形船ニ於テハ出港四千八十二艘、其石數三十六萬十七石、入港四千七十艘、其石數三十

日本地理教科書

山

陰

道

五萬九千三百九十九ナリ、

山陰道ハ漁業盛隆ノ地ニシテ、沿海ニハ鱈、鱈、鮭、鯛、鰯、鯖、海鼠等ヲ産ス、海藻ノ收獲亦少ナカラス、而シテ丹後ノ近海ニ往々鯨出沒ス、明治廿年ノ調査ニ依ルニ鳥取縣ニ於テハ漁人壹萬七百四名、漁船二千三百七十艘、島根縣ニ於テハ漁人二萬四千八十四名、漁船壹萬四千四百八十六艘アリ、然ルニ鳥取及ヒ島根ノ兩縣ハ山陰道沿岸ノ凡三分ノ二ヲ占ムルニ過キス、然レハ則チ全道ノ漁人ハ大約五萬二千名ニ達スヘシ、

明治廿一年ノ調査ニ依ルニ、鳥取及ヒ島根ノ兩縣ニ於テ收獲セシ重要ノ海產物左ノ如シ、但收獲價額壹萬圓以下ノモノハ之ヲ省ク、

	鰻	鱒	鮭	鰯	鯛	鳥賊
鳥取	二五、七七一	三三、〇二一	一九、二〇二	一〇、八七九	六、四三三	九九、六〇五
島根	四三、四三一	—	—	九、二四二	二四、四七四	一三、九四〇
肥料ニ於テハ鳥取縣ニ乾鰻四萬七千五百三十八貫、島根縣ニ三十二萬						

日本地理教科書

三千四百廿九貫ノ收穫アリ、而シテ重要海産ノ收穫總價額ハ鳥取縣ニ十五萬三千九百四圓、島根縣ニ三十五萬七千四百四十七圓ヲ爲ス、又京都府ノ海産物收穫價額ハ八萬五百十五圓ナリ、然ルニ京都府ニシテ海産ヲ獲ヘキ場所ハ單ニ丹後ノ近海アルノミ、故ニ此ノ京都府ノ收穫ハ即チ山陰道ノ獲收ノ一部ヲ爲スモノナリ、然レハ則チ本道ノ海産收穫價額ハ凡五十一萬千八百六十八圓ニシテ、之ニ但馬ノ收穫價額ヲ加ヘタルモノナリ、而シテ但馬ノ收穫ハ未ダ之ヲ詳カニセスト雖モ、山陰道全體ノ收穫ハ凡六十萬圓ト看做シテ大差ナカルヘシ、是漁夫一人ニ對シテ平均十圓餘ノ收穫アルニ該當ス、

山陰道ニハ鐵道ノ布設ナク、道路モ亦善良ナラス、交通ノ便未ダ宜シキヲ得タリト云フヲ得ス、然レトモ島根並ニ鳥取ノ兩縣ニシテ國道百十六里、縣道百四十七里餘アリ、今主要ノ郵便線路ヲ枚舉スレハ、丹波國龜岡ヨリ園部、松山、福知山、由良等ヲ經テ丹後國宮津ニ至ルモノ廿九里九

山陰道

町餘、宮津ヨリ峯山、豐岡等ヲ經テ但馬國和田山ニ至ルモノ廿三里廿一町餘、因幡國鳥取ヨリ倉吉、米子等ヲ經テ出雲國松江ニ至ルモノ卅六里二町餘、松江ヨリ今市、大森等ヲ經テ石見國濱田ニ至ルモノ廿四里四十一町餘、松江ヨリ大東、赤石等ヲ經テ備後國三次ニ至ルモノ三十里廿八町餘、鳥取ヨリ智頭ヲ經テ播磨國佐用ニ至ルモノ十九里十五町ナリ、而シテ郵便線路ニ沿フテ必ス電信線ノ設ケアリ、郵便局ノ數ハ島根縣ニ八十二、鳥取縣ニ三十四アリ、又丹波ニ四十五、丹後ニ廿二、但馬ニ廿九ノ郵便局アリ、故ニ山陰道ノ郵便局數ハ凡二百十二ニシテ、電信局ハ凡十ヶ所アリ、丹波、丹後並ニ但馬ノ電信線長ハ未ダ之ヲ詳ニセスト雖モ、鳥取並ニ島根兩縣ノ電信線ハ長サ九十七里五分九厘ヲ爲ス、

海路ノ主要ナルモノニハ伯耆國境港ヨリ越前國敦賀ニ至ルモノ百四十六里、隱岐國西郷ニ至ルモノ四十五里、同國浦郷ニ至ルモノ四十八里、石見國濱田ニ至ルモノ九十四里並ニ長門國赤間關ニ至ルモノ二百

日本地理教科書

三漣アリ、
 港灣ノ主要ナルモノハ丹後ノ舞鶴(深八俣餘)宮津(深八俣乃至十俣)平田(深八俣)但馬ノ諸崎(深十六俣)丹生(深三俣)因幡ノ田後(深二俣乃至三俣)網代(深二俣四尺)伯耆ノ境(深四俣乃至五俣)出雲ノ美保關(深五俣乃至十俣)加賀浦(深同上)安來(深一俣乃至五俣)宇龍浦(深二俣乃至五俣)鷺浦(深四俣乃至九俣)江角浦(深一俣乃至十二俣)石見ノ犬浦(深十俣)温泉浦(深十二俣)外ノ浦(深同上)瀬戸島(深五俣二尺)長濱浦(深八俣)隱岐ノ知夫(深十一俣)一尺浦ノ郷(深六俣一尺)知々井(深十俣)西郷(深同上)加茂浦(深五俣五尺)福浦(深二俣乃至九俣)トス、

明治廿一年ノ調査ニ依ルニ、鳥取並ニ島根ノ兩縣ニ屬スル船舶ニ漁船五艘其噸數百六十四、西洋形帆船二艘其噸數百五十六、日本形船舶五百十二艘其石數六十一萬二千二百九十五アリ、

山陰道ノ人民ハ概テ皆稼穡或ハ漁業ニ從事シ、性質淳朴ニシテ往々

野卑ノ風俗ヲ免レサルモノアリ、然レトモ本道ノ中部ニハ農商相半シ、商業盛旺ノ地ナキニ非ス、

山 明治二十一年ノ調査ニ由ルニ、山陰道ノ總人口ハ百八十萬八千七百八十三ニシテ就中三萬三千四百四十七ハ隱岐ニアリ、又陸部ハ一方里ニ千六百卅二ノ人口ヲ有シ、隱岐ハ同面積ニ千五百廿八ヲ有ス、

陰 國別ニ從フテ人員ノ疎密ヲ調査スルニ左ノ割合ヲ得、而シテ此調査モ亦廿一年ノ統計ニ基クナリ、

道	國	人口	面積	一方里ノ人口
丹波		三三〇、九四九	二〇六、六七	凡一、六〇一
丹後		一七二、六九九	七七、〇〇	凡二、二四三
但馬		二一一、五二三	一六五、九〇	凡一、二七四
因幡		一七七、二一六	九八、五九	凡一、七九七
伯耆		二二〇、六八九	一二五、五七	凡一、七六六

日本地理教科書

出雲 三五九、九三一 一八二、五八 凡一、九八二
 石見 三〇二、三二九 二二三、三五 凡一、三〇一
 隠岐 三三、四四七 二一、八九 凡一、五二八
 然レハ則チ山陰道ニ人口最モ稠密ナルハ丹後ニシテ最モ稀薄ナルハ但馬ナリ、

出雲ハ古來神道信徒ノ尊崇セル地ニシテ、出雲大社ノ如キハ我風俗ニ影響チ及ホセシテ蓋シ少シトセス、本道ニ國幣社以上ノ神祠十二アリ、縣社以下ノモノハ數千ヲ以テ算フヘシ、然レトモ佛教ノ波及モ亦狹隘ニ非ス、就中曹洞宗最モ勢力アルニ似タリ、丹波ノ如キハ同宗ノ寺院三百餘ニ達シ、隠岐ノ孤島ニ於テモ曹洞宗ハ五ヶ所ノ寺院チ有ス、本道ノ諸國ハ未タ教育普及ノ地ト云フチ得ス、然レトモ已ニ幾多ノ小中學並ニ師範學校ノ設立アリ、國別ニ從ヒ左ニ學校並ニ生徒ノ多少ヲ示サン、(明治廿一年調査)

山陰道

國	校數		生徒數	
	小學	中學	小學	中學
丹波	一七七		二一、四六七	
丹後	一〇六		一一、二七七	
但馬	一五二		一〇、四一八	
因幡	一九〇		一一、三四〇	一一三
伯耆	二一五		一一、七九九	
出雲	三四二	一	二六、二七八	一六九
石見	二六六		二七、一六七	一〇九
隠岐	三四		二、五〇八	

右表ニ由テ視ルニ學校ノ數並ニ學齡者ノ修學スルモノ多キハ石見及ヒ出雲ニシテ、校數修學者ノ兩者少ナキハ但馬因幡ノ二國ナリ、隠岐

ハ校數少シト雖モ學齡者百中ニ修學者四十五二分八厘アリ、之ヲ要スルニ本道ノ學齡者ニシテ修學スルモノ、平均比例ハ百ニ對スル四十六六分八厘ナリ、故ニ修學者ノ數ハ未タ學齡者ノ半數ニ及ハストス、明治廿一年ノ統計ニ依リテ視ルニ、人口一萬以上ヲ有スル都市左ノ如シ、

松江(出雲) 三三、三二四

鳥取(因幡) 二六、〇二二

米子(伯耆) 一二、九四八

日本地理教科書

松江ハ出雲國ノ東北隅ニアリ、宍道湖並ニ中海ノ間ニ位ス、市坊凡三十、戶數七千八百餘、市街ヲ瀬戸ノ兩涯ニ開キ、湖上ノ風景幽雅ナリ、運輸ノ便頗ル宜シク、商業亦盛ニシテ實ニ山陰道第一ノ都會トス、鳥根縣廳ヲ此ニ置ク、鳥取ハ因幡國ノ北邊ニアリ、加露川ニ瀕ス、市坊凡七十、戶數五千ニ過ク、鳥取縣廳ノ所在地ニシテ、市ニ製蠟ノ業盛ナリ、

山

米子ハ伯耆國ノ西北ニ位シ、中海ニ瀕ス、市坊凡三十、戶數二千七百餘、港ニ碇泊ノ便アリ、深サ一仞一尺、是亦山陰道ニ繁華ノ地ニシテ、素麵及ヒ車海老等ノ産アリ、

右ノ外丹波ノ龜山、丹後ノ宮津、但馬ノ豊岡、石見ノ津和野等ハ皆本道ニ著名ノ都市ナリ、就中宮津ノ如キハ日本海瀕ノ一良港ナリ、港内ニ帆船林立シテ、商業ノ模様頗ル活潑ナリ、

隱岐羣島

陰道

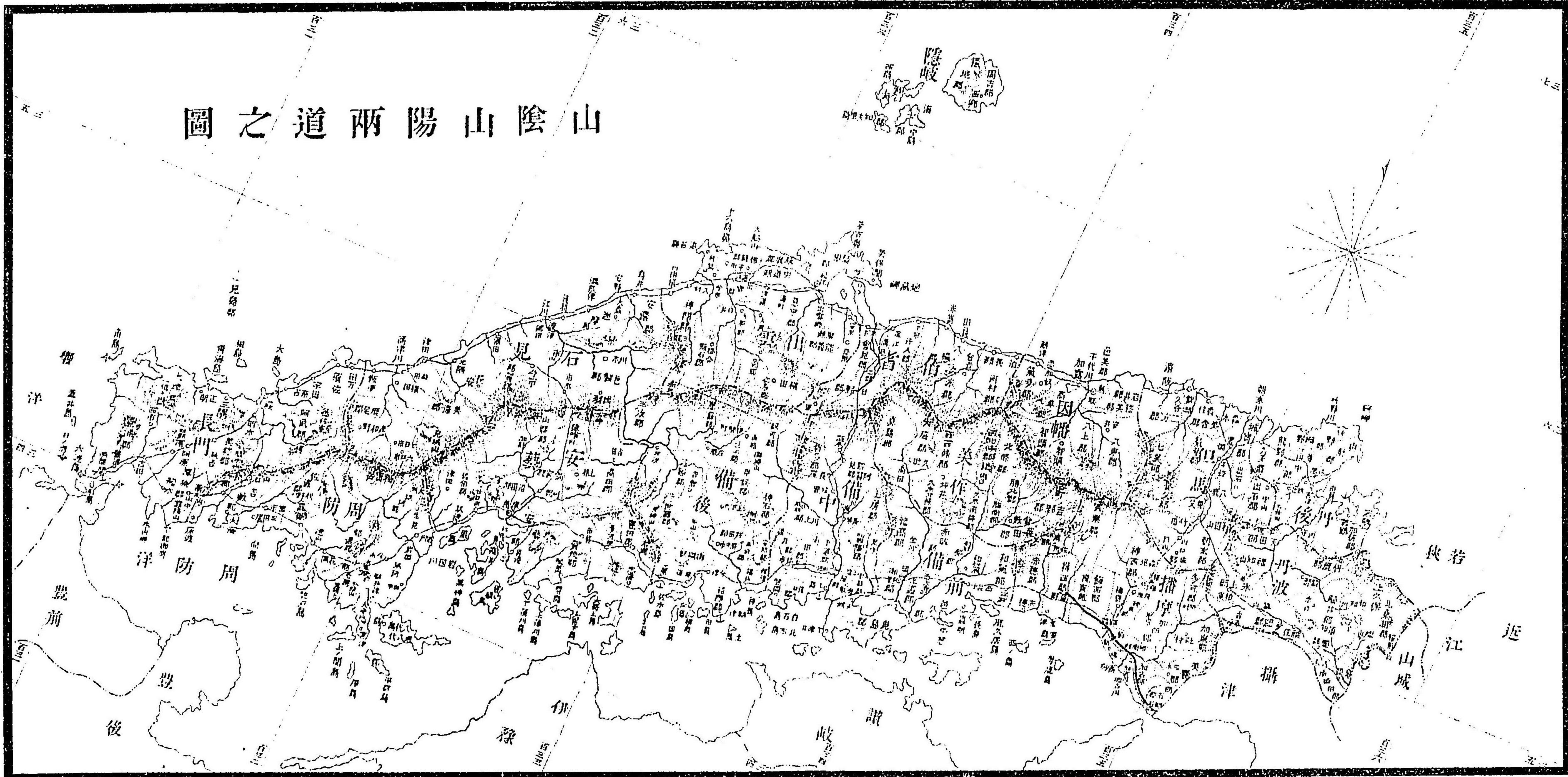
隱岐羣島ハ出雲國島根郡加賀浦ノ西北ニアリ、海上四十五哩ニシテ、達スヘシ、四個ノ主島ヲ以テ成ル、知夫島(周圍六里卅一町餘、東西一里十五町、南北廿五町)、西ノ島(周圍廿里廿六町餘、東西三里廿町、南北二里)、中ノ島(周圍十六里廿一町餘、東西一里三十町、南北一里廿四町)、三島ヲ前島ト云ヒ、他ノ一島ヲ後島ト稱ス、後島ハ中ノ島ヲ去ル凡三里、周圍三十一里半、東西四里、南北五里ニ近シ、羣島ノ總面廿一方里八分九厘、島中ニ高

山ナク又固ヨリ長川ナシ極暑九十度極寒三十度ナリト云フ物産ニ樅板桑板杉板和布荒布鱒鮭鰻海參干鰾牛馬等アリ

(備考)

岬角 成生岬博奕岬無雙岬天橋立波見岬鷺岬丹後猫岬餘部岬鬼門岬(但馬)向磯鼻長尾鼻(因幡)地藏岬多古鼻矢利鼻追石鼻十六島鼻(出雲)松鼻能仁寺鼻榮螺島鼻(石見)長尾岬知井岬西郷岬白島鼻那久崎(隱岐)海峽 境峽(伯耆)中江馬瀉瀬戸(出雲)赤灘迫戸(隱岐)屬島 冠島小島毛島(丹後)築島大根島江島(出雲)櫛島瀬戸島馬島高島(石見)島津島松島大森島(隱岐)

山陰山陽兩道之圖



第七章 山陽道

山陽道ハ播磨美作備前備中備後安藝周防及ヒ長門ヲ以テ成リ北ハ
一帯ノ山脈ニ依リテ山陽道ニ界シ東ハ丹波及ヒ攝津ニ隣シ南ハ所謂
ル瀬戸内ヲ隔テ四國ニ對シ周防灘ヲ以テ豊前並ニ豊後ト別レ長門ノ
西方ハ日本海ノ一部ナル響洋ニ面ス即チ山陽道ハ北緯三十三度四十
八分ヨリ同三十五度廿分ニ至リ東徑百三十度五十分ヨリ同百卅五度
十分ニ達スルモノナリ

播磨ノ東端ヨリ長門ノ西端ニ至ル直徑凡九十八里東徑百卅三度ニ
於ケル濶凡二十里同百三十四度ニ於ケル濶二十二里餘ニシテ本道ノ
總面積ハ壹千五百七十方里二分七厘ナリ

本道ノ北方ニハ一帯ノ東西山脈アリ其波脈沿海ノ地ニ延長ス左ニ
較著ノ山峯ヲ列記スヘシ

主山脈ニ屬スヘキ峻峰ニハ播磨ニ笠形山(三、四、五、八、四尺)備中ニ荒戸

日本地理教科書

山(二、五一、一三、尺)大佐山(三、〇二、九、四、尺)安藝ニ鷹ノ巢山(三、二九、六、七、尺)刈尾山(四、三、一、九、七、尺)鬼ヶ城山(三、五、三、七、六、尺)長門ニ德佐ヶ峯(三、二、八、〇、二、尺)鬼ヶ城山(二、一、三、一、八、尺)アリ支脈ニ屬スヘキハ播磨ノ書寫山(一、三、一、六、七、尺)備前ノ熊山(一、七、三、五、八、尺)備後ノ熊ヶ嶺(一、三、八、六、尺)安藝ノ極樂寺山(一、八、九、四、二、尺)御山(一、八、〇、八、四、尺)周防ノ矢筈ヶ嶽(一、四、六、八、五、尺)羅ヶ嶽(一、六、一、〇、四、尺)等トス、

山陰道ノ諸川ハ前已ニ述タルカ如ク概テ皆横溪ニ從フテ北流スルト雖モ山陽道ノ河水ハ之ニ反シテ南流スルヲ常トス而シテ長門ノ川河ヲ除キ他ハ盡ク瀬戸内並ニ周防灘ニ注入ス、

本道ニ著名ノ川河ヲ枚舉スレハ播磨ニ加古川市川揖保川千種川美作ニ津山川高田川備前ニ東大川西大川備中ニ大川備後ニ蘆田川三次川西城川櫃田川安藝ニ沼田川大田川周防ニ岩國川佐波川椹野川長門ニ阿武川等アリ左ニ之ヲ詳述スヘシ、

山 陽 道

加古川ハ丹波ノ佐治川ノ下流ナリ其播磨ニ入ルヤ南南西流シ加古驛ノ西ニ至リテ二流ト成リ一ハ高砂ニ於テ海ニ入り一ハ荒井ニ至リ海ニ入ル州界ヨリノ長十九里、

市川ハ但馬國朝來郡ヨリ來リ殆ト南流シ姫路ノ東ヲ過キ飾磨津ニ至リ海ニ入ル水源ヨリノ長凡十二里、

揖保川ハ但馬因幡州界ニ源ヲ發シ山崎龍野等ヲ經過シ揖西郡濱田及ヒ揖東郡新在家ニ至リ海ニ入ル長凡十五里、

千種川ハ源ヲ宍粟郡舟越山ニ發シ南流シテ赤穂ノ東ニ出テ川口ニ流テ爲シテ海ニ入ル長凡十五里、

津山川ハ源ヲ西條郡ニ發シ彎流シテ津山ニ至リ之ヨリ河道ヲ南ニ轉シテ備前ニ入ル長十九里餘、

高田川ハ美作ノ西北隅ナル上徳山龍王池ニ源ヲ發シ眞島中村ノ諸村ヲ通過シ福渡村ヲ經テ備前ニ入ル州界マテノ長凡廿四里半、

日本地理教科書

東大川ハ津山川ノ下流ナリ、赤坂郡周匠村ヨリ東南流シ、熊山ノ西麓ヲ過キ、復タ南々西流シ、上道郡沖新田ニ至リ海ニ入ル、界州ヨリノ長凡十一里、

西大川ハ高田川ノ下流ナリ、岡山ノ東ヲ過キ、福島村ニ至リテ海ニ入ル、州界ヨリノ長十三里餘、

大川ハ上流ヲ高梁川又松山川ト云ヒ、下流ヲ河邊川ト稱ス、源ヲ伯耆州界ノ茗荷嶺ニ發シ、州ノ中央ニ東南流シ、途ニ成羽川、江原川等ヲ容ル、河水二道ヲ爲シ、一ハ備前兒島郡浦田ニ至リテ海ニ入リ、一ハ淺口郡西ノ浦ニ至リ海ニ入ル、長二十八里、

櫃田川ハ州ノ北隅、西城川ハ州ノ東北隅、三次川ハ州ノ中央ニ發源シ、皆合シテ石見ノ江河ヲ爲ス、

蘆田川ハ二源アリ、一ハ世羅郡ニ發シ、一ハ甲奴郡ニ起ル、東南流シテ府中市ヲ經、福山ノ東ヲ過キ、水呑村ニ至リ海ニ入ル、長凡十一里、河口ニ

山陽道

一支流アリ、木端村ニ至リ海ニ朝ス、

沼田川ハ源ヲ豐上郡防壽山ニ發シ、東南流シテ本郷ヲ過キ、野田浦ニ至リ海ニ入ル、長十一里、

大田川ハ二源アリ、一ハ佐伯郡吉和村山中ニ、一ハ山縣郡刈尾山ニ發シ、戸河内村才原ニテ相合シ、暫シ東南流シ、可部ノ近傍ニ至リテ南ニ折レ、廣島一本木北端ニ至リ、數流ニ別レテ海ニ入ル、長凡二十三里、

岩國川ハ源ヲ石見州界ノ山中ニ發シ、最初南流シ、長穗ニ至リテ、樹曲シテ北ニ走リ、廣瀬ニ出テ復タ南ニ向ヒ、夫ヨリ東東南ノ方向ヲ取リ、岩國庄ヲ過キテ海ニ入ル、長凡廿四里、河口ヨリ凡九里間、舟楫ヲ通ス、岩國庄錦見及ヒ横山ノ間ニ長橋アリ、錦帶橋ト云フ、長百廿五間、

佐波川ハ源ヲ佐波郡抽木村山中ニ發シ、途ニ三谷川、島地川等ヲ容レ、佐波令ヲ過キ、西浦村ニ至リ海ニ入ル、長凡十四里、河口ヨリ九里餘、舟楫ヲ通ス、

日本地理教科書

水理

二百六十一

樺野川ハ源ヲ吉敷郡仁保村山中ニ發シ西南流シテ山口ヲ過キ名田島ノ西ニ至リ海ニ入ル長凡七里河口ヨリ凡二里間舟楫ノ便アリ、阿武川ハ一ニ萩川ト稱ス源ヲ石見國鹿足郡界阿武郡片俣村山中ニ發シ左折右曲初メ西南後ニ西西北ノ方向ニ從ヒ流走シ萩ノ西ニ至リ海ニ入ル長凡十五里四里間舟楫ヲ通ス、右ニ記述セルモノノ外長門ノ厚東川厚狹川吉田川粟野川等ハ皆多少舟楫ノ便ヲ有ス而シテ山陽道ノ長川ハ概テ皆河口ニ所謂ル三角洲ナルモノアリ學者ノ宜シク注意スヘキ點トス、

本道ニハ廣大ノ湖沼ナシ獨リ長門ノ常盤池ノミ周圍三里ニ餘ルナリ次ニ破泉ノ著名ナルヲ列記スヘシ、

備前西山内	炭酸	六六度	湯郷	鹽類	九六度
湯本	單純	九二	美作湯原	鹽類	一二二

(泉名) (泉質) (温度) (泉名) (泉質) (温度)

山陽道

長門	湯町	單純	九三	眞賀	炭酸	一〇四
	鍵湯	鹽類	九一	郷録	鹽類	九四
山陽道	持世寺	單純	未詳	周防湯田	鹽類	一一〇
	大坂	八九〇六	三〇五六	五八一〇		
廣島	八八三四	三一一〇	五八一〇			
赤間關	八五八二	三四八八	五八四六			

山陽道ノ測候場ニシテ設立以來已ニ數年ヲ經タルモノハ唯廣島及ヒ赤間關ノ兩所ノミナリ左レハ此兩所ノ概測ヲ以テ大坂測候所ノ觀測ト比較セハ本道沿岸ノ氣候ノ概要ハ之ヲ推知スルヲ得ヘシ數年ノ實測ニ徵スルニ三測候所ニ於ケル寒暖ノ平均左ノ如シ、

明治廿一年及ヒ廿二年ノ觀測ヲ視ルニ廣島ノ最高温度九十四度二分八厘及ヒ九十三度七分四厘最低温度二十三度及ヒ廿三度七分二厘平

水理氣候

二百六十一

均溫度五十七度七分四厘及ヒ五十八度四分六厘赤間關ノ最高溫度九十一度七分六厘及ヒ九十三度七分四厘最低溫度二十七度五分及ヒ廿八度七分四厘平均溫度五十八度一分及ヒ五十九度五分四厘ナリ故ニ本道沿岸ノ平均寒暖ハ五十八度一分乃至五十八度四分六厘ニシテ極暑九十三度餘極寒ハ廿三度ニ達スルコトアリ氣壓並ニ濕度ノ平均及ヒ雨量風ノ方向等ハ之ヲ次表ニ明示ス、

	平均氣壓	平均濕度	雨量	風(多方向)
大坂	七六二、一	七七、〇	一、四二八、八	北東及西
廣島	七六二、四	七七、〇	一、四一一、四	北及南
赤間關	七六二、四	七六、五	一、五九七、八	北東及西

前諸表ニ載スル所ヲ以テ山陰道ノ氣候ト對照セハ中國氣候ノ概要ヲ知ルヲ得ヘシ今之ヲ約言センニ中國沿岸ノ寒暖ハ平均五十六度八分四厘乃至五十八度四分六厘氣壓ハ平均七十六十二佛厘一分乃至七

日本地理教科書

山陽道

百六十二佛厘四分雨量ハ千四百十一佛厘四分乃至千七百八十四佛厘四分ナリ而シテ南岸ノ北岸ヨリ温暖ナルハ平均二度北岸ノ雨量ハ南岸ヨリ多キコト凡二百佛厘ナリトス、

山陽道ニハ農工商ノ三業共ニ稍盛隆ヲ爲シ、鑛山ニモ亦觀ルヘキモノ少ナカラス且本道ノ諸州大ニ漁鹽ノ利ニ富ム、鑛産ノ主要ナルモノニハ金、銀、銅、鐵、石炭、陶土、建築石材等アリ、而シテ播州ノ製鹽業ハ日本ニ冠タルモノトス、

明治廿年ノ調査ニ依ルニ鑛物ノ産物左ノ如シ、

	金	銀	銅	鐵	石炭
播磨	五四六、 <small>タ</small>	二五二、二七八、 <small>タ</small>	三六、四〇八、 <small>タ</small>	一六、九二〇、 <small>タ</small>	
美作		二、四七七	七六、八三五	一一九、九三三	
備前		四、七八七	九、〇一三		五〇〇、六四四
備中		一、九三九	一五八、八五〇	一四二、三〇三	一九六、七〇〇

日 本 地 理 教 科 書

備後	安藝	周防	長門
二、五、一、四			
一〇、〇、九、六	二、二、八、六		五、一、六、五
五、二、二、六、四、一	三、六、六、二、八		
		七〇、四、九、二	八、〇、四、四、二、八、五

右ノ表ニ就テ視察スルニ金ハ唯播磨ノ一國ニ産シ石炭ハ備前備中周防長門ノ四國ニ出ツ而シテ山陽道ノ鐵ノ産出高ハ全國ノ産出高ノ三分一強ニ當ルナリ然レハ則チ本道ヲ以テ我國ノ主要ナル鐵産出地ト稱スルモ敢テ過言ニ非ラサルヘシ、

山陽道ノ北部即チ巒峯起伏ノ地ハ耕耘ニ便ナラスト雖モ沿海ノ平地ハ概チ豐饒ニシテ五穀能ク成熟ス農産ノ主要ナルモノニハ米麥ヲ初メトシテ烟草茶藍葉麻類蕎麥草等アリ左ニ本道諸州ノ田積並ニ畑積ヲ列舉スヘシ、

氣候農

二百六十四

國名

田

積

畑

積

山 陽 道

播磨	美作	備前	備中	備後	安藝	周防	長門
五四、七、〇、六、二	一九、七、二、三、七	二七、三、五、九、三	二七、七、八、五、七	三三、一、一、八、七	四〇、二、七、九、九	三〇、七、二、八、〇	二七、八、〇、七、一
一三、六、九、三、七	六、二、一、二、八	七、三、二、三、四	一八、七、八、六、六	一六、八、三、四、三	一七、六、九、〇、三	一一、六、四、二、七	一〇、八、六、一、一

茲ニ亦輓近ノ調査ニ依リ岡山縣、廣島縣並ニ山口縣ノ米、麥、養蠶、製茶、烟草等ニ關スル統計ヲ舉ケ、本道ノ農况一斑ヲ示サントス、

米	麥
九三三、〇、五、一	五一五、五、〇、一
七七〇、三、六、四	五三六、一、一、八
一一三、二、〇、四、七	四三一、四、六、六

農

二百六十五

日本地理教科書

繭	二六〇一	一二七七	一四五八
蠶糸	二二〇四	一二六一	一〇二四
製茶	一五〇六一四	一六四三〇三	一八四一四三
烟草	四九一八六六	三四七二〇一	一二七七一
藍葉	四一七五一九	四六七五九九	一〇四五二六
實綿	一四六七二六三	一五〇三四九二	三三〇四六七
麻類	一三九〇〇	五七二五九九	六〇六四〇

而シテ米ノ收穫ハ一反歩ニ付平均一石貳斗ナリ、今山陽道ノ田地廿六萬五百廿町歩トシ、皆之ヲ稻作ニ供スルモノトハ其收穫ハ凡三百十二萬六千二百四十石ニ達スヘシ、

本道ニ著名ノ工業ヲ枚舉スレハ播磨ニ明石織、高砂織、製紙、鞆草、美作ニ雲齋織、製紙、鑄物、備前ニ小倉織、真田織、刀劍、陶器、酒、醬油、製糖、備中ニ柳行季、鑄物、製紙、備後ニ木綿織、鐵器、壘表、安藝ニ麻糸、山繭、紬、吳紬、鑄物、周防

山陽道

木綿織	二五一、九二三	二三一、一一三	九二一、四〇二
陶器	一一、三三五	一、七七九	一二、九〇五
壘表類	一四四、八四六	一〇九、八二五	一〇、四七
酒類	八二、六八四	六九、六八九	七一、四七四
醬油	六四、三八九	三〇、八八七	三四、四八四

ニ紙類、綿布、長門ニ陶器、藤細工、竹細工等アリ、左ニ岡山、廣島並ニ山口三縣ノ主要ナル物器ノ製造物高若クハ價額高ヲ示サン、

岡山縣ニハ玉島、岡山並ニ下村ノ三紡績會社アリ、明治廿二年ノ調査ニ由ルニ三會社ノ錘數合計ハ壹萬九千四百五十二ニシテ、綿糸出來高ハ六十七萬七千九百九十五貫ナリ、

山陽道ハ東ニ京都及ヒ大坂ヲ構ヘ、西ニ九州ノ阪路アリ、又水運ノ利

日本地理教科書

頗ル宜シキヲ以テ古來商業盛隆ヲ極ム、就中播磨ノ姫路、飾磨津、美作ノ津山、備前ノ岡山、備中ノ玉島、備後ノ福山、尾ノ道、三原、安藝ノ廣島、周防ノ山口、岩國、徳山、長門ノ赤間關、萩等ノ如キハ商家ノ往來頻繁ニシテ、貿易亦活潑ノ狀ヲ呈ス、岡山、津山、玉島、廣島、尾ノ道、三次、山口、萩並ニ赤間關ニ於ケル問屋ノミニシテ其數已ニ二百六十餘ニ達ス、

國立銀行ハ姫路、明石、龍野、岡山、高梁、尾ノ道、廣島、岩國、赤間關等ニアリ、其拂込資本合シテ百八十六萬圓ヲ爲ス、

明治廿年ノ調査ニ依ルニ貨物十萬圓以上ヲ搭載シテ岡山、廣島、山口ノ三縣ニ出入セシ船舶左ノ如シ、

出港	源船		岡山縣	廣島縣	山口縣
	噸數	船數			
西洋形	五八、七〇〇	九〇七	七	三三、三二六	六、八六七
	噸數	噸數			
西洋形	七	一、四八九、二三〇	一、二八	一、二八	六、一五

山陽道

入港	帆船		漁船		日本形	噸數
	噸數	船數	噸數	船數		
西洋形	六〇〇	七	五八、七〇〇	九〇七	一七、〇九〇	六〇〇
	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數
日本形	一七、三四八	二二、五四四	三六、二七六〇	三三、三二二	五六五、九五〇	二一、四四四
石數	五七一、七七八	二五、八六四	一一八	一一八	二、八〇八、九七五	二二、六四四
石數	二、八一五、五七五	七、七〇五、八四七	二、三一、四五五	三、五、〇一〇	七、五九一、四七二	三五、〇〇四
石數	七、七〇五、八四七	三、五、〇一〇	一、九四五、三八六	六、二七	七、五九一、四七二	六、八六九

美作ヲ除クノ外山陽道ノ諸州ハ多少皆製鹽ノ業アリ、殊ニ播州赤穂鹽ノ如キハ三才ノ童子ト雖モ著名ノ製鹽ナルヲ知ラサルモノハ殆稀ナリ、明治廿一年ノ調査ニ依ルニ岡山、廣島、山口三縣ノ製鹽景況左ノ如

日本地理教科書

鹽田 岡山縣 四九七^町二
 食鹽產額 四三八、九五九^石
 廣島縣 五七六^町〇
 四四三、五二六^石
 山口縣 八六四^町二
 九五九、四二八^石

而シテ兵庫縣ノ鹽田ハ九百十二町二反食鹽產額ハ七十八萬七千四百四十壹石ナリ、然ルニ兵庫縣ノ食鹽ハ主ニ播州ノ産ニ係ルナリ、然レハ則チ山陽道ノ食鹽總產額ハ少クモ二百六十二萬九千石餘ニ達スヘシ、之實ニ日本國食鹽產ノ一半ニ超過スルモノナリ、

瀬戸内ノ海水魚介充滿、天氣晴朗風波隱和ナルトキニ當リ和船ニ乗シテ徐々此邊ヲ航行セハ、漁船ノ水上ニ進退スルノ觀ハ恰モ秋天ニ雁行ノ駢列スルヲ見ルニ似タリ、而シテ其捕獲スル所ノモノニ至リテハ鯛、馬鮫魚、比目魚、鰯、鰒、烏賊、章魚、鱸、海參、蛸等アリ、藝州ハ蛸ノ産ヲ以テ特ニ著名ナリ、之ヲ統計ニ徵スルニ山陽道ノ漁人ノ數ハ凡九萬八千ニシ

山陽道

テ漁船三十餘艘ヲ有シ、其主要ナル海産物ノ収獲ハ百四十三萬圓ニ超過ス、漁業ノ盛ナル亦以テ推知スルニ足ルヘシ、明治廿一年岡山、廣島及ヒ山口ノ三縣ニ於テ一萬圓以上ノ收獲アリシ海産物ヲ列記シテ、讀者ノ參考ニ供ス、但一萬圓以下ノ數ハ除ク、

魚類	岡山縣	廣島縣	山口縣
鰯	四一、八七一 ^町	三〇、〇〇〇	八九、〇〇三 ^町
鰺			二八、六六一
鯖		二九、九一九	二四、三九一
鯉		一四、六五六	二三、四〇四
鯽		五〇、〇六〇	
鯨		六六、九二〇	七六、六〇〇
鯛	三〇、〇二七		

書 科 教 理 地 本 日

目張	鱈	鰾	章魚	鱒	鱒	鱒	鱒	鳥賊	鳥介	狗母魚
一、四六一	一〇、三三五	五九、五六五	一七、一二一		二五、四五〇			四五、四五〇	一七、二七六	一七、四二四
								九、九六〇五		
									六〇、五九〇	
								一三、五六八		
								一二、四〇三		

瀬戸内ハ船舶ノ往來恰モ緘ルカ如ク、海漕ノ便ハ我國ニ冠タリト云フヘシ、故ニ此地ノ交通ヲ記センニハ先ツ此地ヲ往來スル船舶ノ種類

漁業 交通

二百七十二

道 陽 山

並ニ航路ノ模樣ヲ説カサルヘカラス、今此地方ヲ往來スル船舶ヲ視ルニ巡洋ノ大汽船アリ、河舟ノ如キ小汽船アリ、其他西洋形帆船、日本船等其種類殆ト枚舉ニ遑アラズ、

山陽道ノ沿海ニ存在セル主要ノ航路ハ神戸ヨリ明石ニ到ルモノ、二湮半、岡山ニ到ルモノ、六十五湮、尾ノ道ニ到ルモノ、百三十七湮、尾ノ道ヨリ廣島ニ到ルモノ、五十湮半、赤間關ニ到ルモノ、百廿三湮半、赤間關ヨリ萩ニ到ルモノ、六十二湮等ニシテ、四國ノ諸港ニ渡リ、或ハ本道ノ小港ニ到ル航路ハ無慮數十條アリ、

山陽道ノ海岸ハ凸凹特ニ多ク、其近海島嶼ニ富ミ、碇泊至便ノ港灣洶ニ少シトセス、就中較著ノモノハ幡磨、飾磨津(深二仞)家島(深七仞)室津(深四仞四尺)坂起(深四仞)備前ノ兒島(深未詳)片山灣(深未詳)天多府(深六仞四尺)牛窓(深六仞四尺)下津井(深二仞)日比(深三仞)備中ノ笠岡(深一仞)乃至三仞餘)玉島(深五尺)乃至二仞)安藝ノ忠海(深五仞二尺)御手洗(深六仞二

交通

二百七十三

日本地理教科書

尺竹原(深二俣)宇品(深二俣乃至九俣)廣島未詳(鹿老渡深六俣)草津(深一俣一尺)嚴島(深二俣乃至三俣)周防ノ秋穗(深二俣半)大海(深三俣二尺)西ノ津(深五俣)中ノ關(深四俣二尺)三田尻(深五俣)笠戸(深十俣)室津(深十一俣半)上ノ關(深十八俣二尺)地家室(深三俣二尺)小泊(深十尺)汕字(深十一俣四尺)新港(深二俣四尺)長門ノ赤間關(深三俣乃至十俣三尺)特牛(深四俣五尺)福津(深二俣)大浦(深五俣)トス、

明治廿一年ノ調査ニ依ルニ岡山、廣島、山口ノ三縣ニ屬スル船舶ハ左ノ如シ、

岡山縣ニ屬スルモノ西洋形帆船一艘其噸數七十四、日本形船六百七十三艘其石數八萬五千四百四十五、廣島縣ニ屬スルモノ汽船三艘其噸數五十四、西洋形帆船四艘其噸數百四十四、日本形船千三百五十一艘其石數二十一萬七千五百十二、山口縣ニ屬スルモノ汽船九艘其噸數百九十四、西洋形帆船五艘其噸數百五十八、日本形船千七百七十四艘其石數二

十萬千六百九十八ナリ、

山陽道

陸道ニハ岡山縣ニ國道五十七里半、縣道百八十九里半、廣島縣ニ國道四十四里七分五厘、縣道二百六十二里四分餘、山口縣ニ國道五十七里半、縣道百八十三里半アリ、郵便局數ハ岡山縣ニ九十六、廣島縣ニ百廿六、山口縣ニ百十一、電信局數ハ岡山縣ニ三、廣島縣ニ三、山口縣ニ六ナリ、而シテ鐵道ハ神戸ヨリ將ニ本道全長ニ通セントス又播州ニハ數條ノ郵便道路アリ、其主要ナルハ姫路ヨリ但馬國和田山ニ到ルモノ十九里二町三間、佐用ニ到ルモノ十一里十六間五十九尺、有年ヨリ備前國片上ニ到ルモノ凡三里アリ、郵便局數七十ニ餘リ、電信局亦二ヶ所アリ、山陽道ノ沿岸ハ業ニ已ニ述ヘタルカ如ク交通至便ノ地ナリ、以是此地ノ人民敏捷ナルモ亦浮薄ニシテ虛飾ヲ好ムノ憾ナキニ非ス、獨リ美作ハ風俗淳樸ニシテ州民ノ性質大ニ他ニ異ナル所アリ、

明治廿一年ノ調査依ルニ山陽道ノ總人口ハ四百二萬六千九百十八

ニシテ、一方里ニ二千五百六十四ノ人口ヲ有スル比例ナリ、而シテ本道諸州ノ人員ノ疎密ハ左表ノ如シ、

日本地理教科書

國名	人口	面積	一方里ノ人口
長門	七二五、六五三	二三八、五二	凡三、四〇二
周防	二四八、一四五	一七〇、五六	凡一、四五五
安藝	三六二、七二五	九四、〇九	凡三、八五五
備後	四五七、三七四	一五六、三三	凡二、九二五
備中	五三二、〇五二	二三四、五六	凡二、二六八
備前	七七七、八〇八	二八六、二二	凡二、六八二
美作	五五六、五四一	一八八、七五	凡二、九四八
播磨	三六六、七一〇	二〇一、二四	凡一、八二一

右ノ表ニ依レハ人烟最モ稠密ナルハ備前及ヒ播磨ノ二州ニシテ、稀薄ナルハ美作並ニ長門ナリ、又長作ノ兩州ヲ除ケハ餘皆一方里ニ二千

山陽道

又有乃至三千又有ノ人口ヲ有ス、

本道ニハ國幣社以上ノ神社十一アリ、縣社以下ノモノハ二萬餘ニ達ス、而シテ佛教ノ諸宗中播磨及ヒ安藝、周防、長門ニ於テハ眞宗大ニ信徒ヲ有シ、美作備前、備中、備後ノ諸州ニアリテハ眞言宗ノ勢力盛ナルニ似タリ、右兩宗ニ次キテ山陽道ニ夥多ノ教徒ヲ有スルハ蓋シ曹洞宗ナルヘシ、

本道ニ學事盛ニ行ハルハ備前、備中、備後、周防、及長門ニシテ、此等ノ諸國ニアリテハ學齡者ノ修學スル者皆百分ノ五十ニ超過ス、明治廿一年ノ調査ニ依ルニ山陽道諸國ニ於ケル學校並ニ生徒ノ數ハ左ノ如シ、

國	校數		生徒數	
	小學	中學	小學	中學
播磨	三八三	一	四三五二六	一八五
美作	二〇一	一	二〇、八四八	一

住民 宗教 教育

二百七十七

日 本 地 理 教 科 書

備前	備中	備後	安藝	周防	長門
一七二	三〇五	四二四	四六三	四九一	三九八
—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—
三六、二一八	四八、二三二	四五、六七一	六五、四三九	三九、七四三	二七、二四八
六二三	—	一三七	一七五	一一七	—
一五一	—	—	一一七	一二一	—

而シテ學齡者ノ修學比例ハ百ニ對シテ播磨ニ四十七、美作ニ四十八、六分、備前ニ六十五、半、備中ニ六十三、備後ニ五十、安藝ニ四十七、六分、周防ニ五十三、六分、長門ニ五十四、八分トス、

明治廿一年ニ人口一萬以上ヲ有セシ都市ハ左ノ如シ、

- 廣島(安藝) 八四、八七三 岡山(備前) 四三、八八五
- 赤間關(長門) 三二、三八四 姫路(播磨) 二五、四六六
- 萩(長門) 二〇、三四五 明石(播磨) 一九、三五一

尾道(備後) 一八、〇〇二

津山(美作) 一五、三〇六

福山(備後) 一四、五八七

山口(周防) 一三、三三二

岩國(周防) 一〇、一七七

茲ニ又右ノ都市中ニ特ニ顯著ナルモノニ就テ記述セントス、
 廣島ハ安藝國沼田郡ニアリ、市坊凡百廿戸數二萬千八百四十九、實ニ中國第一ノ都會ニシテ商業頗ル繁榮ス、古來小浪華ノ名アリ、蓋シ其繁昌大坂ニ亞クテ意味スルニアリ、廣島縣廳ヲ此ニ開ク、市ニ操綿、鐵、鐵、傘等ノ産アリ、其近郷亦麻、藍、生糸、牛馬皮、蠟等ヲ出ス、
 岡山ハ備前國御野郡ニアリ、旭川ノ西岸ニ沿テ市街ヲ開ク、市坊凡一百戸數一萬三千八百三十三、岡山縣廳ノ所在地ニシテ之亦繁華ノ都會ナリ、郡内ニ紙及ヒ蠟表ノ産アリ、
 山口ハ周防國吉敷郡ニアリ、巒峯四方ニ圍繞シ、交通便ナラスト雖モ、縣廳ノ所在地タルヲ以テ市街較繁昌ス、戸數二千九百五十五、吉敷郡ニ

日本地理教科書

ハ紫石英陶土及ヒ藥草ノ産アリ、
 赤間關ハ長門國豐浦郡ニアリ、中國第一ノ要地ニシテ水運ノ利頗ル
 宜シク、船舶常ニ輻湊ス、戶數六千五百餘、此地ハ純然タル商業地ニシテ
 物價ノ不廉ナルハ海内多シ其比ヲ見サル所ナリ、關ハ亦下ノ關或ハ馬
 關ト稱ス、近世外交歴史ニ著名ノ地ナリ、
 姫路ハ播磨國飾東郡ニアリ、戶數四千七百、革細工ヲ以テ著名ナリ、明
 石ハ同國明石郡ノ東南隅ニ位ス、其近傍須磨浦及ヒ舞子濱ノ勝地アリ、
 町ニ明石縮晒、木綿帆木綿等ヲ製織ス、戶數四千二百有餘、
 津山ハ鑄物ヲ以テ知ラル、尾道ハ廻漕業盛ニシテ、亦多ク酢酒ヲ造釀
 ス、福山ハ生糸並ニ練綿ヲ出シ、萩ニハ陶器及ヒ藤細工ノ産アリ、岩國ハ
 紙及ヒ蚊帳ヲ製出スルノ少ナカラス、

(備考)

岬角。金崎御崎、網崎(播磨)、熊崎、米崎、沼出崎、鷺巢見鼻(備前)、神岬、茂

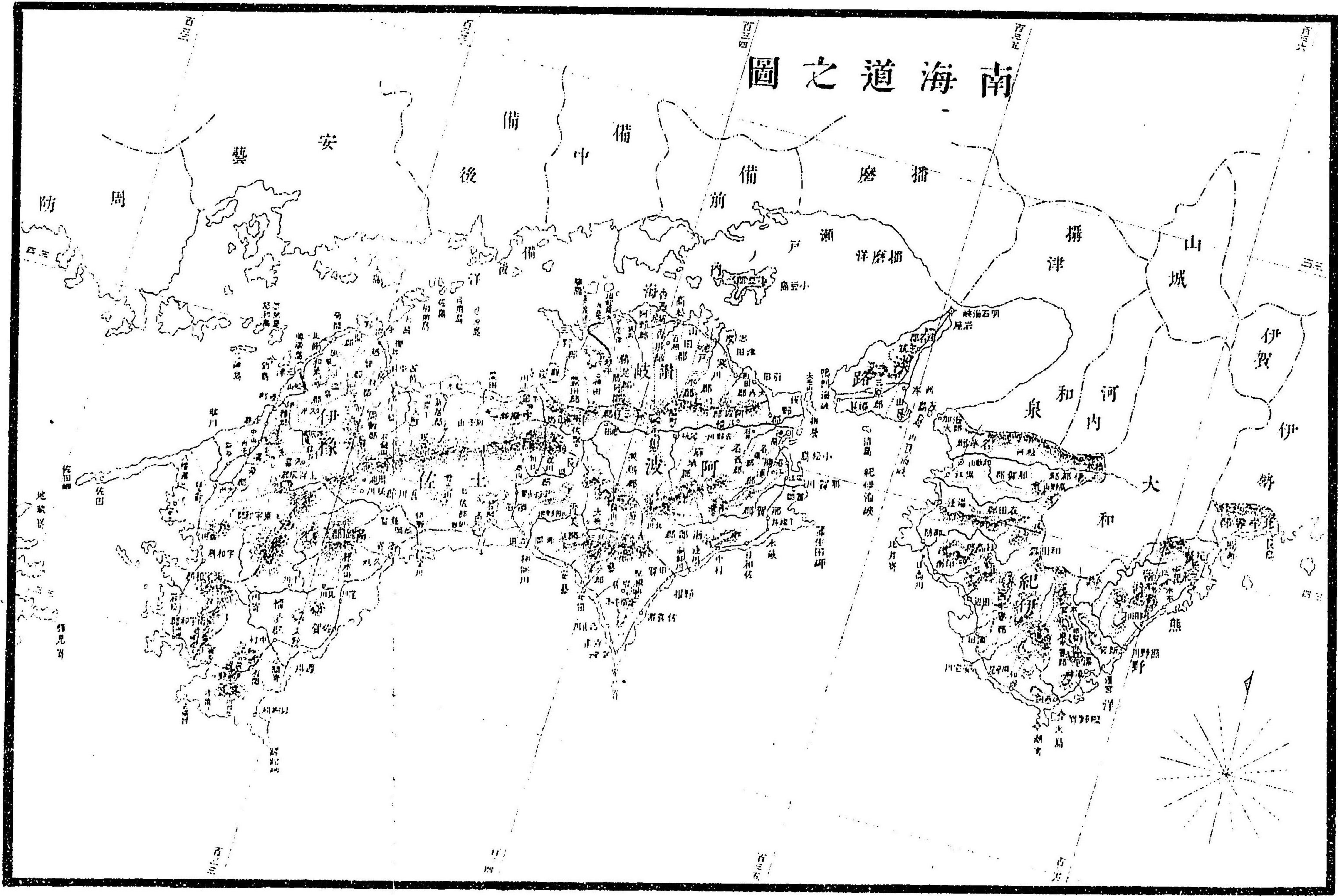
山陽道

平鼻(備中)阿武兔岬、城鼻(備後)石瀬崎、龜前岬(安藝)丸山岬、赤石岬(周防)高
 山岬、川尻岬、宇部御崎、本山岬、觀音岬(長門)
 海峽。明石峽(播磨)牛窓瀬戸(備前)神島峽(備中)阿武兔峽、尾道峽、布刈峽、
 三原海峽(備後)三原海峽、瀬戸海、生口瀬戸、隱戸、瀬戸、三ノ瀬、早瀬々戸(安
 藝)上ノ關峽、大島瀬戸(周防)赤間關峽、瀬戸崎峽(長門)
 屬島。家島、男鹿島、坊勢島、西島(周圍五里半)、播磨鹿久北島(周圍七里餘)
 鶴島、頭島、大多府島、曾島、鴻島、扼島、長島(周圍五里ニ近シ)、前島、犬島、竹島、
 石島、釜島、松島、六口島、高島、大槌島(備前)神島(周圍五里ニ近シ)、片島、高島、
 白石島、北木島(周圍五里餘)、飛島、真鍋島(備中)鏡島、仙醉島、走島、宇治島、田
 島、横島、百島、向島(周圍七里ニ近シ)、岩子島、大細島、因島(周圍十里)、備後佐
 木島、生口島(周圍七里ニ近シ)、高根島、久野島、阿波島、生野島、臼島、大崎上
 島(周圍十二里餘)、大崎下島(周圍五里餘)、大崎長島、豐島、尾久比島、齋島、大
 芝島、藍島、馬島、情島、上浦刈島(周圍七里餘)、下浦刈島、瀬戸島、渡子島、倉橋

備考

島皆一島ノ區分名ナリ周圍廿五里餘鹿島江田島周圍八里金輪島宇
品島似島能美島周圍十五里餘黑神島瀝島周圍八里ニ近シ阿多田島
甲島安藝向島黑神島仙島大津島馬島野島笠戶島周圍九里餘佐合島
馬島牛島視島上ノ關島周圍九里餘大島周圍殆ト三十一里平郡島周
圍七里半屋島沖家室島大水無瀬島片山島情島浮島頭島前島端島柱
島周防大島櫃島羽島尾島相島見島青海島周圍九里餘角島蓋井島六
連島引島周圍六里餘長門

南海道之圖



第八章 北海道

北海道ハ紀伊淡路及ヒ四國(阿波、讃岐、伊豫、土佐)ヲ以テ成ル、紀伊ハ北方幾内ニ界シ、南ハ太平洋ニ突出ス、淡路ハ一小島ナリ、攝津ノ南、紀伊ノ西ニ横ハル、而シテ四國ハ北ニ内海ヲ隔テ中國ト分離シ、南ハ太平洋ニ瀕シ、東ニ紀伊、淡路ニ對シ、西ハ九州ニ隣ス、蓋シ四國ハ北緯三十二度四十二分五十一秒ヨリ同三十四度廿四分ニ至リ、東徑百卅度五十九分十秒ニ起リ、同百卅四度廿五分ニ盡ク、

紀伊ハ北ニ向テ彎曲シ、南ニ尖突ス、淡路ハ南北ニ延長シ、四國ハ二箇ノ方形ノ隅ヲ以テ合セシ如キ狀アリ、紀伊ハ南北凡三十里、狹處凡七里、東西凡廿七里、狹處凡八里、淡路ハ南北十二里廿八町、東西五里廿一町、周回三十八里七分、四國ハ讃岐國觀音岬ヨリ土佐國室戸岬ニ至ル距離凡十七里、伊豫國大隅鼻ヨリ土佐國蹉陀岬ニ至ル距離凡廿二里、阿波國大磯岬ヨリ伊豫國佐田岬ニ至ル距離凡六十五里、周圍四百五十一里一分

南 海 道

位置 廣袤

二百八十三

七厘ニシテ、北海道ノ總面積ハ壹千六百一方里四分七厘ナリ、

四國ニハ一帶ノ連峯アリ東西ニ横ハル、而シテ其兩端ニ亦小山脈アリ、南北ニ流走ス、四國ノ形狀ノ兩箇ノ方形合セシニ似タルハ實ニ其山脈ノ配致ニ基クナリ、

紀伊ノ中帶ハ能登ヨリ來ル南北山脈ノ貫通スル所ニシテ、四國ノ東西山脈ノ波餘ハ紀伊ノ北方ニ延長ス又淡路ノ南北ニ長大ナルハ四國ノ小山脈延テ此島ニ及フカ故ナリ、

本道ニ較著ノ秀峯ヲ枚舉スレハ紀伊ノ南北山脈ニ屬スヘキモノニ安堵ヶ峯(高三、九三四、五尺)大雲取山(高三、三二九、七尺)及ヒ高尾峯(高三、九六三、三尺)アリ、而シテ高野山ハ同州ノ東西山脈ニ屬ス、又四國ニ於テハ阿波ノ劔山(高七、三九八、六尺)伊豫ノ石鎚山(高八、七六一、五尺)別子山(高五、六一九、九尺)土佐ノ高峯山(三、七三八、九尺)並ニ樞山(高三、七四五、五尺)ハ東西山脈ニ屬シテ峻嶺ヲ爲シ、讃岐ノ飯ノ山(一八六四、五尺)ハ東邊ノ南北

日本地理教科書

山脈ニ屬ス、

淡路ニハ先山(高一五二七、八尺)諒鶴羽山(高二、〇九二、二尺)並ニ柏原山(高一、八八四、三尺)アリ、諸峯ハ之ヲ島ノ小ナルニ比スレハ皆高山ト稱シテ可ナルモノナリ、

四國ノ川河ニシテ東西山脈ノ長濱ニ沿フテ流走スルモノハ阿波ノ吉野川那賀川並ニ土佐ノ仁淀川ナリ、而シテ伊豫ノ肱川土佐ノ渡川等ハ皆小山脈ノ溪谷ノ方向ニ從フテ流走スルモノトス、

紀州ノ紀伊川ハ其河道東西山脈ノ方向ニ從ヒ、熊野川ハ南北山脈ニ從フ、

紀州ノ紀伊川(長三十里餘)在田川(長五十五里半)富田川(長廿五里)安宅川(長廿五里)古座川(廿七里半)太田川(長廿二里)熊野川(長三十五里)北山川(長凡三十四里)阿波ノ吉野川(長凡四十二里)那賀川(長廿八里餘)伊豫ノ肱川(長十里)土佐ノ奈半利川(長十三里)物部川(長廿五里餘)仁淀川(長廿六里)

南海道

日本地理教科書

餘等ハ皆南海道ノ長川ナリ、而シテ讃岐及ヒ淡路ニハ較著ノ大河ナシ、左ニ川河ノ模様ヲ詳述スヘシ、

紀伊川ハ紀州大和及ヒ伊勢界ナル大台原山ニ源ヲ發シ、初メ北流シ、大和ノ中央ニ至リテ河道ヲ西ニ轉シ、紀州ノ北邊ヲ流通シ、海部郡港村ニ至リ海ニ入ル、舟楫ノ便アリ、途ニ仙川丹生川、靜川、名手川、海神川、野上川、根來川等ヲ容ル、

在田川ハ紀伊國伊都郡高野山ニ源ヲ發シ、或ハ西ニ流レ、或ハ西北ニ走リ、松原村ニ於テ瀑布ヲ爲シ、宮崎莊北湊村ニ至リ海ニ入ル、河口ヨリ五里間舟楫ヲ通スヘシ、

日高川ハ稗史ニ著名ナリ、源ヲ紀州在田、日高兩郡及ヒ大和州界ノ山中ニ發シ、右折左曲西方ニ向テ流走シ、北鹽屋浦ニ至リ海ニ入ル、河口ヨリ四里間舟楫ヲ通スヘシ、途ニ丹生川、寒川、江川等ヲ容ル、

富田川ハ大和十津川界ナル山中ニ源ヲ發シ、途ニ愛賀川ヲ容レテ西

南海道

南流シ、紀伊國牟婁郡中村ニ至リ海ニ入ル、河口ヨリ九里間舟楫ヲ通スヘシ、上流ヲ岩田川ト云フ、

安宅川ハ紀伊國牟婁郡ノ諸水即チ廣見川、熊野川、前川、將軍川等ノ相合シテ成ルモノナリ、南流南日置浦ニ至リ海ニ入ル、

古座川ハ紀州牟婁郡大塔峰ニ源ヲ發シ、途ニ佐本川ヲ容レ、古座浦ニ至リ海ニ入ル、河口ヨリ凡六里間舟楫ヲ通スヘシ、

太田川ハ源ヲ紀伊國牟婁郡大雲取山中ニ發シ、東南流シテ小色川村ニ至リ高野川ヲ容レ、下里ニ至リ海ニ入ル、舟楫ヲ通スル凡四里、

熊野川ハ大和國十津川ノ下流ナリ、紀州牟婁郡宮井村ニ至リ北山川ヲ容レ、漸ク大川ト成リ、東南ニ流走シ、新宮ニ至リテ海ニ入ル、河口ヨリ數里間舟楫ノ便アリ、而シテ北山川ハ大和ヨリ來ルモノニシテ、其大體ノ方向ハ之ヲ西南ニ採ル、水源ヨリ熊野川ニ至ルノ長州四里、

四國第一ハ長川ハ吉野川ナリ、源ヲ土佐國土佐郡龜森山中ニ發シ、阿

日本地理教科書

波國界ニ至ルマテ東流シ、之ヨリ暫ク河道ヲ北ニ取り、阿波國北邊ニ沿
 フテ又東流シ、板野郡豐久新田ニ至リ海ニ入ル、水源ヨリ阿州界ニ至ル
 長凡十五里、州界ヨリ河口ニ至ル長廿六里餘、而シテ吉野川ノ海ニ朝ス
 ル所三角洲ヲ爲ス、今本川ニ合スル著名ノ諸水ヲ枚舉スレハ土佐ニ於
 テハ大森川、地藏川、汗見川、川口川、穴内川、豐永川等アリ、阿波ニ於テハ伊
 豫川、松尾川、佐野川、一字川、穴吹川、別宮川等皆吉野川ニ合ス、
 那賀川、又長川ニ作ル、源ヲ阿波國海部郡ノ山中ニ發シ、大体ノ方向ヲ
 東々北ニ採リ、中島浦ニ至リ海ニ入ル、分流ヲ那東川ト稱ス、新屋村ニ至
 リ海ニ朝ス、
 肱川、ハ源ヲ伊豫國宇和郡ノ山中ニ發シ、初メ西流シ、中コロ北ニ折レ、
 復々西ニ走リ、更ニ方向ヲ西北ニ變シ、喜多郡長濱ニ至リ海ニ入ル、凡四
 里間舟楫ノ便アリ、
 奈半利川、ハ土佐國安藝郡ニ源ヲ發シ、途ニ二股川、西谷川、野川等ヲ容

南海道

レ西南流シ、奈半利浦ニ至リ海ニ入ル、濶五十間ニ餘ル所アリ、
 物部川、ハ土佐國香美郡ニ源ヲ發シ、西南流シテ楠目村ニ至リ、山田川
 ヲ分チ、本流ハ物部、吉原ノ二村間ニ至リ海ニ入ル、山田川ハ楠目村ヨリ
 道ヲ西南ニ取リ、浦戸ニ至リ海ニ入ル、
 仁淀川、ハ古ヘ贊川ト稱セシモノナリ、源ヲ伊豫國浮穴郡石龜山ノ西
 麓ニ發シ、初メ西南流シ、後ニ方向ヲ東南ニ轉シテ土佐ニ來リ、新居浦ニ
 至リ海ニ入ル、途ニ容ル所ノ諸水ニ、菜野川、岩屋川、森川、分徳川、黒岩川、八
 川等アリ、
 本道ニハ周圍三里以上ニ亘ル湖沼ナシ、唯此ニ一ノ注意スヘキ點ハ
 伊豫ノ湖沼ノ配致ニアリ、若シ該國ノ川河ハ概テ河道ニ幾多ノ小池ヲ
 有ス、而シテ其配致ノ模様ヲ觀察スルニ此地方ノ近世地學時代ノ隆起
 セシテ證スルニ足ルカ如シ、左ニ著名ノ礦泉ヲ枚舉スヘシ、

日 本 地 理 教 科 書

(泉名) (泉質) (温度)

紀伊 湯ノ峯 塩類 一六八度
 瀬戸鉛山 炭酸 一三六

伊豫 道後 單純 一一〇度
 宇和川 炭酸 六四度
 魚成 炭酸 六五度

右ノ外土佐ニ別役圓行寺、鶴湯、馬荷、安並、利岡等ノ礦泉アリト雖モ、未
 タ其温度並ニ性質ヲ詳カニセズ、

南海道ニハ高知及ヒ和歌山ノ兩所ニ測候所ヲ設置スルノミナリト
 雖モ、兩所ノ觀測ニ比スルニ廣島及ヒ大分ノ觀測ヲ以テセハ、本道沿岸
 ノ氣候ハ大要之ヲ知ルヲ得ヘシ、四所ノ寒暖ハ之ヲ數年ノ觀測ニ徵ス
 ルニ左ノ如シ、

	最 高	最 低	平 均
和歌山	八八、五二 <small>度</small>	三二、九〇 <small>度</small>	五九、〇〇 <small>度</small>
高知	八五、四六	三三、二六	五九、九〇
大分	八六、〇〇	三三、〇八	五九、一八

南 海 道

廣 島

八八、三二

三一、一〇

五八、一〇

此表ニ由リテ視ルニ、南海道ノ東西沿岸ハ寒暖ノ平均凡五十九度、南岸
 ハ五十九度九分、北岸ハ凡五十八度一分ナリ故ニ南北兩岸間ニ凡一度
 八分ノ差アリ、

紀州ノ高峯ハ皆三千尺以外ニ聳立シ、四國ニ東西走スル山脈中八千
 七百尺餘ニ達スル點アリ、依テ考フルニ紀州山村ノ平均温度ハ凡五十
 度ナルヘシ、又四國ノ幽谷ニ入レハ平均温度五十度以下ニ居ルノ地ア
 ルヘシ、左ニ氣壓、濕度並ニ雨量ノ平均ヲ舉ケ、又屢吹來スル風ノ方向ヲ
 示スヘシ、

	氣 壓	濕 度	雨 量	風ノ方向
和歌山	七六一、九 <small>度</small>	七一	一三三五 <small>度</small>	北東及北
高知	七六二、一	七四	二六四四、二	北西及北
廣島	七六二、二	七六	一四六〇、〇	北及南

大分

七六一九

七六

一七〇八、一

北西及北

前表ニ載スル場所ノ數夥多ナラサルヲ以テ、未タ忽カニ何等ノ推論ヲ爲スヲ得スト雖モ、四國ノ南岸ノ其北岸ニ比シテ雨量多キヲ爲スハ地形ヲ視察スルモ亦自ラ明ナルヘシ、

明治廿一年ノ調査ニ依リテ玆ニ南海道ニ掘採セシ礦産ノ出來高ヲ示サソ、

金、ハ伊豫ニ三十七匁、紀伊ニ四萬千七百六十二貫、阿波ニ壹萬二千七百七十八貫、伊豫ニ四十九萬三千五百五貫、土佐ニ三萬三千九百三十三貫、質、母、尼、ハ阿波ニ三千四十五貫、土佐ニ二萬四千二百二十八貫、石、炭、ハ紀伊ニ八百八十八萬四千二百五貫、讃岐ニ百九十二萬四千三百九十九貫、又伊豫新居郡大生院ノ安質母尼山ハ世ニ有名ノモノニシテ、其結晶鑛ノ如キハ實ニ天下ニ冠タリ、

南海道ノ平地ハ土性膏腴ニシテ、沃田饒野ニ富ミ、氣候亦温和ナルヲ

日本地理教科書

南海道

以テ二毛作ノ耕地少ナカラス、輒近ノ調査ニ基キ本道ノ農況概要ヲ示サントス、先ツ四國ヨリ初メ、同島ニ於ケル稻作所田反別ハ十三萬六千四百六十六町三反歩ニシテ、收穫ハ實ニ百五十九萬八千五百五十石ナリ、而シテ一反歩ニ對スル收穫ハ平均粳米ニテ壹石壹斗七升糯米ニテ壹石壹斗陸米ニテ壹石壹升トス、之ヲ詳言センニ粳米ノ收穫ハ阿波ニ二〇八、八五八石、讃岐ニ三二四、〇〇六石、伊豫ニ四九九、六五四石、土佐ニ四二二、三三三石ヲ爲ス、麥作反別ハ十三萬四千五百七十町二反ニシテ、收穫ハ百十萬二千九百七十六石ナリ、就中裸麥ノ收穫八十八萬八十七石ヲ爲ス、

讃岐ハ我國ニ於テ製糖上第一ノ位置ヲ占ム、明治廿一年ノ調査ニ依ルニ白下ノ製造高二百六十一萬二千九百六貫ニ達ス、而シテ四國一圓ノ製糖高ハ諸種糖ヲ合シテ四百七十九萬五千四百十五貫ナリ、

藍葉ハ阿波ノ産最モ多量ヲ爲ス、明治廿年ノ調査ニ依レハ其收穫五

百四萬二千九十八貫ニシテ、是實ニ全國收穫ノ三分一ニ該當ス、
 紀伊ノ稻收穫ハ凡三十萬石ニシテ、麥ノ收穫ハ三十二萬石内外ナル
 ヘシ、淡路ノ稻麥收穫ハ未タ之ヲ詳細ニセスト雖モ、同島ニハ水田九千
 百町歩餘畑地二千三百餘町歩ヲ有ス、本道ノ農産ニシテ較著ナルハ紀
 州ノ柑橙、阿波ノ藍、讃岐ノ砂糖等ナリ、土佐ハ樟腦ノ産ヲ以テ知ラル、樟
 腦固ヨリ純然タル産農物ニ非ス、山林副産物タリト雖モ、便宜ノ爲ニ暫
 シ茲ニ之ヲ記ス、
 工業ノ著名ナルモノニハ紀伊ニ綿フヲチル、紋羽織、紙、折敷、阿波ニ絨
 織、神代綱、瓷器、漆器、讃岐ニ保多編、葛布、土佐ニ紙等アリ、而シテ四國ノ諸
 州ハ皆多少トモニ紙類ヲ製出ス、
 明治廿年ノ統計ニ依ルニ紀伊ノ製紙高ハ凡十七萬八千五百貫ニシ
 テ其價額ハ七萬五千七百圓餘ヲ爲シ、四國ノ製紙高ハ百三十六萬九千
 三百四十四貫其價額百十萬八千七百七十三圓ニ達ス、

清酒ノ造釀高ハ四國ニ十九萬千五百廿四石、紀伊ニ凡四萬石ナリ、而
 シテ醬油ハ讃岐ノミニシテ明治廿一年ニ六萬千四百六十三石ヲ製造
 シ、伊豫ニモ亦二萬石餘ノ醬油ヲ製セリ、其他ノ製造ハ太タ多量ニ達セ
 ス、又同年ノ統計表ヲ視ルニ四國ニ製織セシ木綿織物ノ價額ハ九十六
 萬九千九百十七圓ニシテ、之ニ他ノ諸種ノ織物價額ヲ加算スレハ百三
 萬二千四百九十五圓ノ多額ヲ爲ス、而シテ紀州ノ織物價額ハ七十五萬
 餘圓ナリ、
 紀州ノ東北巒峯起伏ノ地ニシテ、四國ノ中央高嶺四位ニ縱横ス、以是
 此等ノ地方ハ交通ノ便極メテ少ナク、通商ノ益殆ト悉無ト稱シテ可ナ
 リ、然リト雖モ和歌山ノ近傍ハ多小船舶ノ往來スルモノアリ、又讃岐及
 ヒ伊豫ノ南岸ハ海運ノ利頗ル大ニシテ、商賈ノ往來常時纒々トシテ絶
 ヲルコトナシ、阿波ノ徳島、土佐ノ高知ニモ亦汽船ノ航行スルモノアリ、而シ
 テ紀伊ノ新宮、讃岐ノ高松、伊豫ノ内子及ヒ松山ニハ商工會議所ヲ設置ス、

問屋ノ數ハ紀伊ニ三十九、阿波ニ廿五、讃岐ニ廿五、伊豫ニ四十アリ、而シテ讃岐又伊豫ノ兩州ニ於ケル鳥魚類市場ノ數ハ四十七ヲ爲ス、
 國立銀行ハ紀伊ニ一、阿波ニ一、讃岐ニ一、伊豫ニ三、土佐ニ四アリ、其資本ノ合計百五十六萬圓ナリ、
 明治廿年ノ調査ニ依リテ、貨物十萬圓以上ヲ搭載セテ南海道ノ諸港ニ出入セシ船舶ノ種類並ニ多少ヲ示サン、

日本地理教科書

出港	瀛		紀伊	阿波	土佐
	西	帆			
日本形船	噸數	船數	噸數	船數	噸數
石數 七七四、六七一	噸數 一六、〇〇〇	船數 八〇	噸數 一、二五〇	船數 二二三	噸數 一〇〇、九六一
石數 六、九七八	噸數 一六、〇〇〇	船數 八〇	噸數 一、一五〇	船數 二二三	噸數 一〇〇、九六一
石數 七七七、一〇九	噸數 一六、〇〇〇	船數 八〇	噸數 一、一五〇	船數 二二三	噸數 一〇〇、九六一
石數 七七七、一〇九	噸數 一六、〇〇〇	船數 八〇	噸數 一、一五〇	船數 二二三	噸數 一〇〇、九六一

南海道

入港	瀛		紀伊	阿波	土佐
	西	帆			
日本形船	噸數	船數	噸數	船數	噸數
石數 七七七、一〇九	噸數 一六、〇〇〇	船數 八〇	噸數 一、一五〇	船數 二二三	噸數 一〇〇、九六一
石數 七七七、一〇九	噸數 一六、〇〇〇	船數 八〇	噸數 一、一五〇	船數 二二三	噸數 一〇〇、九六一
石數 七七七、一〇九	噸數 一六、〇〇〇	船數 八〇	噸數 一、一五〇	船數 二二三	噸數 一〇〇、九六一
石數 七七七、一〇九	噸數 一六、〇〇〇	船數 八〇	噸數 一、一五〇	船數 二二三	噸數 一〇〇、九六一

南海道ノ沿海頗ル魚鹽ノ利アリ、海産ノ主要ナルモノニ至リテハ紀伊ニ鱈、鰹、鯛、大灘魚、鯨、海參、牡蠣、漁類、淡路ニ鱈、海參、海藤花、海藻、阿波ニ鱈、鯛、馬鮫魚、鰯、牛尾魚、鰯魚、鰹、海參、鰹、岐ニ鰯、鯛、馬鮫魚、鰯、海參、伊豫ニ章魚、鰹、海參、土佐ニ鰹、鯨、真珠、珊瑚、海藻等アリ、而シテ紀伊、阿波、伊豫及ヒ土佐ノ諸國ハ皆鰹節ヲ製ス、殊ニ土佐ノ鰹節ハ世ニ較著ナルモノナリ、
 明治廿年ノ調査ニ依ルニ、本道淡路ヲ除クノ漁人並ニ漁船ノ員數ハ

日本地理教科書

漁業

	紀伊	阿波	讚	伊豫	土佐
漁人	一三、七六七	七、六五九		五、四〇四	二、五七八一
漁船	五、四一一	三、七五六		一、五五四〇	五、六五七

又廿一年ノ調査ニ依リ、収獲壹萬圓以上ニ達セシ海産物ヲ枚舉スヘシ、但壹萬圓ニ充タサル額ハ載セス、

	紀伊	阿波	讚	伊豫	土佐
鰻	一九、三三五	一九、三三九		六、四九五	三、八三〇
鯉	二二、六二八	二、四九〇		一、三五四	一、三二二
鮪	一一、九三八			一〇、四五四	一、三〇一
鯖	一七、二九〇				一、七七八
鯨	一七、九六八				三、一八八
鯛	一四、〇九〇		二、三九七	三、〇九九	三、五三九

南海道

右ノ外紀伊ニ於テ鱒一、二六、三六九圓、鱈一〇、九〇六圓、鰯二、三、一〇九圓、石花菜三〇、六一七圓、讚岐ニ於テ鯖二、四八三九圓、伊豫ニ於テ烏賊一、四、六〇二圓、鰻一、二、八三〇圓、土佐ニ於テ鯨一、六、九七三圓ノ收穫アリタリ、又重要海産ノ全收穫ヲ視ルニ紀伊ニ四十二萬二千六百七圓、阿波ニ十五萬五千四百廿六圓、讚岐ニ十一萬四千五百三十四圓、伊豫ニ廿一萬五千七百一十一圓、土佐ニ三十五萬九千二百八十六圓トス、淡路ノ收穫ハ之ヲ詳カニセサレハ略ス、

本道ノ鹽田ハ廣袤二千餘町步ニ亘リ、製鹽高百廿九萬石ニ過ク、就中製鹽高ノ多キハ阿波、讚岐、伊豫ノ三國ニシテ、阿州ハ二十八萬七千九百六十四石、讚州ハ六十四萬七千四百四石、豫州ハ二十九萬八千三百六石ヲ製ス、

前條ニ述ヘタルカ如ク、紀州及ヒ四國ノ邊陲ハ決シテ交通至便ノ地ト稱スルヲ得スト、雖モ、本道ノ沿岸ニハ船舶碇泊ノ港少シトセス、四國

ノ北岸ハ廻漕特ニ容易ナリ、先ツ陸運ノ摸樣ヲ説カンニ、讃岐國丸龜及ヒ琴平間並ニ伊豫國松山及ヒ三津間ニ鐵道アリ、前者ノ長十哩餘、後者ノ長四哩ニ過ク、國道並ニ縣道ノ長サハ之ヲ左表ニ示サン、

紀伊(二郡ヲ除ク)	阿波	讃岐	伊豫	土佐
國道	四三二 <small>里分</small>	二八五 <small>里分</small>	一六四 <small>里分</small>	三〇七 <small>里分</small>
縣道	一九二、八七	三四、四〇	一七、二六	五七、六七
				六〇、四九

即チ四國ノ國道ハ合シテ百十四里二分二厘、縣道ハ百六十九里八分二厘ヲ爲ス、又四國ノ郵便並ニ電信ノ景況ヲ視ルニ郵便線路ノ實里數ハ七百六十七里三分一厘ニシテ、郵便局二百四十三アリ、電信線條長二百三十七里一分一厘ニ達シテ、電信局十ヲ置ク、海底電信線ハ淡路ヲ經テ阿波ニ架シ其線條ノ長八里六分八厘ヲ爲ス、而シテ和歌山縣紀伊内八

郡ノ郵便線路ハ二百十九里二厘ヲ爲シ、郵便局七十九アリ、電信線條長ハ四里二分五厘ニ過キス、

海路ノ主要ナルモノヲ舉レハ紀伊國和歌山ヨリ攝津國大坂ニ到ルモノ(三五哩)淡路國岩屋ヨリ播磨國明石ニ到ルモノ(三哩半)同國福良ヨリ阿波國撫養ニ到ルモノ(六哩七六)阿波國德島ヨリ大坂ニ到ルモノ(五八哩)讃岐國多度津ヨリ攝津國神戸ニ到ルモノ(八三哩)多度津ヨリ伊豫國宇和島ニ到ルモノ(一三五哩)土佐國高知ヨリ神戸ニ到ルモノ(一四二哩)等アリ、

左ニ列記スルハ南海道ニ主要ノ港灣ナリ、紀伊國加太(深五仞)紀伊川口(深二仞三尺)鹽津(深五仞)大崎(深八仞)下津(深五仞)廣港(深二仞)由良(深六仞)比井(深五仞)印南(深四仞)田邊(深二仞)瀬戸(深八仞)周參見(深十仞)江田(深三仞)有田(深二仞)三色(深四仞)大島(深五仞)浦神(深六仞)勝浦(深七仞)宇久井(深三仞)二木島(深十六仞)四尺賀田(深廿六仞)四尺丸木(深十一仞)

日本地理教科書

四尺尾鷲深十六俣四尺名倉深八俣須賀利深六十俣錦浦深五俣淡路國由良深一俣乃至五俣福良深二俣阿波國撫養深四俣乃至五俣津田深二俣二尺小松島深九俣橋浦深五俣乃至二十俣橋泊深六俣乃至十四俣由岐深四俣乃至五俣大島深十二俣加島深二俣那佐深十俣讚岐國小田深六俣志度深三俣乃至四俣坂出深四俣乃至六俣丸龜深一俣多度津深一俣乃至二俣三尺草加部深八俣坂手深十一俣四尺伊豫國波止濱深三俣乃至十三俣由良深七俣一尺宇和島深一俣六尺中泊深廿五俣土佐國甲浦深四俣乃至十三俣室津深一俣一尺浦戶深四俣半宇佐深七俣須崎深十四俣下田深二俣清水深十四俣古瀨目深十俣安瀨地深十八俣泊浦深七俣小筑紫深五俣湊浦深十俣宿毛深二俣乃至七俣

明治廿一年ノ調査ニ依ルニ紀伊ノ所屬ニ係ハル瀛船四艘噸數百一、日本形船七百八艘石數十二萬九千六百廿、阿波ノ所屬ニ係ハル瀛船二艘噸數九十六、西洋形帆船二艘噸數六十五、日本形船三百十二艘石數五

南 海 道

萬千五百九十八、讚岐ノ所屬ニ係ハル日本形船五百六十三艘石數六萬六千九百九十一、伊豫ノ所屬ニ係ハル瀛船三艘噸數三百八十三、西洋形帆船六艘噸數二百三十六、日本形船八百八十四艘石數十七萬千二、土佐ノ所屬ニ係ハル瀛船三艘噸數七十、西洋形帆船十四艘噸數六百十七、日本形船百九十三艘石數三萬二千八百五十五アリ、而シテ右ハ皆商船タリ、紀伊並ニ淡島ノ民ハ淳朴ノ者多ク、阿波ハ頗ル寛裕ノ風アリ、讚州及ヒ豫州ノ衆庶ハ温順ニ過タルカ如ク、土佐ノ風俗ハ木強ニシテ往々頑固ニ失ス、

太古ノ事容易ニ断定ナラズ得スト雖モ、淡路ヲ以テ破取盧島ト爲スハ史家ノ一般ニ許容スル所ナルカ如シ、果シテ然ラハ此地ハ我國文華ノ淵源ニシテ、中島ノ人口面積ニ比シテ夥多ナルモ亦偶然ニ非サルカ如シ、蓋シ淡路ノ面積ハ三十六方里六分九厘ニ過サルモ明治廿一年ニ十八萬九千二百六十五ノ人口ヲ有セリ、之ヲ一方里ニ等分スルニ五

住民

三百四

千百五十八人員アリ、人烟如斯ク稠密ナルハ多ク他ニ其比ヲ看サル所
タリ、而シテ其他ノ諸州ノ人口ハ之ヲ左ニ示スヘシ、

日 本 地 理 科 書	人 口	面 積	一 方 里 ノ 人 口
紀 伊	七〇三、四〇三	三八一、二一	凡一、八四三
阿 波	六八二、一九〇	二七一、二八	凡二、一四五
讚 岐	六六五、〇四八	一一三、五〇	凡五、八五八
伊 豫	九一二、八一	三四一、二七	凡二、六七二
土 佐	五六八、七七二	四五四、七二	凡一、二五一

此表ニ依リテ視レハ南海道ニ人口最モ稠密ナルハ讚岐ニシテ、人烟稀
薄ナルハ土佐ナリ、抑讚岐ハ土地膏腴ニシテ氣候温和、加フルニ交通至
便ナリ、之ニ反シテ土佐ノ大部ハ岩峰峨々タルノ地ニシテ氣候不良ナ
ラスト雖モ交通ノ便良ニ宜シカラズ、讚州ニ人口稠密ヲ爲シ、土州ニ人

南 海 道

烟稀薄ナルハ蓋シ地ノ利ニ由ルモノナリ、
本道ニ著名ノ神社ヲ舉レハ紀伊ニ熊野神社、淡路ニ伊奘諾神社、阿波
ニ大麻比古神社、讚岐ニ琴平神社、土佐ニ都佐神社等アリ、而シテ本道ニ
ハ真言宗大ニ勢力ヲ有ス、於是乎該宗所屬ノ寺院紀伊ニ千九十三、淡路
ニ二百十七、阿波ニ四百十六、讚岐ニ二百五十八、伊豫ニ三百六十、土佐ニ
卅アリ、紀伊ノ金剛寺、阿波ノ莊嚴寺、箸藏寺、鶴林寺、讚岐ノ法然寺、白峯寺
伊豫ノ仙龍寺、土佐ノ最御崎寺、金剛頂寺、青龍寺、金剛福寺等ハ皆僧空海
ノ開基セシモノナリ、要スルニ南海道ノ開達ニハ空海與リテ大ニカ
リト云フヘシ、
明治廿一年ノ調査ニ依ルニ、本道ニ於ケル學校並ニ生徒ノ員數左ノ
如シ、

宗 教 教 育	校 數		生 徒 數	
	小 學	中 學	小 學	中 學
	師 範	師 範	師 範	師 範

三百五

書科教理地本日

紀伊	淡路	阿波	讃岐	伊豫	土佐
八四九	九二	三三三	三四八	六三五	五八五
—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—
四八、九五〇	一〇、三七五	三四、四一〇	四二、三〇二	五六、六四四	四一、二七七
二四六	—	三〇九	—	一六〇	六三五
七六	—	一三七	—	一五八	一三〇

學齡者百ニ對スル修學者ノ多少ヲ視ルニ、土佐ニ六十讃岐ニ四十三伊豫ニ四十二、紀伊ニ四十半、淡路ニ三十九、阿波ニ卅八半ナリ、明治廿一年ノ調査ニ依ルニ、本道ニアリテ人口一萬以上ヲ有スル都市ハ左ノ如ク、

- 德島(阿波) 六〇、〇八〇 和歌山(紀伊) 五五、〇九七
- 高松(讃岐) 三八、二九四 高知(土佐) 三一、〇二九
- 松山(伊豫) 二四、四一〇 撫養(阿波) 一八、四七七

南 海 道

丸 龜讚岐 一七、二四一 今 治(伊豫) 一一、八二七
 宇和島(伊豫) 一一、四六六 觀音寺(讃岐) 一一、二五一
 德島ハ阿波國名東郡ノ東北ニアリ、吉野川口ニ位ス、市坊廿九、戶數壹萬四千二百七十三、船舶ノ往來頻繁ニシテ商業盛旺ヲ爲シ、實ニ四國第一ノ都會アリ、德島縣廳ヲ此ニ置ク、近郷ニ藍、茶、絨織等ノ產物アリ、撫養ハ德島ノ東北五里ニアリ、一良港ニシテ稍、繁榮ヲ爲ス、戶數四千餘、港ノ北方ニ有名ノ鳴門アリ、
 和歌山ハ紀伊ノ國ノ西北ニ有リ、紀伊川ノ南涯ニ位ス、北ニ鬱蒼タル連峯ニ對シ、南ハ和歌ノ浦ニ臨ム、市坊二百八十餘、戶數壹萬三千ニ過ク、和歌山縣廳ノ所在地ニシテ商業繁昌ス、市ニ緞糸、絨羽織、忍冬酒、松葉傘等ノ產アリ、輓近盛ニ草紙、綿フヲネル及ヒ靴ヲ製出ス、近郷ニ和歌ノ浦並ニ三井寺ノ勝地アリ、
 高松ハ讚岐國香川郡ノ北邊ニアリ、海ニ瀕ス、昌盛ナル良港ニシテ船

日本地理教科書

船常ニ幅漕ス、市坊凡六十、戸數八千五百六十八、香川縣廳ノ所在地ナリ、沿海魚介ニ富ミ、近村ニ煙草、保多綿等ヲ出ス、高松ノ東北ニ岬角アリ、其近傍ハ即チ屋島ノ古戰場ナリ、

丸、龜ハ讚岐國那珂郡ノ東北隅ニアリテ一良港ヲ爲ス、戸數四千二百餘、之ヨリ琴平町ニ達スル鐵道アリ、琴平神社ニ詣ル旅客四時絶ユルコナシ、

松山ハ伊豫國温泉郡ノ西隅ニアリ、市坊六十三、戸數七千六百廿四、愛媛縣廳ヲ此ニ置ク、市ヲ去ル一里半ニシテ三津浦アリ、此間鐵道ヲ設置ス又數十町ヲ過キスシテ著名ノ道後温泉ニ到ルヘシ、市ニ木綿織ノ産アリ、

高知ハ土佐國土佐郡ノ南方ニアリ、浦戸港ニ隣ス、市坊凡五十、戸數九千九百餘アリ、高知縣廳ノ所在地ニシテ、土佐國物産ノ輸出ハ主ニ此市ヲ經過ス、浦戸港ノ近海漁業盛ナリ、

南海道

今、治ハ松山ノ東北十一里半ニアリ、稍繁華ナル一港ナリ、戸數二千七百九十五、宇和島ハ伊豫ノ國ノ西南端ニ位ス、近海漁業盛ニ行ハル、之亦一箇ノ都會ナリ、

備考

岬角 城崎、田倉崎、雜賀崎、荒崎、白崎、比井岬、瀬戸崎、安宅崎、江住崎、田並崎、潮岬、太他崎、梶取崎、三輪崎、猪鼻、箕山鼻、楠崎、三木崎、九木崎、紀伊、松尾崎、生石崎、門崎、潮崎、淡路、大磯崎、大崎、和田鼻、浦生田岬、阿波、大串崎、觀音岬、尾崎、九重岬、三崎、金崎、大角崎、釋迦鼻、讚岐、佐田岬、由良岬、大隅鼻、梶取岬、伊豫、室戸岬、行當岬、羽根岬、手結岬、龍岬、與津岬、井田岬、布岬、蹉陀岬、土佐

海峽 加太峽、大島海峽、紀伊、岩屋峽、山良峽、淡路、鳴門、小鳴門、阿波、鳴峽、樺峽、讚岐、來島海峽、大下峽、伯方海峽、伊豫

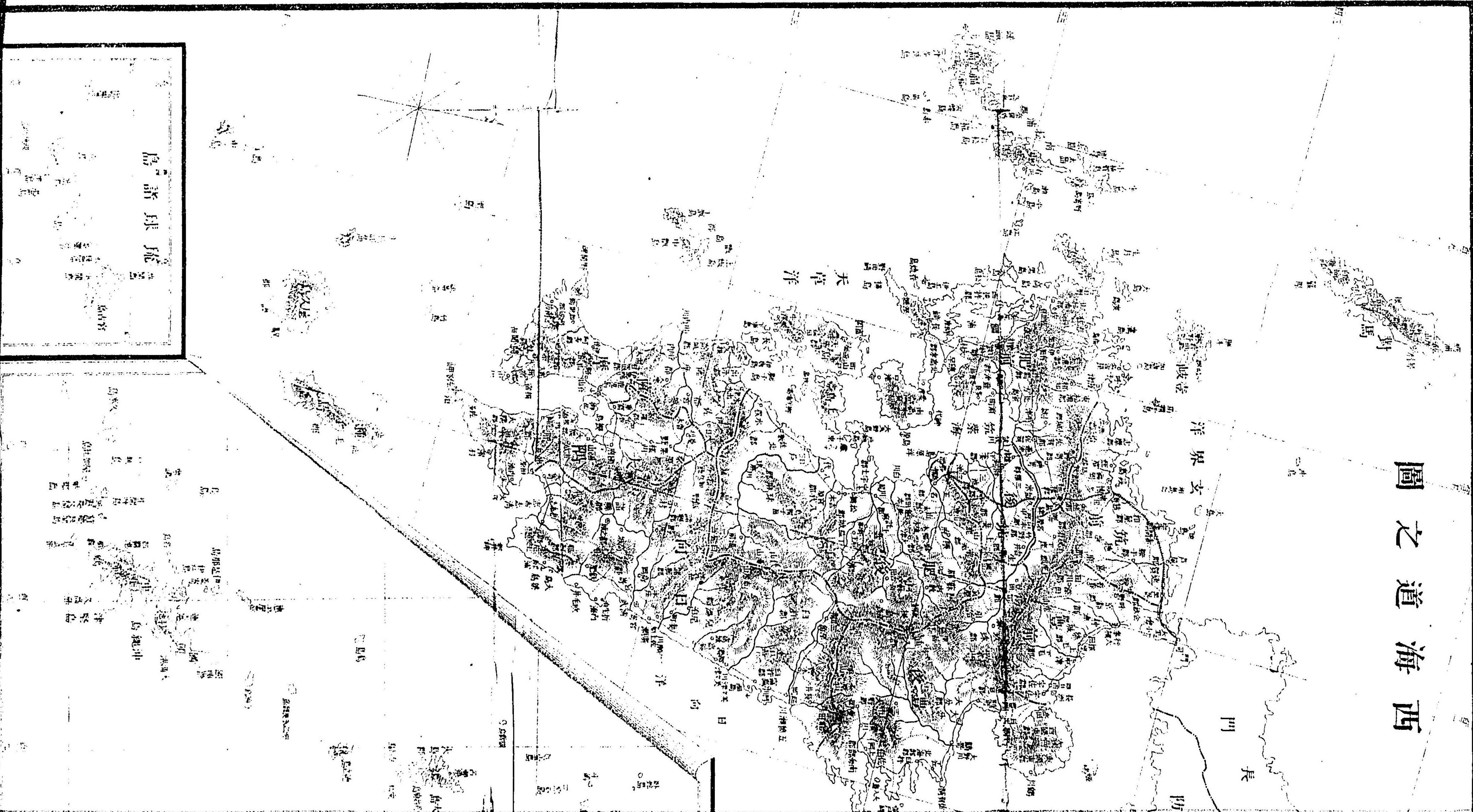
屬島 友島、浦神島、江洲崎島、大島、向島、鈴島、紀伊、沼島、淡路、大毛山、高島

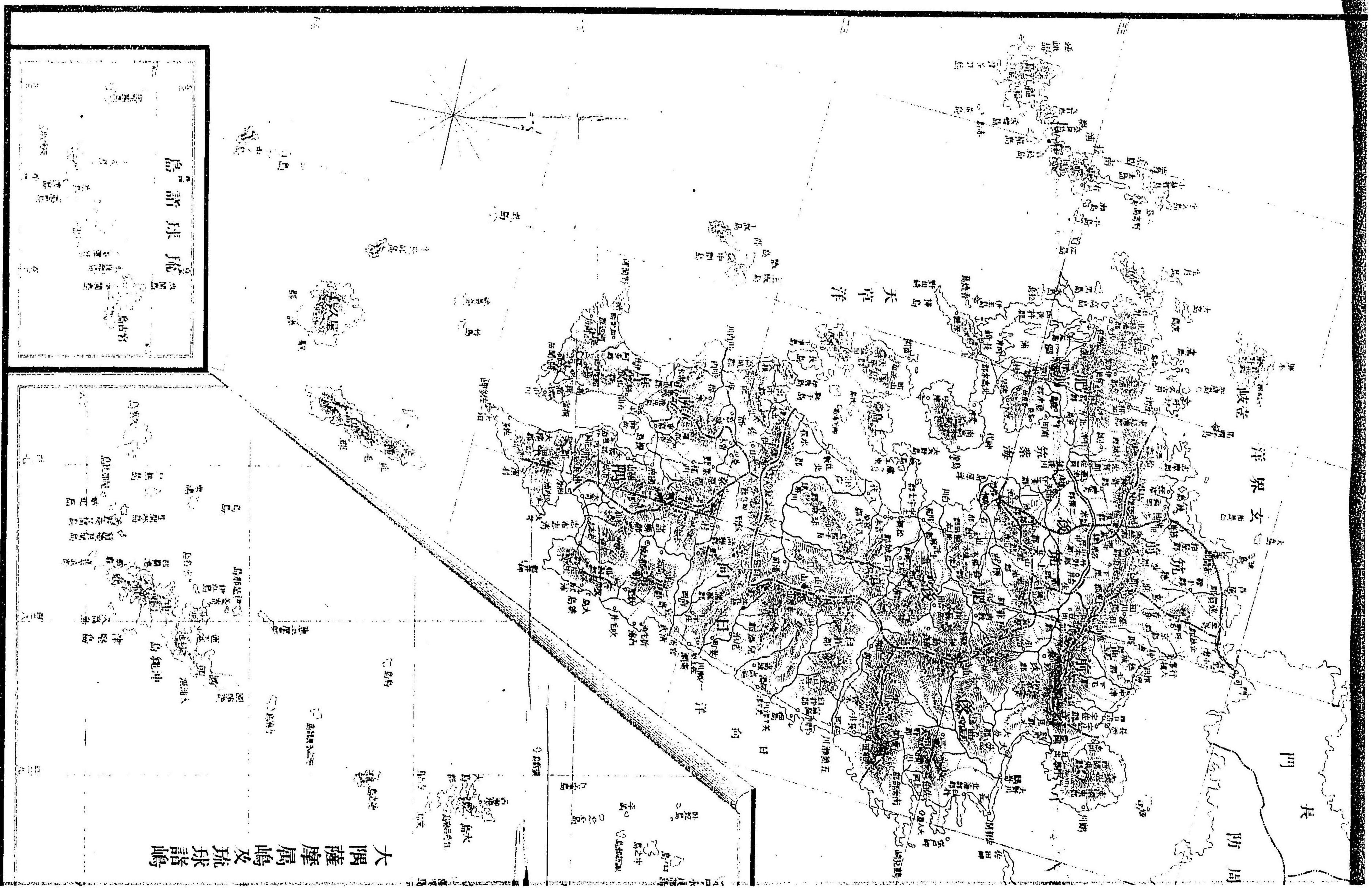
都市 備考

三百十

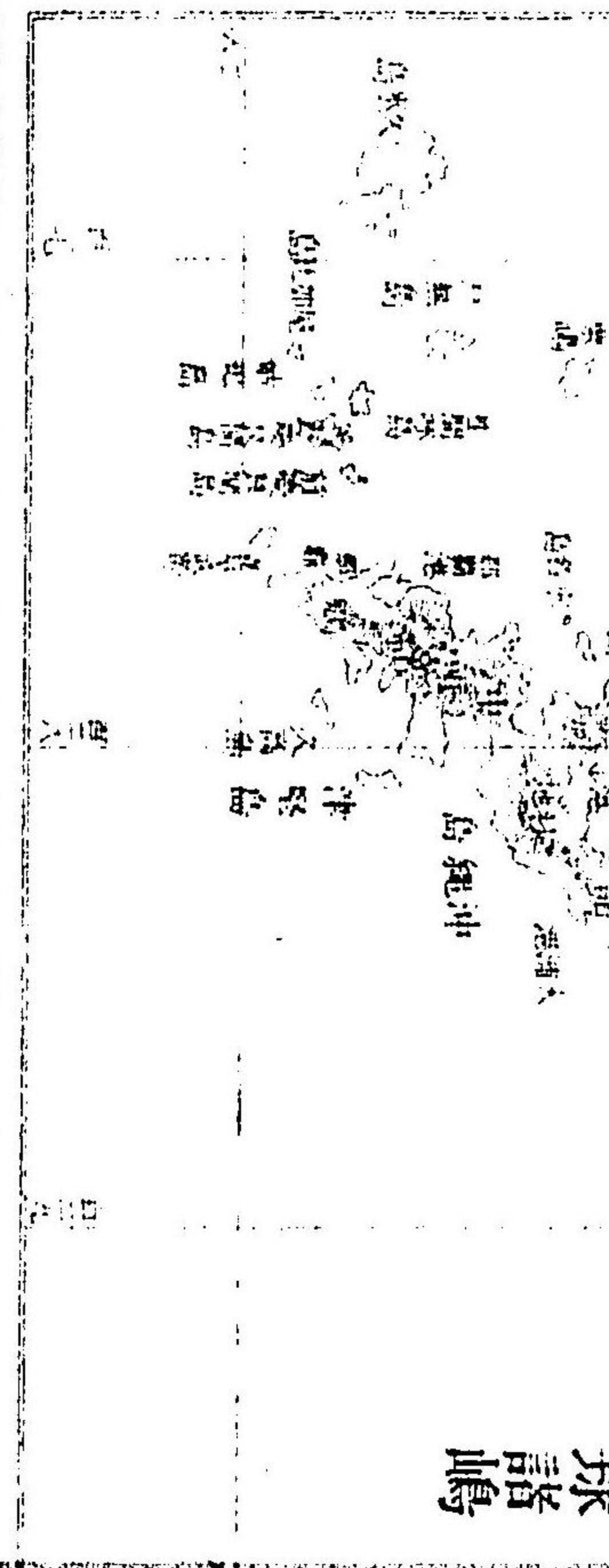
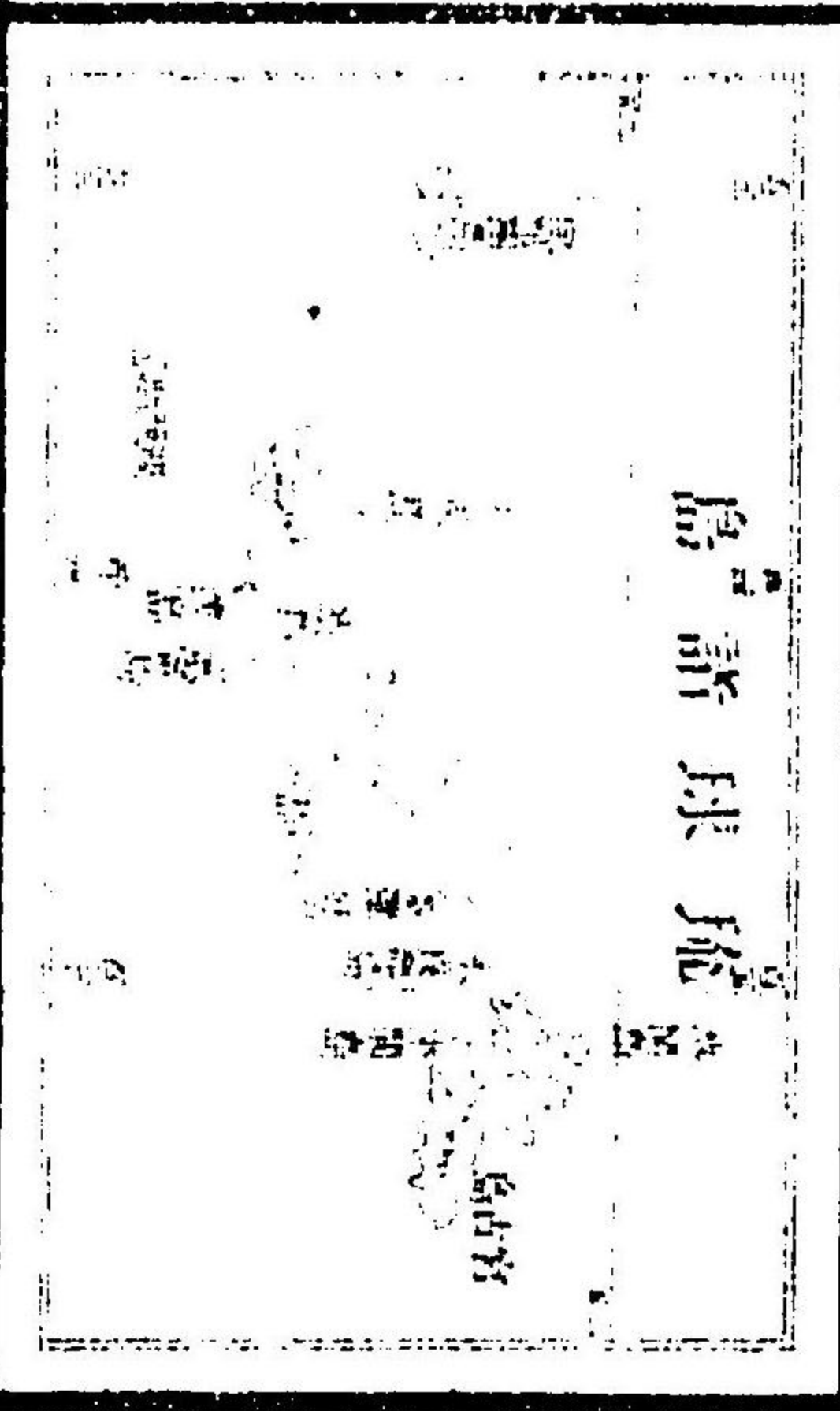
島田山、古勝島、伊島、大島、出羽島、阿波、小豆島、周國三十里餘人口凡四萬
 宜小豐島、豐島、向島、耳島、男木島、女木島、家島、箱島、井島、屏風島、几帳島、牛
 首島、荒神島、鹽飽島、櫃石島、與島、廣島、手島、高見島、佐柳島、大槌島、粟島、志
 々島、大鷲島、伊吹島、霞岐、大島、津島、大三島、伯方島、岩城島、赤穂根島、生名
 島、弓削島、佐島、高井神島、冲島、大下島、小下島、岡村島、野忽那島、陸月島
 忽那島、怒和島、津和地島、二神島、興居島、地大島、冲大島、太良島、九島、高島、
 戶島、加島、浦口、振島、御五神島、竹島、加島、伊豫、柏島、冲島、鶴來島、大島、土佐

西海道之圖

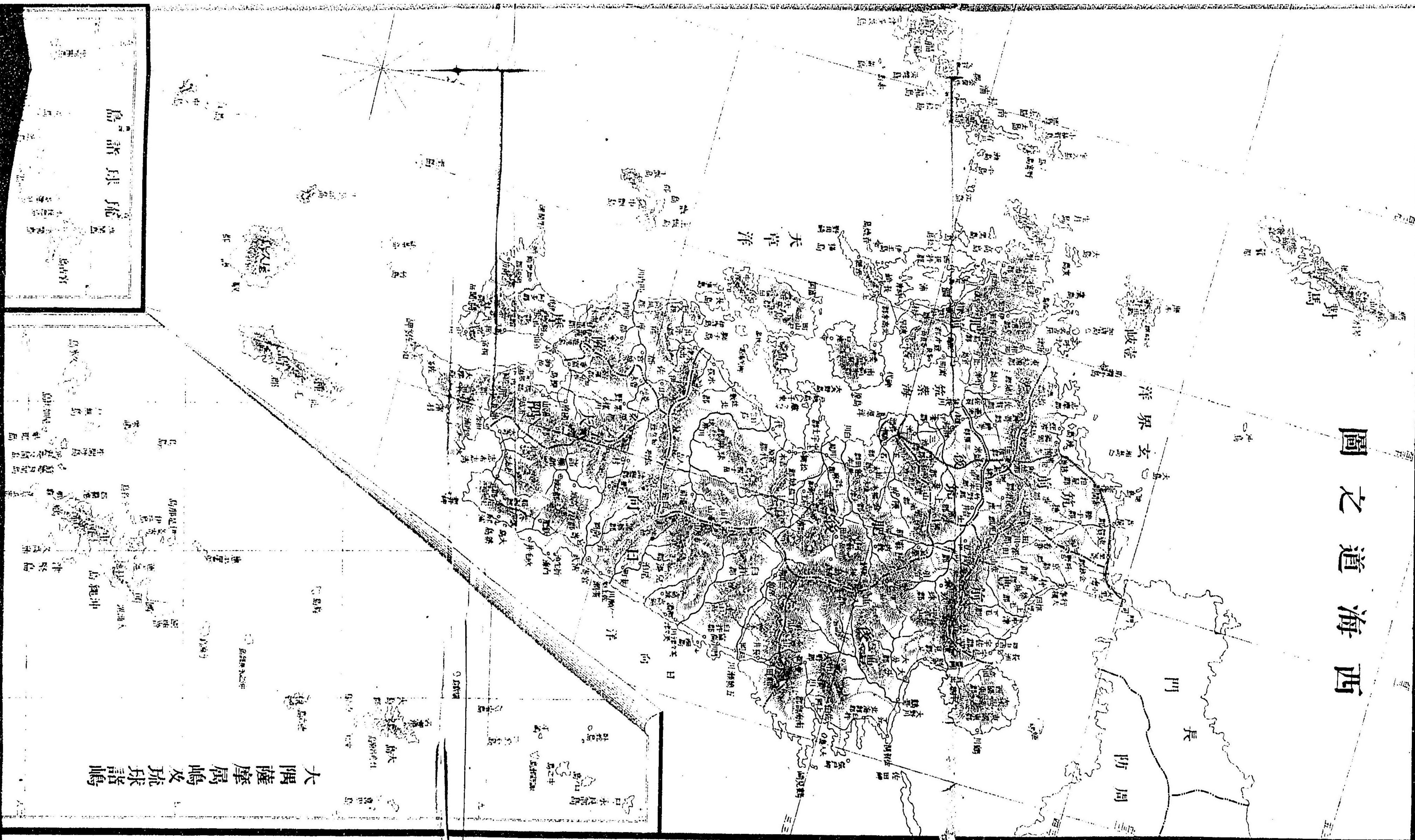




大隅薩摩屬島及琉球諸島



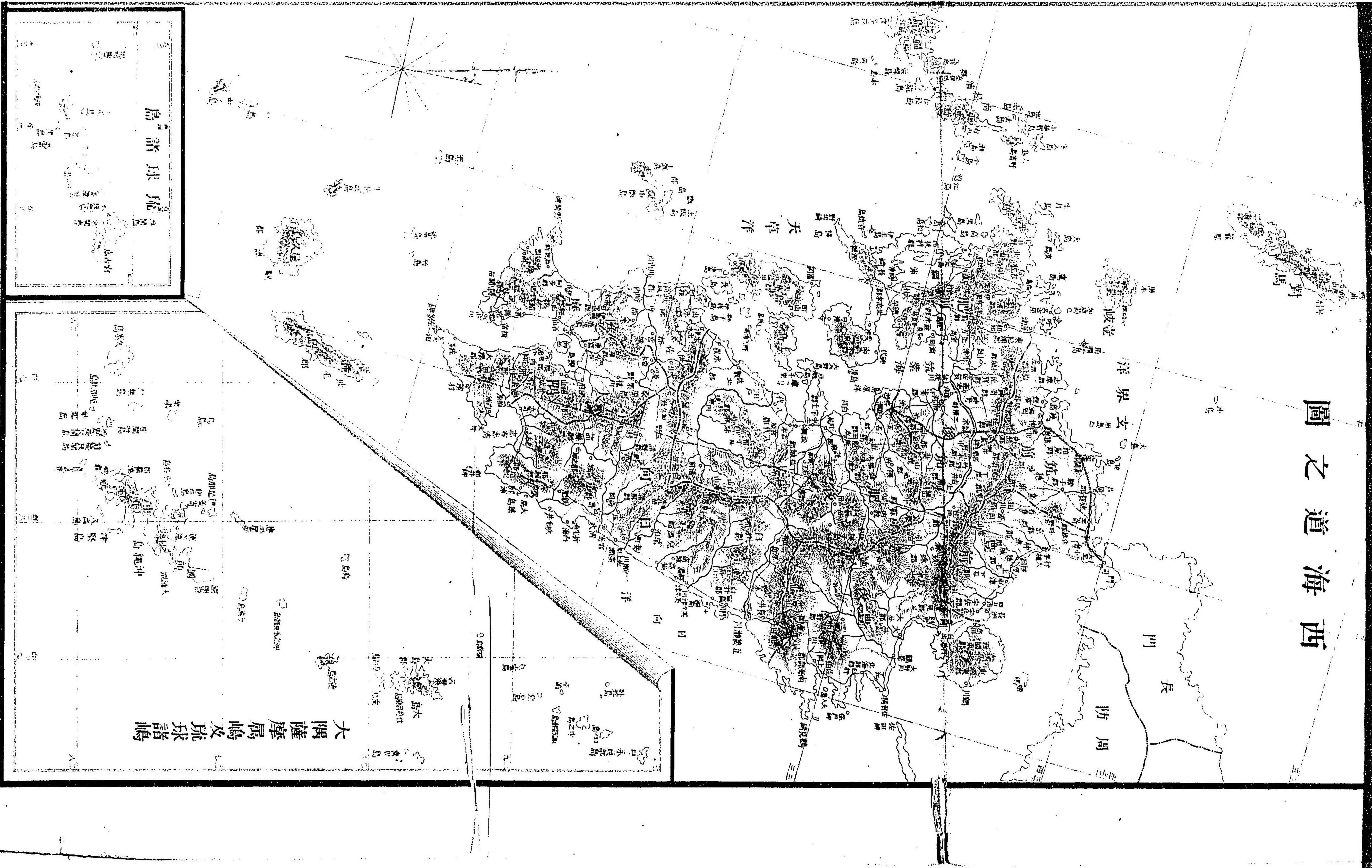
圖之道海西



大隅薩摩屬島及琉球諸島

島諸琉

圖之道海西



大隅薩摩屬島及琉球諸島

島諸球庵

第九章 西海道

西海道ハ日本帝國ノ西端ニシテ、筑前、筑後、豊前、豊後、肥前、肥後、日向、大隅、薩摩、九州、壹岐、對島及ヒ琉球羣島ヲ以テ成リ、北ハ速瀬ノ瀬戸ヲ隔テ、長門國赤間關ニ向ヒ、西北ハ壹岐對島ヲ統テ朝鮮ニ對シ、東ハ豊後國關岬ヲ以テ伊豫國佐田岬ニ別レ、南ハ琉球ノ羣島ニ依リテ大瀨島ニ連ラントス、而シテ西ハ遠シ、東海ニ瀕ス、

九州ハ北緯廿六度五十九分ニ起リ、同卅三度五十八分ニ達シ、東經百廿八度十五分ヨリ同百三十二度四分ニ至ル、而シテ琉球群島ノ極南ハ北緯廿四度六分ニ位ス、

九州ノ沿岸參差凸凹スルヲ頗ル甚シク、或ハ岬ヲ爲シ、或ハ灣ヲ爲シ、又變シテ半島ト成リ、此ニ地峽ヲ爲シ、彼ニ海峡ヲ顯ス、等千差萬樣、恰モ地形模範圖ヲ見ルカ如シ、而シテ其概形ハ一大曲玉狀ヲ呈ス、豊後國門司ヨリ大隅國佐多岬ニ至ル距離凡七十五里半強、九州ノ東西平均潤凡

三十五里ニシテ本道ノ全面積ハ二千八百廿七方里八分ナリ、

(備考)

	(面積)	(周圍)
九州本地	二二三一 ^ガ 一八六	八六一 ^ハ 一八
壹岐本地	八五五	三五四四
對島本地	四三九五	一八六二七
琉球五十五島	一五六九一	三五一〇六

九州ニハ南北ニ貫通セル山脈アリ、延テ琉球群島ニ達ス、而シテ北部ニハ中國山脈ノ餘波ヲ容レ、四國ノ東西山脈ハ九州ノ中央ヲ橫斷シテ天草島ニ出ツ、九州ニハ火山夥多アリ、其厩集セル地方ハ肥前半島、肥後ノ東北、鹿兒島灣ノ四近等ナリ、又壹岐州南諸島及ヒ琉球群島ハ皆火山岩ヲ以テ成ルト稱シテ可ナリ、

日本地理教科書

西海

四國山脈ノ餘波ニ屬スル峯嶺ニハ筑前ノ浮嶽一名筑紫富士(二、七八五、二尺)富山(三、二七六、九尺)天拜山(八、九七、六尺)筑後ノ高良山(一、二〇一、二尺)耳油山(二、八一八、二尺)彦山(三、八六一、尺)豐前豐後、筑前ニ跨ル豐前ノ福知山(三、〇九二、一尺)豐後ノ由布嶽(五、六六二、八尺)肥前ノ天山(二、九一七、二尺)アリ、肥後ノ八方ヶ嶽(三、七七一、九尺)雁回山(一、一八四、六尺)市房山(六、一三八尺)白髮嶽(四、八四一、一尺)日向ノ石堂山(五、五五七、二尺)霧島山一名高千穂峯(五、五〇一、一尺)大隅ノ櫻島嶽(三、九九五、尺)薩摩ノ開開嶽(三、〇二六、一尺)野間岳(一、八四八、尺)金峯山(二、一九二、二尺)ハ皆南北山脈ニ屬シ、豐後ノ九重山(五、六六六、一尺)祖母ヶ嶽(五、六八五、九尺)肥後ノ阿蘇嶽(五、三〇三、一尺)等ハ四國山脈ノ餘波並ニ九州南北脈ノ會合スル所ニ聳立ス、而シテ肥前ノ温泉ヶ嶽ハ中國山脈ニ屬スルモノナルヘシ、

豐前及ヒ筑前ノ川ハ多ク北ニ流レ、周防灘或ハ玄界灘ニ注ク、肥前ノ沿岸ハ左折右曲、或ハ北ニ長ク、或ハ南ニ突出スルヲ以テ、川河ノ方向一

定セス、而シテ豊後並ニ筑後以南ノ諸水ハ東西ノ兩方ニ流走スルモノ多シ、要スルニ九洲ニハ溪谷縱横スルヲ以テ、河流ノ方向亦一定セス、九洲ニハ東西及ビ南北ノ兩山脈縱横シ長溪ニ乏シキヲ以テ、長川モ亦稀有ナリ、然レドモ十里以上ノ川河亦少シトセス、茲ニ其最著ナルモノヲ舉ン、

日 本 地 理 教 科 書

筑後川ハ上流ヲ千年川ト云フ、二源アリ、一ハ肥後國阿蘇郡小國山ニ發シ、一ハ豊後國直入郡九重山ヨリ出ツ、兩川同州日田郡下井手ニ相會シ、暫ク筑前筑後ノ國堺ヲ逐フテ流走シ、久留米ノ北ニ出テ、又肥前筑前ノ州堺ヲ爲シ、筑後國三瀨郡大野島ノ東北ヲ繞リテ筑紫海ニ入ル、長凡卅五里、瀧五町ニ過グル所アリ、抑筑後川ハ西海第一ノ大川ナリ、故ニ利根川ニ比シテ之ヲ筑紫次郎ト稱スルヲアリ、舟楫ノ便乏シカラス、川内川ハ兩源アリ、一ハ肥後國球摩郡白髮嶽ニ出テ、一ハ日向國諸縣郡狗留孫山ニ發シ、二川薩摩國伊佐郡手山郷下殿村ニ會シ、漸ク巨流ヲ

西 海 道

爲シテ西南ニ走リ、薩摩郡高江郷久見崎ニ至リテ海ニ入ル、長凡四十六里、十六里間舟楫ノ便アリ、大野川ハ源ヲ豊後國ノ西南隅並ニ肥後阿蘇山ノ東麓ニ發シ、諸水大野郡矢田村ニ至リテ會合ス、其上ニ沈墮瀑アリ、之ヨリ河道東北ニ向ヒ、鶴崎ヲ經テ海ニ入ル、長凡三十四里、潤二町半ニ垂トス、五箇瀬川ハ日向ノ北邊ニアリ、源ヲ臼杵郡岡村山中ニ發シ、阿蘇山東測ノ諸水ヲ容レ、途チ東南ニ採リ、延岡舊城ヲ繞リ、川島村東海港ニ至リ海ニ入ル、長凡三十里、七里間舟楫ヲ通スベシ、一、瀬川、又名二瀬川ハ源ヲ日向國臼杵郡ニ發シ、南流シテ兒瀧郡米良谷ニ入リ、東南ニ折リ、又東ニ流レテ小町屋ヲ過ギ、更ニ東南流シ、徳淵港ニ至リ、海ニ入ル、長凡三十里、上流廿町、河身最モ廣ク、中ニ洲岐ヲ抱ク、多少舟楫ノ便アリ、美々都川ハ二源アリ、一ハ日向國臼杵郡飯ヶ嶽ノ東麓ニ出テ、一ハ同

日本地理教科書

郡向山間ニ發ス、雨水山三ヶ村近傍ニ會合シ、東南ニ流レ、美々津ニ至リ海ニ入ル、長廿八里、五里間舟楫ヲ通スヘシ、

大丸川ハ源ヲ日向國臼杵郡椎葉山津賀尾中山谷ニ發シ、南流シテ兒瀧郡ニ來リ、川原村ヲ經テ東ニ析レ、高鍋村蚊口浦ニ至リ海ニ入ル、長凡廿五里、

大淀川ハ二源アリ、一ハ肥後國球摩郡皆越山中ニ發シ、一ハ日向國諸縣郡石原山中ニ出ツ、雨水諸縣郡笛水村ニ會合シ、東ニ流レ、那珂郡下別府村及ビ福島村ノ間ニ至リ海ニ入ル、長凡廿五里、瀧殆ド三町半ニ至ル、六里間舟楫ヲ通スヘシ、

球摩川ハ源ヲ肥後國八代郡五ヶ莊並ニ球摩郡片尾山ニ發シ、雨水柳瀬村ニ至リテ會合シ、西北流シテ先村ニ至リ、南ニ折レテ八代郡ニ入リ、右流左折幾回カ彎曲シ、南彌次村ニ至リ海ニ朝ス、長廿四里餘、河口ヨリ十六里間即チ八吉ニ至ルマデ舟楫ヲ通スヘシ、河口ニ港アリ、八代ト

云フ、

西海道

緑川ハ源ヲ肥後國阿蘇郡三方山中ニ發シ、西流シテ上益城郡ニ入リ、尙ホ西方ニ進流シ、上益城及ビ下益城兩郡界ニ蜿蜒シ、飽田郡北走瀨村ニ至リ海ニ入ル、長凡廿一里、

武雄川ハ源ヲ肥前國杵島郡矢筈村ニ發シ、東流シテ、永野村、甘久村、成瀬村等ヲ經、佐留志、大戸二村間ニ至リ海ニ入ル、長凡廿一里半、

菊池川ハ肥後國菊池郡深葉山中ニ發シ、數條ノ礮水ヲ容レテ西南流シ、西寺ノ近傍ニ至リテ途ヲ西北ニ變シ、玉名郡下津原ヨリ復タ西南ニ流レ、滑石村ニ至リテ海ニ入ル、長凡十九里半、河口ニ小港アリ、晒ト云フ、

矢部川ハ源ヲ筑後國上妻郡黒塚山ニ發シ、西流シテ下妻郡長田村ニ至リ二流ニ分ル、一派ハ山門郡島堀切村ニ至リテ海ニ入り、一派ハ同郡柳川ノ北ヲ經、端池村ニ至リ海ニ朝ス、長共ニ十五里餘、別ニ一派アリ、平松川ト稱シ、筑後川ニ注ク、

日本地理教科書

白川ハ源ヲ肥後國阿蘇郡南郷白川村ニ發シ、西南流シテ合志、上益城、飽田託麻ノ四郡ニ界シ、熊本ノ南ニ出テ、飽田郡小島村百貫石ニ至リテ海ニ入ル、長凡十五里、舟楫通スヘシ、河口ニ小島港アリ、

遠賀川ハ源ヲ筑前國嘉麻郡嘉麻嶺ニ發シ、大体ノ方向ヲ北ニ採リテ流走シ、遠賀郡蘆屋港ニ至リテ海ニ入ル、長殆ト十五里、舟楫ヲ通スヘシ、遠加川ノ遠賀郡楠橋村ニ至ルヤ、堀川ヲ分流ス、堀川ハ元和及ヒ寛延中里田氏ノ開鑿セシ所ニシテ、灌漑並ニ運漕ノ便利少ナカラス、長二里、濶六間、陣原ニ至リ海ニ入ル、

右諸水ノ外、長十里ニ達スル川河ヲ舉レハ、豊前ニ今川(十里餘)、山國川(十三里)、豊後ニ番匠川(凡十里)、肥前ニ川上川(十里)等アリ、

九州ニハ大湖沿頗ル稀ナリ、其稍ナルハ筑前ノ鴨生田池(周圍三里二町)日向ノ御池(周圍一里十二町)、薩摩ノ池田湖(周圍四里廿九町餘)等ニシテ、皆火山湖ニ屬スルカ如シ、左ニ泉質並ニ温度ノ稽查ヲ經タル礦泉ヲ

西海道

舉クヘシ、	泉名	泉質	温度	泉名	泉質	温度
筑前脇田	單純	八二度	筑前武藏	單純	一一四度	
楠田	未詳	六一	平田	鹽類	一三六	
東古賀原	單純	六四	地藏	酸性	未詳	
藤田	單純	六二	湯ノ坪	炭酸	一二五	
葛尾	單純	五九	湯ノ平	鹽類	一九七	
別府	炭酸	一三九	寒ノ地獄	硫黃	五九	
濱脇	炭酸	一一六	筋湯	酸性	一四五	
觀海寺	鹽類	一四二	寶泉寺	鹽類	一五二	
上田	酸性	一二二	天ヶ瀬	鹽類	一四五	
堀田	炭酸	九六	六ヶ迫	未詳	五九	
鏡輪	鹽類	一一七	肥前柄崎	炭酸	一一八	

書科教理地本日

肥後				肥前				泉名	泉質	温度		
日奈久	杖立	滿願寺	地嶽	平山	大坪	山鹿	小濱				温泉嶽	古湯
炭酸	鹽類	炭酸	炭酸	單純	單純	硫黃	鹽類	硫黃	單純	單純	炭酸	
一〇四	一九九	一〇四	一〇四	九六	九六	九三	二一二	一四九	九六	二〇〇	二〇三	

薩摩				日向				泉名	泉質	温度		
木場	市來	湯ノ浦	大牟田	長瀬	六反田	遠穴	湯ノ元				中村	林
炭酸	鹽類	炭酸	鹽類	酸性	鹽類	炭酸	炭酸	未詳	鹽類	炭酸	鹽類	
未詳	一一八	一五二	六六	六七	一三二	七四	一〇二	六〇	一〇四	七八	一一四	

水理

三百二十一

道海西

大隅						薩摩					
栗川	有村	榮ノ尾	明礬山	硫黄谷	關平	鋒投	栗野嶽	湯川内	湯田	市比野	柴垣
鹽類	鹽類	硫黃	硫黃	硫黃	鹽類	鹽類	單純	單純	單純	單純	炭酸
一五二	一〇二	一六七	一五四	一四一	一二七	一三九	一九三	九九	一一〇	七〇	未詳

大隅						薩摩					
飛岡	古里	福山	敷根	木ノ坊	米丸	山ノ湯	東ノ新湯	安樂	平落	鹽浸	
硫黃	鹽類	硫黃	單純	炭酸類	炭酸類	炭酸類	炭酸類	炭酸類	炭酸類	炭酸	
八四	一一三	六八	六〇	一一八	八三	一二八	一二九	一二九	一三七	一二八	

氣候

三百二十一

九州ハ四面繞ラスニ海ヲ以テシ、北緯廿六度五十九分ヨリ同州三度

五十八分ニ達シ、土地ノ高低ニハ五千六百尺餘ノ差アリ(山脈ノ部ヲ看ルヘシ)且高峻ノ連山島中ニ縱横ス、沿海ニハ黒潮ノ一派薩摩ノ南方ヲ過キテ西ニ回リ、朝鮮海峡ヲ經テ日本海ニ入ル、
 如斯ク氣候ヲ變更スルノ原因幾多アリ、然ルニ、九州ノ測候所ハ皆沿海ニアルヲ以テ、内地特ニ山村ノ氣候ハ未ダ之ヲ詳ニセズ、故ニ茲ニハ先ツ吾人ガ業已ニ熟知セル材料ニ就テ氣候ノ概要ヲ述ヘントス、數年ノ實測ニ基キテ左ニ西海道諸測候所ノ寒暖ヲ舉ク、

日本地理教科書

	最	高	最	低	平	均
鹿兒島	八七、九八	三五、四二	六一、七〇			
宮崎	八七、八〇	三三、八〇	六一、二六			
長崎	八七、九八	三五、〇六	六〇、二六			
大分	八六、〇〇	三三、〇八	五九、一八			
嚴原	八七、二六	三一、八二	五九、八二			

右表ニ由リテ視レハ西海道ノ沿岸ハ平均六十度四分二厘餘ノ溫度ヲ有スルヲ知ルヘシ、而シテ東涯ハ概シテ西岸ヨリ冷涼ナリ、

西海道

北海道ノ中央即チ北緯四十三度近傍ニハ恒雪線凡六千五百尺ノ高キニアリ、富士山ノ近傍(北緯凡卅五度)ニハ該線殆ト壹萬二千五百尺ニ達ス、今恒雪線ハ單ニ緯度ノ南北スルニ從フテ上下スルモノトセハ九州ノ中部北緯卅二度邊ニハ二萬七百五十尺ノ高キニ登リテ始メテ千

秋ノ雪ヲ觀ルヘシ、
 次ニ氣壓、濕度、並ニ雨量ノ平均ヲ示シ又風ノ方向ヲ掲クヘシ、但風ノ方向トハ多數方向ヲ云フニアリ、

	氣	壓	濕	度	雨	量	風ノ方向
鹿兒島	七六、二、四	七七	二〇、六、八、三	東及北西			
宮崎	七六、二、五	七八	三六、七、二、八	西及東			
長崎	七六、二、五	七六	二〇、九、六、八	北及西南			

水運

物産

大分	七六一九	七六	一七〇八一	北西及南
嚴原	七六一二	七七	一七一六三	北西及北

之ヲ要スルニ西海道ハ我國ノ諸道中ニ於テ最モ温度暖ナルモノニシテ琉球ノ如キハ其氣候熱帶地方ニ位セル島嶼ノ氣候ト著シキ軒輕ナシトス、

九州ハ礦産國ナリ、農産國ナリ、魚漁國ナリ、而シテ工業及ヒ商業モ亦決シテ微々タルニ非ス、

礦産ニハ金、銀、銅、鐵、鉛、安質母尼、石炭、硫黃等アリ、就中石炭ハ九州ノ產ヲ以テ全國ニ冠タルモノト爲ス、又筑前、筑後、豊前、肥前、肥後ノ諸州ハ我國ノ石炭庫ト稱シテ可ナリ、明治廿一年ノ統計ニ由ルニ石炭ノ掘出高ハ筑前ニ一二二、六七一、三六七貫、筑後ニ七六、八七二、四七九貫、豊前ニ二五、六〇五、九六二貫、肥前ニ二〇七、一二七、五五四貫、肥後ニ一三、五五八、九九七貫ニシテ總計即チ四億四千五百八十三万六千三百五十九貫ナリ、

三百二十四

故ニ九州ノ石炭掘出高ハ全國掘出高ノ九分以上ニ居ルモノトス、左ニ金銀及銅ノ採收高ヲ舉クヘシ、

	金	銀	銅
筑前	四一、 <small>カ</small>		一、八四八、 <small>別</small>
豊前	一三〇、		二七、一〇二、
肥後			六〇、八四六、
日向	一四〇、		五〇、〇一二、
大隅	二二、六八二、	一四、七六六	
薩摩	一一、六六〇	八七、四二四	

右ノ外肥前ニ一四、五八二、九三〇貫、肥後ニ一、一七六、九三六貫、對島ニ八〇、五一二貫ノ陶土、豊後ニ一九八、〇五四貫、肥前ニ九、二八〇貫、大隅ニ四七、三八八貫、薩摩ニ一二〇、二二六貫ノ硫黃、日向ニ六九五貫ノ鐵、一、五一二貫ノ安質母尼、豊後ニ二二七貫ノ鉛ヲ掘採シタリ、琉球ニモ亦朱、鐵、硫

物産

三百二十五

日本地理教科書

黃石炭等ノ産アリト雖モ未ダ近年ノ掘採高ヲ詳カニセズ、九州ノ米ハ我國ニ於テ頗ル優等ノ位置ヲ占ムルモノニシテ、肥後米及ビ筑前米ノ如キハ古來大坂ノ市場ニ標準米ト成レリ、明治廿二年ノ調査ニ由ルニ西海道(沖繩縣ヲ除ク)ノ稻作附反別ハ粳米ニ卅四萬五千百一町三反歩糯米ニ四萬三千七百五十五町七反歩陸米ニ一萬二千五百四十九町八反歩ニシテ、收穫ハ粳米四百十三萬四千三百六十二石、糯米四十九萬四千二百八十四石、陸米六萬七千八百八石ナリ、又一反ノ平均收穫ハ粳米ニ一石二斗糯米ニ一石一斗三升陸米ニ三斗三升ナリ、更ニ縣別ニ從ツテ米穀收穫ノ多寡ヲ示スベシ、

長崎	粳米		糯米		陸米	
	一反ニ付收穫	陸米	糯米	陸米	糯米	陸米
長崎	二四八宛 <small>石</small>	四二六元 <small>石</small>	一五 <small>石</small>	〇八一 <small>石</small>	〇七三 <small>石</small>	一〇五 <small>石</small>
佐賀	五〇二 <small>石</small>	五、五 <small>石</small>	七	一一三	一一八	〇五〇
福岡	一一五〇 <small>石</small>	三三四 <small>石</small>	一七六	一一四	一一八	〇八〇

西海道

熊本	大分	宮崎	鹿島	合計
七四六 <small>石</small>	五三、〇 <small>石</small>	四七〇 <small>石</small>	四七九 <small>石</small>	四、二四三 <small>石</small>
一〇四三 <small>石</small>	五五、六 <small>石</small>	四三、七 <small>石</small>	五九、九 <small>石</small>	四、九二四 <small>石</small>
一一、一〇〇	四、四〇一	一四、八元	三三、六 <small>石</small>	六、七〇八
一一、七	一一、五	一一、五	一〇、三	一一、〇
一一、七	一一、六	一一、三	〇、九	一一、三
〇、七五	〇、六二	〇、六二	〇、四	〇、五三

明治廿二年日本全國ニ收穫セシ粳米ハ無慮二千九百七十六萬七千五百五十七石ニ達セリ、而シテ西海道(沖繩縣ヲ除ク)ノ産ハ此石數ノ七分ノ一弱ヲ爲ス、粳米收穫ノ多キ亦以テ推知スルニ足ルヘシ、九州及ヒ豊岐、對馬兩島ノ麥類作附反別ハ大麥畑五萬六千九百八十五町六反歩、裸麥畑十八萬七千八百十九町九反歩、小麥畑九萬九千九百四十九町四反歩ニシテ、縣別ニ從ツテ收穫ヲ舉レハ左ノ如シ、

大麥	裸麥	小麥	一反ニ付收穫
大麥	裸麥	小麥	大麥 裸麥 小麥

書 科 教 理 地 本 日

長崎	一四七五	一七九六	六六七	〇九	〇九	〇八
佐賀	七九四	二四七三	〇九二	〇三	〇七	〇六
福岡	六八九	二九〇〇	一七五三	〇七	〇七	〇八
熊本	四六四	三三九四	三三〇三	〇四	〇七	〇六
大分	四八三	二五四二	九二五	〇六	〇三	〇六
宮崎	三三六	六〇五	三七六	一〇	〇四	〇五
鹿兒島	四五六	六二八	三三三	〇四	〇三	〇七
合計	四二一〇	二二〇六	六七三	〇七	〇四	〇六

農

三百二十八

右表ニ由リテ視ルニ右七縣ノ裸麥收穫ハ殆ト全國收穫ノ四分ノ一ニ達ス、而シテ大麥并ニ小麥ノ收穫高モ決シテ些少ニ非サルナリ、西海道ニハ養蠶未タ盛隆ヲ爲サスト雖モ、右七縣カ明治廿一年ニ産出製造セシモノニ繭壹萬四千三百廿一石、蠶卵紙壹萬六千二百三枚、蠶糸壹萬千九百九十六貫、真綿千二百十二貫アリ、而シテ大分縣ヲ以テ九州

西

ニ養蠶盛旺ノ地トス、又茶業ニ關スル統計ヲ視ルニ玉露壹萬八千九百八十貫、煎茶廿六萬四千百八十一貫、番茶三十九萬百五貫、其他ノ種類五十五萬六千百十五貫、即チ合計百廿二萬九千三百八十一貫ヲ製出セリ、是全國製茶高ノ七分一強ニ該當ス、而シテ製茶高廿萬貫以上ニ達スルハ福岡、熊本、宮崎、鹿兒島ノ諸縣ナリ、

海

明治廿一年日本全國ニ製出セシ黑砂糖ハ四百六十二萬六百八十貫ニシテ、就中四百萬貫餘ハ九州ノ産ニ係ハルモノトス、今諸縣ノ同年ノ黑砂糖産量ヲ調査スルニ鹿兒島縣ニ二百二萬七千八百五十五貫、熊本縣ニ百萬八千七十八貫、長崎縣ニ四十三萬九千六百九十一貫、福岡縣ニ廿九萬八千二百五十三貫、宮崎縣ニ十四萬九千九百五貫、大分縣ニ五萬八千九百九十九貫、佐賀縣ニ五萬二千二百八十八貫ナリ、蓋シ四國ハ我國ノ精製糖産地ニシテ、西海道ハ黑糖ノ主要ナル製出地ナリ、

熊本及ビ鹿兒島ノ兩縣ハ我國ニ最モ多ク馬匹ヲ有スルモノナリ、明治

道

農

三百二十九

日本地理教科書

廿一年ノ調査ニ由ルニ熊本縣ノ馬匹ハ十一萬六千九百九十四頭、鹿兒島縣ノ馬匹ハ十一萬五千四百四十頭ニ達セリ、而シテ九州對島及ビ壹岐ノ馬匹ハ合計四十四萬三千八百八十一頭ヲ爲ス、牛ノ數ハ合計三十萬七千七百七十頭ニシテ、長崎、大分及ビ鹿兒島ノ三縣ハ皆五萬乃至六萬、福岡及ビ熊本ノ兩縣ハ四萬乃至四萬五千、佐賀縣並ニ宮崎縣ハ一萬内外ノ牛ヲ有ス、

鹿兒島及ビ長崎ノ煙草ハ世人ノ普ク稱賛スル所ニシテ、其芳名天下ニ顯著タリ、之ヲ斯業ニ熟達セル者ニ聞クニ、鹿兒島ノ煙草ハ一葉ニシテ數十金ヲ價スルモノアリト云フ、其品質ノ佳良ナルハ之ニ由リテ知ルベキナリ、

明治廿年ノ調査ニ由ルニ葉煙草ノ收穫ハ長崎縣ニ五二、三二五貫、佐賀縣ニ六一、七五四貫、福岡縣ニ一一〇、二四七貫、熊本縣ニ二三、四〇四貫、大分縣ニ二三〇、〇五七貫、宮崎縣ニ九八、二八八貫、鹿兒島縣ニ二三二、

西海道

四九四貫合計百萬九千六百十九貫ニシテ、之全國收穫ノ凡六分一ナリ、生蠟モ亦西海道ニ著名ノ農産ナリ、廿年ノ統計ニ由ルニ日本全國ノ生蠟收穫ハ二百九十三萬二千六百八十九貫ニシテ、本道琉球ヲ除クノ收穫ハ實ニ二百三十一萬二千八百四十七貫ニ達セリ、西海道ノ生蠟收穫ノ多キ之ニ至リテ明カナラン、而シテ其收穫ハ長崎縣ニ四二、四三八貫、佐賀縣ニ二八〇、七七〇貫、福岡縣ニ一、四七二、九九六貫、熊本縣ニ一七三、六四〇貫、大分縣ニ二九二、七六六貫、宮崎縣ニ二三、一八五貫、鹿兒島縣ニ二六、〇五二貫ナリ、然レハ則チ收穫ノ殊ニ多キハ福岡、佐賀、大分、熊本ノ諸縣トス、

右ニ述ベタル所ハ西海道農産ノ概畧ナリ、而シテ本道ノ南部ハ我輸出品中ニ主要ノ位置ヲ占ムル樟腦ヲ製出スルコト少小ニ非ザルナリ、古來西海道ニ著名ナル工業ヲ舉レハ筑前ニ博多織、筑後ニ久留米カスリ、製帚、鏝、鎮、豐前ニ小倉織、肥前肥後並ニ薩摩ニ陶器、琉球ニ綿、紬、芭蕉

日本地理教科書

布、朱塗器等アリ、酒類ノ造釀モ亦廣ク諸縣ニ行ハル、就中薩摩及ヒ琉球ノ泡盛ノ如キハ世人ノ普ク知ル所ナリ、

明治廿一年ノ調査ニ由ルニ、九州ニ於テ製織セシ織物價額ハ絹織物九萬七千八百九十三圓、木綿織物百三十六萬六千五百五十八圓、絹綿交織物十五萬九千三百九十四圓、其他ノ種類六萬九千十五圓、外ニ帶地類百九十九萬五千六百十圓ナリ、而シテ織物ノ價額多キヲ爲スハ福岡及ヒ熊本ノ兩縣トス、即チ前者ノ織物價額ハ九十八萬四千百九十圓ニ達シ、後者ニ於テハ四十五萬三千三十四圓ヲ爲ス、

廿年ノ調査ニ由ルニ本道諸縣ノ陶器並ニ磁器ノ製造價額ハ左表ニ列記スルカ如シ、

長崎	陶器價額	磁器價額
八八四 ^円	七、〇三八 ^円	
佐賀	一〇、一〇五	三七〇、八〇〇

西海道

福岡	五、二七八	一三九
熊本	九、九六九	四二
大分	二、七九〇	
宮崎	二六〇	
鹿兒島	六、二九六	一、四三〇

即チ陶器價額合計三萬五千五百八十二圓、磁器價額合計三十七萬九千四百七圓ナリ、而シテ九州ニ於テ多ク陶器及ヒ磁器ヲ製出スルハ佐賀熊本鹿兒島福岡ノ四縣トス、佐賀縣ハ著名ノ有田焼ヲ出シ、薩摩ノ陶器ハ世人ノ嗜好ヲ博スルモノニシテ肥後ノ八代焼モ亦一種ノ優等品ナリ、

明治廿一年ノ調査ニ基キテ左ニ西海道七縣ノ清酒、焼酎及ヒ醬油ノ醸造石高ヲ舉クヘシ、

工	清酒	焼酎	醬油

日 本 地 理 教 科 書

長崎	三四、九八五 <small>石</small>	六一一 <small>石</small>	七、九二七 <small>石</small>
佐賀	四一、二七九	七八二	四、六五四
福岡	一五四、〇二二	一、八八八	五三、四九六
熊本	六〇、六七六	四、八七八	一八、四四九
大分	八七、五一〇	七二五	二、三、五八〇
宮崎	七、九七三	二、二〇三	五、九一六
鹿兒島	四、五四六	四、七二二	四、五九四
合計	三九〇、九九一	一五、八〇九	一一八、六一六

工

三百三十四

右表ニ由テ視ルニ七縣ノ清酒釀造高ハ全國釀造高ノ十分一強燒酎ノ石數全國石數ノ四分一、醬油石數ハ全國石數ノ十一分一ニ該當ス、而シテ清酒ハ多ク福岡縣及ヒ大分縣ニ釀造シ、燒酎ハ熊本及ヒ鹿兒島ノ兩縣ニ多ク製シ、醬油ハ福岡縣ノ釀造高ヲ以テ最高量トス、九州ノ東部並ニ南部ニハ高峯連綿トシテ數十里ニ跨リ、大ニ交通ノ

西 海 道

便チ欠キ、爲メニ通商ノ利多カラスト雖モ、沿岸ニハ無數ノ良港チ有シ、亦西北部ハ往來ノ便宜シク、且ツ博多及ヒ久留米ノ間二十二哩半餘ノ鐵道チ布設ス、以是此地方ニハ商業稍々繁昌ス、而シテ肥前ノ長崎ハ我第三ノ開港場タリ、九州ニハ諸種ノ市場九十九アリ、就中魚鳥獸類ノ市場ハ福岡縣ニ三十六、長崎縣ニ二十三、牛馬ノ市場ハ大分縣ニ七福岡縣ニ三アリ、其他ハ僅少ナレハ之ヲ畧ス、商賈ノ種類及ビ多少ヲ舉レハ問屋ハ長崎ニ二十七、佐賀ニ四十、博多及ビ久留米ニ六十七、熊本ニ十一、大分、臼杵及ビ中津ニ三十四、宮崎、都城及ビ延岡ニ五十三、鹿兒島ニ十七、仲買ハ長崎ニ三十、佐賀ニ百十、博多及ビ久留米ニ百八十二、熊本ニ百九十九、大分、臼杵及ビ中津ニ百二十六、宮崎、都城及ビ延岡ニ五十五、鹿兒島ニ六十三、而シテ九州ニ於ケル卸賣商ノ數ハ無慮八百有餘ニ達ス、

商

三百三十五

筑前ノ博多ニ米商會所アリ明治廿年ノ調査ニ由ルニ賣買出來高ハ五十六萬五千石ニシテ同所ノ株百圓ニ對スル割賦金ハ二圓六十一錢ヲ爲セリ商工會議所ハ之ヲ福岡小倉熊本及ビ鹿兒島ニ設置ス銀行ノ種類並ニ多少及ビ資本金ヲ調査シ此ニ之ヲ枚舉セントス、

日 本 地 理 教 科 書	國 立 銀 行		私 立 銀 行		銀 行 類 似 會 社	
	數	資 本 合 計	數	資 本 合 計	數	資 本 合 計
長崎縣	三	五三二、五〇〇	四	三二五、〇〇〇	四	一二五、〇〇〇
佐賀縣	二	三九〇、〇〇〇	八	九〇〇、〇〇〇	六	九八、一四八
福岡縣	四	七三〇、〇〇〇	七	三七一、〇〇〇	一	二八六、五〇〇
熊本縣	三	三九三、七五〇	二	六五、〇〇〇	四	四三二、八五〇
大分縣	二	二六〇、〇〇〇	二	八〇、〇〇〇	四	五六九、二〇二
宮崎縣	二	一〇〇、〇〇〇	一	—	九	一一一、〇〇〇
鹿兒島縣	二	六〇一、三八九	一	—	五	六六、九〇〇

日 本 地 理 教 科 書

合 計 一八三、〇〇七六三九 二三一、七四一、〇〇〇 七九 一三〇、〇〇三五

此ニ明治廿年ノ調査ニ基キ貨物十萬以上ヲ搭載シテ本道ノ諸港ニ出入セシ船舶ヲ列記スベシ、

蒸

瀨

船

出

港

入

港

西 海 道

西 海 道	出 港		入 港	
	船 數	噸 數	船 數	噸 數
長崎縣	一、七二六	九三五、三〇三	一、七二八	九二八、八五七
佐賀縣	二二七	三三三、二八一	二二七	三三三、二八一
福岡縣	四、六五二	三六七、七三二	四、六五八	三六九、九四九
熊本縣	九七八	一一五、一七〇	九七八	一一五、一七〇
大分縣	一、三六三	一六六、八〇二	一、三六三	一六六、八〇二
宮崎縣	二九一	三三三、八四五	二九一	三三三、八四五
鹿兒島縣	三、一六七	八六七、五七一	三、一六八	八四一、二二三

三三三三七

西洋形帆船

日本地理教科書

出港	西洋形帆船		入港	
	船數	噸數		
長崎縣	四、九七九	三三九、四八九	四、九六七	三三八、九三九
佐賀縣	二一七	二二、五七〇	二一七	二二、五七〇
福岡縣	一五〇	一五、六八〇	一五二	一五、一六四
熊本縣				
大分縣	五七	四、〇七六	五五	三、七六六
宮崎縣	一、〇〇二	一五、三三五	一、〇〇〇	一五、一七七
鹿兒島縣	四九	五、七〇六	四五	五、三四二

出港 入港 船數 噸數

西海道

出港	西洋形帆船		入港	
	船數	噸數		
長崎縣	一一、四六七	五一五、二二八	一一、五一八	五一八、九八八
佐賀縣	一、六七〇	四四六、三五九	一、六七〇	四四六、三五九
福岡縣	三八、一七一	三八六五、八二〇	三八、四〇〇	三八八八、四八六
熊本縣	二、七五〇	一五七、一一五	一、〇二九	三四五、〇六八
大分縣	四、六九二	三三八、六六〇	四、八〇〇	三四七、七四二
宮崎縣	一、〇一四	三三三、一三四	一、〇二九	三四五、〇六八
鹿兒島縣	五、四七五	一三七、四六五	五、四六五	一三七、一六四

右三表ニ就テ觀察スレハ漁船並ニ日本船ノ出入ハ福岡縣ニ最モ多ク、西洋形帆船ノ出入ハ長崎縣ニ最モ多ク、爲シテ船舶出入ノ些少ナルハ熊本、大分及ヒ宮崎ノ三縣トス、

今日ノ繁昌上ヨリ云ヘハ長崎ハ我開港場ノ第三位ニ居ルト雖モ、此ニ外國貿易ヲ開キシハ遠ク數百ノ昔ニアリ、故ニ歴史上ヨリ論スレハ

長崎ハ我外國貿易ニ遠達ノ關係ヲ有スルモノナリ、輒近ノ統計ニ基キ
テ本港貿易ノ概要ヲ説明セン、

明治廿二年ノ貿易年表ニ由ルニ、長崎ヨリ輸出セシ我物産ハ六百六
萬九百四十三圓八十五錢ニシテ、外國品ノ輸入ハ二百九十萬六千二百
九十六圓七十八錢ナリ、即チ輸出ノ輸入ニ超過スルヲ實ニ三百十五萬
四千六百四十七圓七錢ナリトス、左ニ輸出入品ノ重要ナルヲ枚舉スベ
シ、

日 本 地 理 教 科 書

輸出品(内國産)

書籍及紙類

五四、九四三、七六

藥材製藥及染料彩料類

二三九、八六九、八六

就中

樟腦

二一六、八九六、九二

穀物及飲食物類

二七〇、九六九、八三八

西 海 道

就中

米

一三九八、七一六、五七

鯧

四三七、一三六、二〇

小麥

一八七、四六四、四三

鮑

八〇、二一四、七五

椎茸

七二、五一八、一〇

鱈鱒

三八、八六八、九五

海參

三六、三八二、六〇

豆類

二六、九七二、六九

蝦

二三、四〇四、五五

金屬

五五、一二三、三八

油及蠟類

二二、七一三、〇八

就中

工

三四十二

木蠟 一九二〇、四一二
 皮毛甲角類 二四、五一〇、四二二
 就中
 鮑殼 二三、八四六、九二
 製茶類 三四、五八五、〇七
 就中
 綠茶 一五、二七二、〇七
 番茶 一四、八二一、一〇
 布帛衣裳及其材料類 一三、六五五、〇八
 煙草類 四五、三三一、七四
 就中
 紙卷煙草 四二、四八三、八三
 雜貨 二八六〇、五〇三、〇八

就中
 石炭 二、五九一、三一九、一八
 磁器及陶器類 六八、三二七、〇六
 木材及板類 五八、二二五、八八
 木炭 四六、六二三、二八
 輸入品(外國產)
 兵器時計及諸機械器具類 五七、一〇六、四〇四
 就中
 漁船 四二、五三八七、〇〇
 唧筒器及同部分品類 三〇、三七六、九四
 漁罐漁機及同部分品類 二七、七四四、三〇
 飲食物類 七六、八六〇、五二
 就中

工

三四十三

工

三百四十四

- | | |
|----------|------------|
| 麥粉及其他澱粉類 | 二二、八五〇、一二 |
| 藥材及製藥類 | 四二、八九三、八九 |
| 就中 | |
| 苛性曹達 | 二七、五七六、七六 |
| 染料及彩料類 | 二九、七九三、七四 |
| 穀物及種子類 | 八九、六一七、九五 |
| 就中 | |
| 豆類 | 八二、八五九、一七 |
| 角牙皮毛類 | 四九、七六四、九八 |
| 就中 | |
| 生牛皮 | 二八、〇六三、九五 |
| 獸骨 | 一一、七七四、〇八 |
| 金屬及金屬器類 | 三四一、五二四、九三 |

工

三百四十五

- | | |
|-------|------------|
| 就中 | |
| 道鍊 | 九一、〇五二、七〇 |
| 板鍊 | 五五、六七三、一六 |
| 條鍊及竿鍊 | 二八、一〇八、八六 |
| 鍊釘 | 二〇、三一六、〇七 |
| 鋼線索 | 一八、三一七、七二 |
| 筒鍊及管鍊 | 一三、〇六三、三八 |
| 塊鍊 | 一〇、八八五、〇五 |
| 鍊螺旋釘類 | 一〇、四六〇、〇八 |
| 油及蠟類 | 三二〇、九九三、一一 |
| 就中 | |
| 石油 | 三〇、八六六、〇八〇 |
| 砂糖類 | 四五〇、八四五、三七 |

日 本 地 理 教 科 書

工

三百四十六

就中	三〇二、一七四 ^円 、七九
白砂糖	一三九、六六八、四二
赤砂糖	七一八、五一九、〇五
布帛糸縷及其材料類	
就中	五九一、七四二 ^円 、九一
繅綿	三五、二七八、一八
絹子	一七、〇六三、四〇
生綿	五三、九四四、五二
酒類	
就中	一三、四四八 ^円 、六二
麥酒	一五三、四三一、四五
雜貨	
就中	

西 海 道

石炭	二九、〇九二 ^円 、一四
麻袋	二二、六九〇、五六
乾鰯	一一、一九二、一〇
輸出	
左ニ金銀貨並ニ紙幣及ヒ地金ノ輸出入ヲ示サン、	
金貨及金地金	一五、二八七 ^円 、九八
銀貨及銀地金	一五六、七七八、四四
紙幣	四九、六〇〇、〇〇
輸入	
金地金	二八三、四五九 ^円 、〇七
銀貨及銀地金	一二七、九〇三、三五
紙幣	三、〇八七、〇〇
次ニ船舶ノ出入ヲ記サン、	

工

三百四十七

外國往來船出入表

出 港		入 港	
船 數	噸 數	船 數	噸 數
汽 船 六五五	六六四、〇九六	汽 船 六三九	六三四、一五九
帆 船 三七	一七、七五九	帆 船 四〇	一三、九一一

内國廻漕船出入表

出 港		入 港	
船 數	噸 數	船 數	噸 數
汽 船 二二五	三三八、〇四七	汽 船 二五〇	三六四、〇七一
帆 船 一	—	帆 船 三	二、八六八

前陳諸表ヲ熟讀セハ、長崎港外國貿易ノ概形ヲ察知スルヲ得ヘシ、蓋シ長崎ハ我開港中ニ第三位ヲ占ムルモノトス、

日 本 地 理 教 科 書

西 海 道

西海道ノ諸州大ニ魚鹽ノ利ニ富ム、今其海產物ノ主要ナルモノヲ舉レハ、鯛、鰯、鮪、鱈、鱈、鰹、鰺、鰻、鯨、鰩、海參、貝類、海藻等アリ、琉球ニハ玳瑁ヲ産ス、

明治廿一年ノ調査ニ由リ一年ノ收穫壹萬以上ニ達スル海產物ヲ舉示センニ、長崎縣ニ於テハ、鰻一三三、三八七圓、鰹六〇、一九七圓、鮪五六、二五六圓、鰯四五、一六六圓、鰺一三、六七八圓、鯨五四、三一六圓、鰩一二、五五八圓、鯛三三、一二三圓、烏賊一一七、九一一圓、佐賀縣ニ於テハ、鰻一八、五〇七圓、鯨二四、六四〇圓、鯛二五、六四九圓、烏賊二二、一四九圓、福岡縣ニ於テハ、王餘魚二三、八七三圓、鯛六八、七六五圓、鰹一〇、八九四圓、烏賊三六、六二一圓、鰻一〇、四六六圓、鰯一〇、八六〇圓、石首魚五六、〇六七圓、鰹殘魚一五、一六九圓、鰹一四、三九九圓、熊本縣ニ於テハ、鰻四六、三四六圓、鰹二五、四七〇圓、鰯一〇、二〇四圓、鯛二一、九三七圓、烏賊四一、〇二八圓、大分縣ニ於テハ、鰻五三、四〇二圓、鰹一四、八八八圓、鯛三〇、〇三五圓、烏賊二五、三五六圓、宮

崎縣ニ於テハ鯧一七、一〇四圓、鯖一三、三一一〇圓、鹿兒島縣ニ於テハ鯧五、三七七四圓、鯉七、五九二九圓、鮪二、六二八三圓、鰯八、五五四五圓、鱈一、四〇三四圓、鯛二、二〇七四圓ノ收穫アリ、而シテ重要水産ノ收穫價額合計ハ長崎縣ニ五十九萬五千五百廿四圓、佐賀縣ニ十八萬九千九百十九圓、福岡縣ニ三十七萬六千六百六圓、熊本縣ニ廿八萬五千八百八十八圓、大分縣ニ廿一萬三千三百一圓、宮崎縣ニ九萬三千七百六十三圓、鹿兒島縣ニ三十三萬四千五百四十圓、即チ總計二百七十七萬七千八百四十一圓ヲ爲シ、又沖繩縣ノ收穫ハ三萬七千六十一圓ニ達ス、

明治廿年ノ調査ニ依リテ、本道ニ於ケル漁人及ヒ漁船ノ多寡ヲ示スヘシ、

日本地理教科書

漁人	長崎縣 六、六二九	佐賀縣 二、二九二	福岡縣 一、七二六	熊本縣 二、六四三	大分縣 三、七八四	宮崎縣 九、四〇四	鹿兒島縣 二、七二六	沖繩縣 四、二五五
漁船	一、七二四〇	三、三六一	五、六〇六	七、三三二	九、六九七	二、四四五	五、三六四	一、四四四

西

海

道

右ノ表ニ依リテ推測スレハ、長崎縣ノ漁業九州ニ冠タルヲ知ルヘシ、宜ナリ其海産ノ收穫モ亦最大額ヲ爲スハ、唯注意スヘキハ福岡縣ノ漁人ノ數ノ壹萬七千餘ニシテ、海産ノ收穫價額三十七萬餘圓ヲ爲シ、却テ熊本、大分、兒島等ノ諸縣ノ收穫價額ニ超過スルヲ是ナリ、

同廿一年ノ調査ニ由ルニ、鹽田ハ長崎縣ニ百町九反、步佐賀縣ニ四十四町八反、步福岡縣ニ二百八十七町七反、步熊本縣ニ二百七十町二反、步大分縣ニ二百三十六町三反、步宮崎縣ニ六十九町四反、步鹿兒島縣ニ三百廿四町八反、步食鹽製出高ハ、長崎縣ニ二萬七百六十六石、佐賀縣ニ八千五百石、福岡縣ニ十四萬四千三百六十六石、熊本縣ニ十二萬八千三百五十五石、大分縣ニ十三萬七千三百八十四石、宮崎縣ニ七千四百九十二石、鹿兒島縣ニ五萬三千九百十八石ナリ、故ニ九州ノ鹽田ハ合計千三百三十町一反、步ニシテ、食鹽製出高ノ合計ハ五十萬二千二百二十一石ニ達ス、之殆ト日本全國製鹽高ノ十分一ニ該當スルナリ、

九州ハ固ヨリ環海ノ地ナリ、豊後並ニ肥後ノ國境或ハ日向、大隅及ヒ肥後ノ相接スル所峻峯磐居シテ稍、交通上不便ヲ感スルト雖モ、沿岸ニハ無數ノ良港アリ、亦筑肥ノ地ニハ大道縱横シ、且ツ數十里間鐵道ノ布設アルハ業已ニ述ヘタルカ如シ、而シテ此ニハ國道及ヒ縣道ノ長短、郵便並ニ電信線路ノ里程、著名ナル海港ノ深淺等ヲ示サントス、若シ夫レ河道ノ舟楫ノ便否ニ至リテハ水理ノ部ニ就テ視ルヘシ、

明治廿二年ノ調査ニ依リテ本道ニ於ケル國道並ニ縣道ノ里程ヲ舉ケン、

日本地理教科書

縣名	國道	縣道	合計
長崎	二二、五七	一七、一〇	一九三、六七
佐賀	三一、七二	九九、九四	一三一、六六
福岡	六七、六四	一二、七五	一九五、一四
熊本	四二、七三	一六、八八	二一一、五九

西海道

大分	三九、〇五	一二、五七	一六四、七六
宮崎	四三、八二	七〇、四六	一一四、二八
鹿兒島	四五、〇一	九八、〇〇	一四三、〇一
沖繩	—	二三、九三	二三、九三
合計	二九二、五四	八八四、五〇	一二七八、〇四

即チ縣道ハ福岡縣ニ國道ハ熊本縣ニ最長里程ヲ爲シ、沖繩ニハ未ダ縣道ノ設ケナシ、

廿一年ノ調査ニ基キ郵便並ニ電信線路ノ長短及局數ヲ示サン、

縣名	郵便路	電信線路長	郵局	電局
長崎	二二、三六、八二	二四、三六	一三〇、二七	八二
佐賀	一一〇、三三	四三、〇二	一八七、五五	三九
福岡	二二三、四二	六二、五二	一八七、二六	八七
熊本	三〇五、三七	四一、九九	六六、八四	一一二

交通

三百五十四

大分	二四三八〇	三五二九	三五六五	八九	三
宮崎	二三三六九	五〇九一	五三六〇	六〇	四
鹿兒島	二九四〇八	三〇五二	三六〇八	九九	一
沖繩	四一、五五			一八	
合計	一六七八、九六	二八八、六一	六九七、一五	五八六	一三三

海底電信線ハ肥前國東松浦郡小友村ヨリ壹岐對島ヲ經テ朝鮮ニ達ス亦赤間關及ビ其對岸間ニ電線ヲ沈設ス、

海路ノ主要ナルハ長崎ヨリ赤間關ニ到ルモノ百四十二哩朝鮮釜山ニ到ルモノ百六十二哩上海ニ到ルモノ四百三十七哩博多ヨリ赤間關ニ到ルモノ六十哩別府ヨリ伊豫國長濱ニ到ルモノ五十三哩油津ヨリ攝津國神戸ニ到ルモノ三百二十一哩鹿兒島ヨリ神戸ニ到ルモノ三百九十哩大島名瀬ニ到ルモノ二百二哩名瀬ヨリ琉球那覇ニ到ルモノ百七十六哩那覇ヨリ八重山島ニ到ルモノ二百四十二哩等アリ、

西海道

西海道ニ著名ノ海港ハ筑前ノ岐志浦深二俣二尺福岡深四俣相島深十俣蘆屋深一俣四尺若松深五俣筑後ノ若浦深一俣乃至二俣二尺豊前ノ小倉深二俣田野浦深三俣門司深六俣鶴島深二俣一尺豊後ノ竹田津(深二俣)深江(深三俣)日出(深四俣)別府(深一俣一尺)佐賀ノ關(深四俣)乃至六俣下ノ江(深七俣)臼杵(深一俣七尺)肥前ノ諸富(深四俣)早津江(深五俣)鹿島(深三俣)二尺鯛浦(深十二俣)乃至十五俣長崎(深五俣)乃至十六俣瀬戸(深七俣)三尺茂木(深五俣)樺島(深八俣)口ノ津(深六俣)島原(深二俣)乃至九俣唐津(深五俣)呼子(深五俣)乃至八俣名護屋(深七俣)乃至十一俣伊萬里(深三俣)平戸(深三俣)田助(深六俣)河内(深五俣)三尺網(深八俣)四尺奈留島(深十四俣)富江(深三俣)二尺玉ノ浦(深三俣)二尺肥後ノ水俣(深六俣)袋村(深五俣)富岡(深四俣)四尺崎津(深五俣)乃至六俣牛深(深九俣)四尺日向ノ佃島(深十四俣)東海(深三俣)二尺島ノ浦(深十俣)美々津(深二俣)三尺油津(深四俣)外ノ浦(深七俣)大隅ノ内ノ浦(深三十俣)大泊(深七俣)薩摩ノ鹿兒島(深十三俣)乃至二十

交通

三百五十五

伊山川深二十仞岸浦深十二仞坊ノ津深三十六仞京泊深五仞阿久根深二十三仞壹岐ノ郷ノ浦深七仞三尺渡良浦深二仞乃至三仞印通寺浦深二仞三仞勝本浦(四仞四尺)汝ノ本浦(深八仞)瀬戶浦(深二仞)八幡浦(深二仞)對島ノ大口浦(深八十仞)佐須那浦(深十三仞)鰐浦(深六仞)鴨居瀬浦(深三仞)巖原(深二十仞)琉球ノ那覇(深十三仞)運天港(深四仞)乃至九仞鹽屋港(深八仞)乃至九仞安護浦港(深十仞)兼城港(深十仞)狩股港(深廿仞)石垣港(深十三仞)等ナリトス、

日本地理教科書

明治廿一年ノ調査ニ依ルニ本道所屬ノ商用船舶ハ長崎縣ニ漁船三十艘其噸數三千八百八十六、帆船二百五十一艘其噸數壹萬三千九百八十一、日本形船五百一艘其石數八萬三千三百九十五、佐賀縣ニ漁船一艘其噸數三、帆船十二艘其噸數二百八十九、日本形船百七十五艘其石數二萬二千七百五十二、福岡縣ニ漁船二艘其噸數三十五、帆船六十二艘其噸數二千六百七十六、日本形船三百四十九艘其石數三萬六千廿二、熊本縣ニ

西海道

帆船十二艘其噸數百八十七、日本形船七百四十三艘其石數五萬六千九百五十、大分縣ニ漁船一艘其噸數五十三、日本形船五百十一艘其石數五萬七千一百一十一、宮崎縣ニ帆船四艘其噸數二百八十五、日本形船百四十四艘其石數三萬九千四百八十四、鹿兒島縣ニ漁船四艘其噸數五百五十二、帆船十四艘其噸數千四百十三、日本形船三百六十七艘其石數三萬五千、沖繩縣ニ日本形船百七十七艘其石數壹萬五千六十、即チ本道所屬ニ係ハル船舶ノ合計ハ漁船三十八艘其噸數三千八百二十九、帆船三百五十五艘其噸數壹萬八千八百三十一、日本形船二千九百六十七艘其石數三十四萬五千六百十五ナリ、而シテ漁船及ヒ帆船ハ長崎縣ノ所屬ニ係ハルモノ最モ多ク、日本形船ハ熊本縣ノ所屬ヲ以テ最多ナリトス、

交通益頻繁ニシテ民彌功慧狡猾ニ走ルハ是自然ノ數乎、西海道ノ風俗ヲ視ルニ北部及ヒ西岸ニ位シ往來至便ノ地ニハ庶民多クハ伶俐ナリト雖モ肥後ノ東南隅若クハ日向、大隅、薩摩等ノ山村ニ至テハ黔首ニ

尙ホ大古ノ風アリ、又琉球人ノ如キハ頗ル淳朴ニシテ、其性質大ニ内地人ト趣ナ異ニス、

抑九州ハ二千又餘年ノ以前ヨリシテ業已ニ民種ノ棲息セシ地タルヤ史ニ徵シテ明カナリ、以是耕耘ニ適當ナル地域敢テ巨大ナラスト雖モ、尙ホ一方里ニ二千百餘ノ人口アリ、壹岐ノ如キハ一方里ニ四千餘ノ人口ヲ有ス、明治廿一年ノ統計ニ徵スルニ九州ニハ五百六十六萬四千三百八十八、壹岐ニハ三萬五千三百五十七、對島ニハ三萬千二百六十二、琉球ニハ三十七萬二千四百三十九ノ人口アリ、故ニ西海達ノ總人口ハ四百十萬三千六百四十六ナリトス、更ニ國別ニ從フテ人煙ノ疎密ヲ明ニスヘシ、

日本地理教科書

國名	人口	面積	一方里ノ人口
筑前	五二四、三〇三	一五八、四七	凡三、三〇八
筑後	四五九、三二四	八一、〇五	凡五、六五四

西海道

豐前	豐後	肥前	肥後	日向	大隅	薩摩	壹岐	對馬	琉球
三六八、五一七	六四六、七八九	一、二二九、八六八	一、〇四一、九七一	四三〇、六九五	三九九、九三四	五六二、九八七	三五、三五七	三一、二六二	三七二、四三九
一三六、二二七	三四四、四八	三四一、八八	四六五、四七	五一、二四	三四五、八五	一三二、五六	八、六三	四四、七二	一五六、九一
凡二、六三一	凡一、八七八	凡三、五六八	凡二、二三八	凡八四二	凡一、一二七	凡二、四二〇	凡四、〇九七	凡六九九	凡二、三七四

右ノ表ニ依リテ視ルニ本道ニ人口ノ最モ稠密ナルハ筑後ニシテ、壹岐、肥前及ヒ筑前之ニ次キ、人煙稀薄ノ地ハ日向及ヒ對馬ノ兩州ナリ、蓋シ筑後ハ全州殆ト平坦ニシテ、單ニ氣候温和土地豐饒ナルノミナラス、交

日本地理教科書

通ノ便利至大ナリ然レハ則チ人生ノ筑後ニ輻湊スルハ洵ニ偶然ニ非サルヲ知ルヘシ此ニ又九州一方里ニ於ケル人口ノ増加ヲ示サソニ其數明治五年ニハ一、八七六、同九年ニハ一、九二九、同十五年ニハ二、〇一八、同廿年ニハ二、一三三、而シテ廿一年ニハ已ニ云ヘル如ク二千百六十四ニ達セリ故ニ此間ノ増加ハ一方里ニ對シテ二百八十八ニシテ九州全體ニ對シテハ凡七十五萬三千八百五十一餘ナルヘシ是豐前及ヒ大隅ノ人口ヲ加合スルモ尙ホ足ラサルノ數ナリ、

西海道ニ著名ノ神社ヲ枚舉スレハ筑前ニ香椎神社、大宰神社、筑後ニ高良神社、豐前ニ宇佐神社、豐後ニ西塞田神社、肥前ニ田島神社、肥後ニ阿蘇神社、日向ニ鶴戶神社、大隅ニ霧島神宮、薩摩ニ枚間神社、壹岐ニ住吉神社、對馬ニ海神々社、琉球ニ先王廟、天照大神宮、聖廟等アリ、

佛教ノ諸宗中本道ニ勢力ヲ逞フスルモノハ真宗及ヒ曹洞宗ニシテ、淨土、臨濟ノ二宗之ニ次ク、又本道ニ存在セル真宗ノ寺院ハ無慮二千五

西海道

百有餘ニ達シ、曹洞宗ハ八百六十餘ノ寺院ヲ有ス、而シテ真宗ノ寺院最モ多キハ肥後ニシテ曹洞宗ノ寺院ハ肥前ニ多數ヲ爲ス、肥後ニハ基督教多少勢力アリ、彼ノ天草島ノ如キハ基督教宣布史ニ於テ著名ノ地ナリ、之ヲ要スルニ西海道ニ於テ佛教盛旺ヲ爲スハ兩肥ノ地ニ若クハナシ、

明治廿一年ノ調査ニ依ルニ本道ニ存在セル學校並ニ生徒ノ員數ハ左表ノ如シ、

國名	學校數			生徒數		
	小學	中學	師範	小學	中學	師範
筑前	三九〇	一	一	三八、一九四	二二九九	九二
筑後	二五八	一	一	二九、四一八	二四五	一、三〇九
豐前	二四八	一	一〇	二二、九四〇	二二九九	三〇七
豐後	四九一	一	一三	四四、八八四	一一四	六三九
					八五	四二五

日本地理教科書

肥前	六七八	四	二二五	八一、一〇八	一、八二四	二二八	二、〇一五
肥後	七三四	二	一一九	六六、〇九六	五四九	一一〇	一、八六九
日向	三八九	一	六	三一、八八三		七九	二二四
大隅	三五九			二一、八九八			
薩摩	三二二	一	五	二八、七二七	二八九	一二三	八四三
壹岐	一五			二、七二一			
對馬	八七			二、一七一			
琉球	六六	一	九	七、〇三三	八一	六九	一四四

右ノ表ニ依レバ學校並ニ生徒ノ數ハ兩肥ノ地ニ最多チ爲スヤ一目ニシテ瞭然タリ、而シテ學齡者ノ修學スル者最多チ爲スハ對馬ニシテ最少ハ琉球ナリ、即チ對馬ニ於テハ學齡者百ニ對シテ修學スル者五十一餘アリト雖モ、琉球ニ於テハ其比例僅カニ七、七ナリトス、其他諸縣ノ修學者ノ百分比例ヲ舉レバ壹岐ニ四七、七日向ニ四五、二筑前ニ四四、八豐

西

後ニ四四、〇肥後ニ四二、八豐前ニ四〇、七肥前ニ四〇、五筑後ニ三七、四大隅ニ三五、七薩摩ニ三一、四等ナリ

西海道ニ人口一萬以上チ有スル都市チ其人員ノ多寡ニ從ツテ枚舉

熊本(肥後)	五二、一八九	福島(筑前)	四八、八五〇
鹿島(薩摩)	四七、五一二	長崎(肥前)	四三、六六九
那覇(琉球)	二六、三四〇	首里(琉球)	二五、七九〇
佐賀(肥前)	二五、五八四	久留米(筑後)	二〇、七三八
島原(肥前)	一九、一五三	大分(豐後)	一五、五一二
中津(豐前)	一五、二七二	小倉(豐前)	一四、八〇〇
柳川(筑後)	一三、五五九	臼杵(豐後)	一一、四〇二

熊本、ハ肥後國飽田郡ノ南邊ニアリ、白川河口ニ位ス、市坊凡三百八十、戸數一萬千七百九十七、熊本縣廳ノ所在地ニシテ商業繁榮ス、市ニ麩類

日 本 地 理 教 科 書

朝鮮館、葦、烟草入等ノ産アリ、舊城内ニ錦山神社アリ、清正公ヲ祀ル、福岡ハ筑前國早良郡ノ北岸ニアリ、福岡縣廳ノ所在地ニシテ一水ヲ隔テ博多ニ連ナル、市坊五十六餘、戸數八千三百九十五、大ニ碇泊ノ便アリ、海路六十湮ニシテ長州馬關ニ到ルヘシ、商賈殷賑、博多ハ有名ノ博多織ヲ製スル地ニシテ又別ニ蠟燭、農具、索麩等ノ産アリ、鹿兒島ハ薩摩ノ南鹿兒島灣頭ニアリ、東ニ櫻島ト相對ス、其間天然ノ一良港ニシテ大船ヲ泊スルニ便ナリ、市坊凡五十、戸數九千八百卅二、鹿兒島縣廳ヲ此ニ置ク、市ニ密柑、香橙、文旦、豚、木綿、紅染、陶器等ノ産アリ、海路三百九十湮ニシテ攝津國神戸ニ到ルヘシ、平均温六十一度七分、長崎ハ肥前國西彼杵郡ニアリ、丘阜ニ憑テ市街ヲ開ク、市坊凡七十五、戸數六千八百四十六、長崎縣廳アリ、又外國人居留地ヲ設ク、近傍ニ著名ノ高島炭山アリ、蓋シ長崎ハ第三ノ開港場ナリ、商業盛隆、百貨ノ輻湊スルハ尋常ニ非ス、攝津國神戸、朝鮮國釜山、清國上海等ニ定期航海ノ汽船

西 海 道

アリ、市ニ鼈甲細工并ニ精製烟草ヲ出ス、平均温六十度二分六厘、霸那ハ琉球群島沖繩島ノ西南隅ニアリ、沖繩縣廳ノ所在地ニシテ戸數六千八百ニ餘ル、海路三百七十餘湮ニシテ鹿兒島ニ到ルヘシ、首里ハ昔日琉球藩廳ヲ置キタル地ナリ、那覇ニ隣ス、戸數五千二百五十四、佐賀ハ肥前國佐賀郡ニアリ、佐賀縣廳ノ所在地ニシテ市凡三十、戸數四千五百八十九、市ニ玻璃器ヲ製ス、繁榮長崎ニ亞ク、大分ハ豊後國大分郡ノ東涯ニアリ、大分縣廳ヲ此ニ置ク、市坊四十餘、戸數二千九百ニ過ク、近郷ニ生蠟、樟腦、紙類、木綿、馬尾織、鑄物、七島蕪等ヲ出ス、平均温五十九度一分八厘、右ハ名市中ニ特ニ著名ナルモノナリ、其他久留米、柳川ノ如キハ飛白織ヲ以テ、小倉、中津ノ如キハ小倉織ヲ以テ、島原ハ馬、猪、豚及ヒ砂糖ノ産ヲ以テ其名西海道ニ顯ワル、

州、南諸島

州南諸島トハ大隅薩摩ノ南海即チ北緯廿七度四十八分同廿八度卅一分東經百二十八度廿四分同百廿九度五十八分ノ間ニ散在セル五大島並ニ十餘ノ小島ヲ指スニアリ所謂ル五大島ハ大島喜界島徳之島永良部島及ビ與論島ニシテ大島其首ニ居ル氣候温暖ニシテ草木繁茂シ民俗敦樸ナリ

物産ニハ銅甘薯豌豆落花生甘蔗山藍杉櫛貝蕉羅漢松阿咀呢糖樹竹海魚鯨鹽豚青螺瑇瑁琥珀上布芭蕉布綿紬綿木綿燒酎棕櫚繩桄榔繩尺蕤等アリ大島名瀬ヨリ鹿兒島ニ到ル海路二百二哩

壹岐對馬

壹岐ハ肥前國松浦郡ノ北方ニアリ對馬ハ又其北ニ位シ遙ニ朝鮮釜山ト相對ス壹岐ハ東西三里十二町南北四里六町周圍三十五里ニ過ク對馬ハ上島及ビ下島ヲ以テ成ル上島ハ東西二里廿八町南北五里廿町周圍五十一里十四町餘下島ハ東西四里六町乃至二里廿八町南北九里

廿六町周圍殆ト百三十六里兩島ノ面積ハ已ニ之ヲ述ベタリ

西

氣候ハ壹岐ニ極暑九十二度極寒三十五度對馬ニ極暑九十度極寒三十度壹岐ハ土地骨沃ニシテ果穀豐熟シ對馬ハ瘠地多ク耕耘ニ便ナラズ故ニ利ヲ漁介ニ採ル

海

物産ニ至リテハ壹岐ニ大豆牛蒡瓜防風箭竹和布石花菜鹿尾藻鯨鱈海參雲母雀鷄木綿鎖器竹器等アリ對馬ハ陶土甘薯烟草木耳椎茸和布鹿尾藻石花菜鹿角菜蜂蜜鱈鮓平鰯干烏賊海參干鰯雲母雉鹿黑砂糖燒酎等ヲ出ス

琉球羣島

薩摩開聞岬ノ南々西海上凡三百七十哩ヨリ東北西南ニ横ワル一群島アリ大島四小島五十餘ヲ以テ成ル是即チ琉球群島ニシテ其主要ナルヲ沖繩島宮古島石垣島及ビ入表島ト爲ス總面積百五十六方里九分一厘沖繩島ハ長凡廿七里東西廣處十里狹處一里餘周圍七十四里アリ

備考

三百六十八

群島ハ原一帯ノ火山脈ニ屬ス、島中ニ峻峯長江ナシ、天願川ハ最長ノ川ナリ、其長三里ニ及ハズ、石垣島ノ於茂登岳ハ海面ヲ抜ク僅カニ一千七百尺ナリ、極暑九十七度、極寒五十七度、稻穀再熟ノ地アリ、

物産ニ朱、鎮硫黃、石炭、五穀、落花生、甘薯、煙草、藍、仙人掌、芭蕉、鎮蕉、棕、桐、楮、朱欒、椰子、呵咀呢、牛馬、猪、豚、山羊、鹿、海魚、海藻、瑇瑁、珊瑚、砂糖、綿、絹、木綿、細上布、芭蕉布、紙、泡盛、朱塗器、陶器、尺、筵等アリ、島ニ織工、漆工殊ニ多シ、

〔備考〕

岬角。大門崎、西浦岬、志賀鼻、楯崎、神湊岬、鐘岬、山鹿岬、名護屋崎、筑前黒崎、岩鼻、筑後速柄崎、部崎、豐前美濃崎、關崎、楠屋鼻、保戸崎、鶴見岬、キシメキ崎、芹崎、宇土崎、豐後早崎、大崎鼻、國崎、野母崎、觀音崎、禿毛崎、波戸岬、千崎、牛首鼻、大崎、甲崎、志日岐山鼻、棹岬、津和岬、崎山鼻、笠山岬、肥前志岐崎、大島崎、高崎、魚貫崎、小松崎、椎木崎、肥後鞍掛岬、都日岬、永田崎、日向佐多岬、火崎、御崎、門倉崎、大隅羽島岬、野間岬、坊岬、開聞岬、薩摩用岬、今井崎、物

崎州南諸島、鰐鼻、牧崎、小牧崎、立神崎、長者原、壹岐、鰐浦岬、伊奈崎、郷崎、豆殿崎、神崎、長崎、對島、國頭崎、喜屋武崎、勝連崎、拾仁志崎、菱崎、世登崎、百名崎、平窪崎、尾神崎、琉球。

海峽。速柄瀨戸、豐前瀨語瀨戸、伊之浦、呼子、晴氣、平戸、田之浦、肥前三角峽、柳瀨戸、本渡峽、肥後櫻島、大隅里瀨戸、薩摩大島峽、州南諸島、城海島瀨戸、大瀨戸、壹岐、大船越瀨戸、紫瀨戸、對島、伊江峽、琉球。

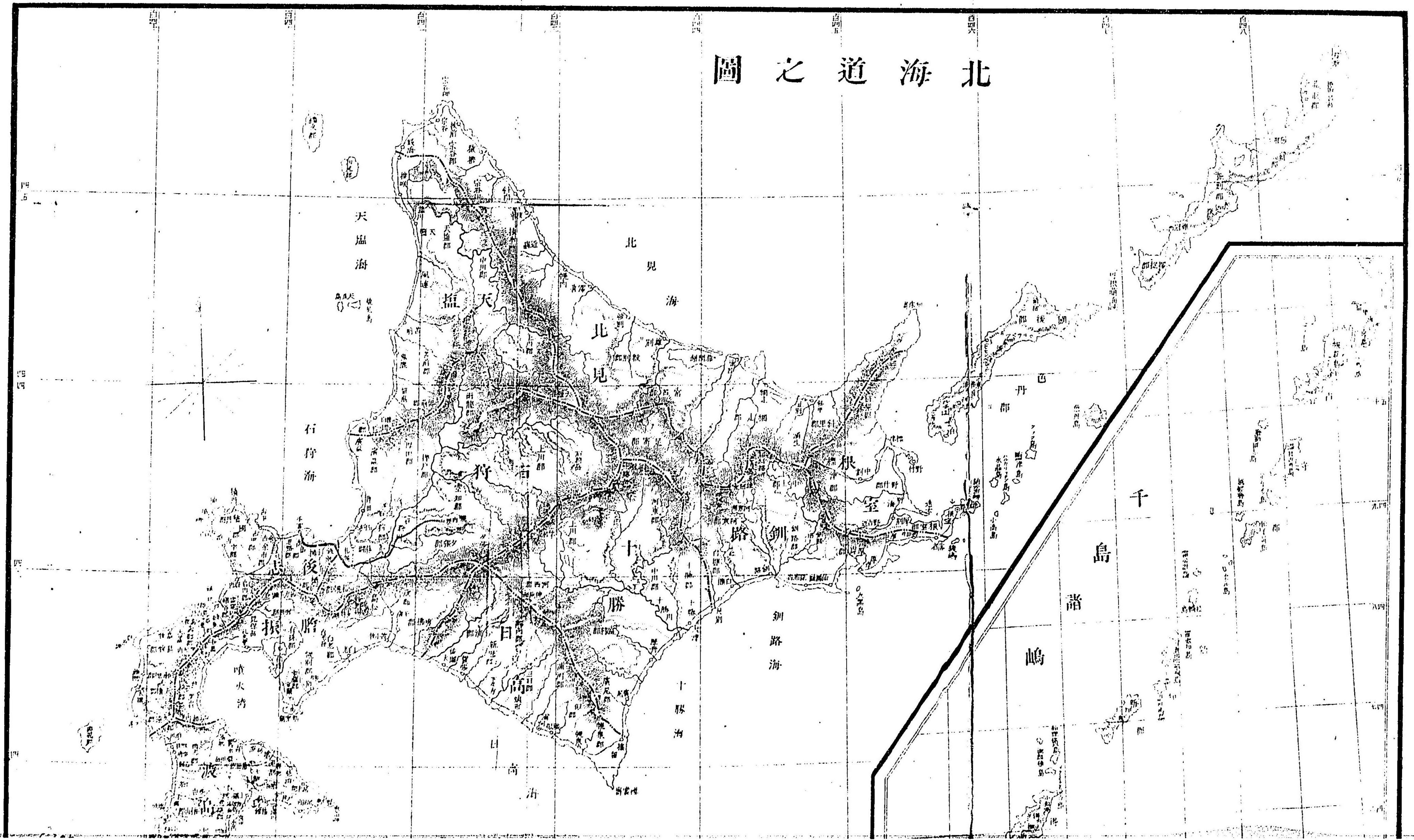
屬島。姫島、小呂島、玄界島、殘島、志賀島、相島、沖島、大島、地島、筑前大野島、(筑後)藍島、養島、豐前姫島、小中島、高島、保戸島、長島、大入島、沖方島、大島、屋形島、深島、豐後天中島、大託間島、竹崎島、香燒島、伊王島、松島、針尾島、周圍十六里半、大島、加部島、加唐島、馬渡島、福島、周圍殆ト十里半、鷹島、周圍十里廿一町、平戸島、周圍四十三里餘、生月島、中通島、周圍六十二里餘、宇久島、奈留島、周圍十七里餘、久賀島、周圍十三里餘、福江島、周圍六十里餘、肥前産島、戸馳島、大矢野島、周圍十五里餘、野釜島、千束、薮々島、天草上島、周

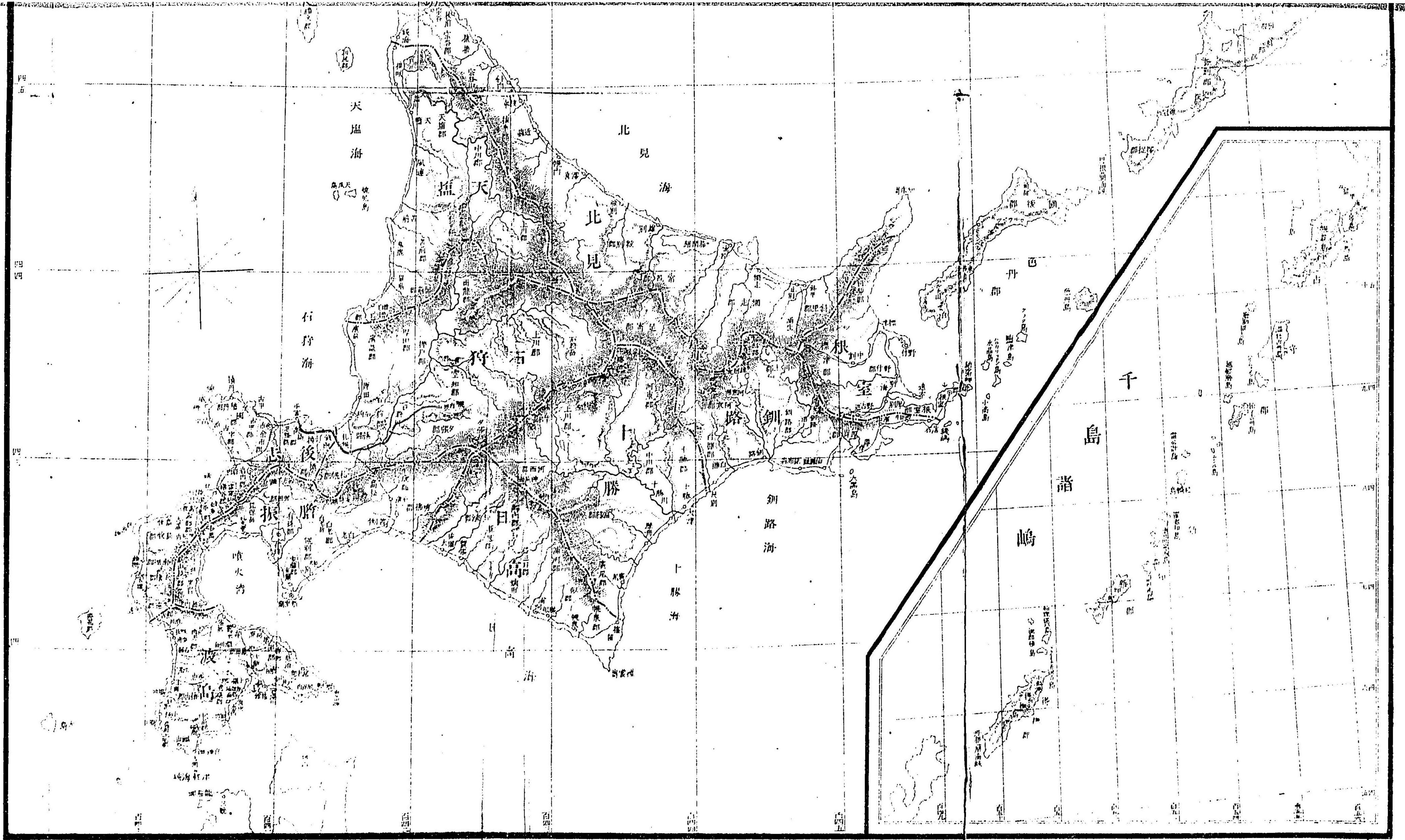
備考

三百六十九

圍卅七里餘(堀島、御所浦島、天草下島、周圍七十里餘)下須島(肥後島之浦、大島、幸島、蒲葵島)日向櫻島種子島、周圍卅七里餘(屋久島、周圍十六里、口永良部島、大隅、長島、周圍廿一里餘)伊唐島、本浦島、獅子島、上甌島、周圍十七里餘(中甌島、下甌島、周圍廿里餘)沖秋目島、竹島、硫黃島、里島、口之島、中之島、諏訪瀨島、平島、臥蛇島、惡石島、寶島、薩摩(大島、周圍五十九里、十町)喜界島、德之島(周圍廿里半)沖永良部島(周圍十四里、九町)與論島(州南諸島)大島、長島、原島、妻島、若宮島、辰島、名島、巢島、手長島(壹岐)島山島(周圍十一里)黑島、赤島(對島)久高島、津堅島、慶良間島、久米島、戶無島、屋加島、郡島、伊江島、瀨底島、伊是那島、惠平屋島、宮古島(周圍十一里)永良部島、多羅麻島、石垣島(周圍十六里半)武富島、入表島(周圍十五里)小濱島、黑島、波照間島、與那國島(琉球)

北海海道之圖





第十章 北海道

富、財、ノ、淵、源、北、門、ノ、鎖、鑰、我、國、將、來、ノ、樂、天、地、ト、稱、ス、ル、ハ、北、海、道、即、チ、是、
ナ、リ、此、地、原、蝦、夷、ト、云、フ、其、名、ノ、初、メ、テ、國、史、ニ、見、ヘ、タル、ハ、實、ニ、景、行、天、
皇、ノ、御、宇、ニ、ア、リ、齊、明、天、皇、ノ、御、宇、阿、部、比、羅、夫、舟、師、ヲ、率、ヒ、テ、肅、慎、ヲ、伐、
ツ、本、邦、人、ノ、此、地、ニ、渡、航、セ、シ、ハ、蓋、シ、之、ヲ、嚆、矢、ト、ス、源、義、經、ノ、陸、奥、高、館、
ヲ、遁、レ、テ、日、高、國、沙、流、郡、波、惠、ニ、到、リ、シ、ハ、文、治、年、間、ニ、ア、リ、後、二、百、五、十、
餘、年、ヲ、經、享、德、三、年、ニ、至、リ、若、狹、ノ、人、武、田、信、廣、松、前、ニ、航、シ、上、國、蠣、崎、季、
繁、ノ、女、婚、ト、成、リ、島、蕃、ヲ、服、從、シ、天、河、ニ、居、リ、蠣、崎、氏、ヲ、冒、ス、永、正、十、一、年、
信、廣、ノ、孫、義、廣、松、前、ニ、徙、ル、慶、長、五、年、義、廣、ノ、孫、慶、廣、福、山、ニ、城、キ、松、前、氏、
ト、稱、ス、其、子、孫、世、祖、業、ヲ、擴、張、シ、竟、ニ、蝦、夷、全、土、ヲ、舉、ケ、我、版、圖、ニ、歸、セ、シ、
メ、タ、リ、其、功、豈、偉、大、ナ、ラ、ス、ヤ、德、川、氏、ノ、天、下、ヲ、治、ム、ル、ヤ、一、時、本、道、ノ、大、
部、ヲ、直、轄、セ、リ、王、政、革、新、明、治、二、年、八、月、全、島、ヲ、以、テ、北、海、道、ト、稱、シ、之、ヲ、
十、一、州、ニ、分、割、ス、明、治、八、年、魯、西、亞、ニ、約、シ、樺、太、ヲ、以、テ、千、島、ニ、換、ユ、然、レ

位置

日本地理教科書

ハ則チ北海道ノ名稱ハ實ニ明治二年八月ニ創起セシモノトス、
 陸奥國青森港ニ解纜シ、北ニ航スルコト六十哩ニシテ、一ノ良港ニ達ス、
 港ハ即チ北海道ノ南隅渡島國ノ函館ナリ、本道ハ之ヲ渡島、後志、石狩、天
 鹽、北見、膽振、日高、十勝、釧路、根室及ヒ千島ノ十一州ニ分ツ、今其位置ヲ案
 スルニ、南ハ津輕海峽ヲ以テ陸奥ノ北邊ト別レ、西ハ日本海ニ瀕シ、北ハ
 宗谷海峽ヲ隔テ露領樺太島ノ熊取岬ニ對シ、東北ハ千島群島ヲ統ヘテ
 露領カムチャツカ半島ノ露波吐加岬ニ接シ、東南ハ太平洋ノ波濤ニ浴ス、
 而シテ樺太及ヒ千島ノ間ハオコツク海ノ水天ニ連ナルノ所タリ、
 之ヲ經緯度ニ徵スルニ、北海道本地ハ北緯四十一度廿一分、渡島國松
 前郡小島南端ヨリ同四十五度三十分、北見國宗谷郡宗谷岬ニ至リ、東經
 百三十九度十一分、渡島國松前郡大島西端ヨリ同百四十六度七分、根室
 國花咲郡クラク島東端ニ達ス、而シテ千島ハ北緯四十三度三十八分、國
 後郡計羅武威岬及ヒ同五十度五十六分、占守郡アライト島北端東經百

北海道

四十五度廿一分、國後郡クルク山西端及ヒ同百五十六度卅二分、占守郡
 占守島東端ノ間ニ雁列スルモノナリ、
 北海道本地ノ形狀ハ鱈魚ノ大海ニ跳ルガ如ク、其頭ハ東北ニ向ヒ、尾
 ハ津輕海峽ニ浴ス、而シテ右膝ハ大平洋ニ突出シ、左膝ハ樺太島ヲ指ス、
 頭ノ東北ニ當リテ一列ノ群島アリ、千島即チ是ナリ、
 根室國納沙布岬ヨリ後志國白糸岬マテ直經凡百廿五里、北見國宗谷
 岬ヨリ日高國襟裳岬マテ直經凡百七里、國後島計羅武威岬ヨリ占守島
 東北端マテ直經凡百四十六里、本地ノ周圍五百八十三里三分三厘、面積
 五千五十六方里七分八厘、千島ノ周圍六百十三里二分一厘、面積千三十
 三方里四分六厘、而シテ北海道ノ總面積ハ屬島ヲ合シテ實ニ六千九十
 五方里三分六厘ナリ、是日本帝國全面積ノ四分一強ニ該當ス、本道ノ狹
 小ナラサルハ此ニ至リテ明カナルヘシ、
 北海道山脈ノ概勢ヲ視ルニ、一ハ樺太島ヨリ來リテ本地ヲ南北ニ走

日本地理教科書

リ、一ハカムチツカ半島ヨリ千島ヲ經テ本地ニ入り、東々北ヨリ西々南ニ横ハルモノアリ、本地ノ中央即チ石狩嶽、十勝嶽等ノ厝集スル所ヲ根據ト假定シテ山脈ノ分嶺ヲ詳述センニ、北方ニハ二嶺アリ、一ハ天鹽ノ東北ニ沿フテ走り、此國ヲ北見國ト別チ、一ハ天鹽國天鹽ニ向テ流ル、是即チ天鹽川溪ヲ爲スモノナリ、東方ニハ一嶺アリ、東ニ走り、後ニ北見及ヒ根室ノ境界ヲ追フテ知床岬ニ出ツ、南ニ一嶺アリ、十勝、石狩、日高ノ三州境ヲ爲シテ襟裳岬ニ終ル、此嶺ノ東ニ十勝河嶺アリ、右ハ皆中點ヨリ四出スルモノナリ、

天鹽ノ西岸ニ一山脈アリ、此國ヲ石狩國ト界ス、此東ハ即チ石狩川ハ源ヲ發スル所ナリ、渡島半島ニモ亦一山脈アリ、後志國水垂岬ヨリ西南ニ横ハリ渡島國惠山岬ニ出ツ、

北見及ヒ天鹽間ノ山脈ニ著名ナル峻峯ヲ舉レハ天鹽嶽、カモイ嶽、ホロウシ嶽、宗谷嶽等ナリ、天鹽河溪西測ノ山嶽ニハチフネウシヒ

北海道

ラ山、ベンケヤツチ山、ベンチナ山等ノ諸峯アリ、

東方ノ嶺即チ知床岬ニ出ルモノニハ陸別山、エウタチ山、釧路嶽、斜里嶽、ヘナヘツ山等ヲ以テ峻峯トシ、南方ノ嶺ニハ十勝嶽、竿呂嶽、芽室山、神威嶽、豐居山、トヨニ山等著名ナリ、渡島半島ノ山嶺ニハ游樂部岳、乙部黒嶽、濁川山、古部川嶽等ノ諸峯アリ

北海道ニ火山多シ、其著名ナルモノヲ舉レハ活火山ニ硫黃岳(釧路)女阿寒岳(釧路)樽前岳(釧路)駒ヶ岳(渡島)熄火山ニチヤチヤノボリ、サイケノボリ、スクラノボリ、ロウリ山、シマノボリ(國後島)斜里岳(根室)シベツ岳(男阿寒岳)釧路十勝岳(十勝)利尻(利尻島)石狩岳、夕張岳(石狩)登別岳、有珠岳(膽振)後志岳、余市岳(後志)惠山、古武井岳、大川岳、小島、大島(渡島)アリ、要スルニ火山ハ概テ皆東西山脈ニ屬ス、

〔備考〕

二千尺以上ノ山岳(細川廣世氏編輯日本帝國形勢總覽第三版)

日 本 地 理 教 科 書

渡島	三、五三〇 ^尺	三森岳	三、五三〇 ^尺
横津岳	二、七〇〇	糸川岳	二、二一〇
二股岳	二、〇二〇	熊泊岳	二、〇四〇
古部井岳	三、二二〇	濁川岳	二、七〇〇
駒ヶ岳	二、〇〇〇	七ッ岳	三、〇〇〇
於保古岳	二、五三〇	千軒岳	三、三五〇
知内岳	二、六六〇	八幡岳	二、〇〇〇
原口木無岳	二、八〇〇	見市岳	三、〇〇〇
乙部黒岳	四、一〇〇	冷水岳	三、〇〇〇
游樂部岳	三、〇〇〇 ^尺	大櫓岳	三、六〇〇 ^尺
後志	三、〇〇〇	本目名岳	三、〇〇〇
毛無岳			
幌目岳			

北 海 道

蟹寒岳	二、八〇〇	狩場岳	三、九〇〇
大平岳	三、四〇〇	折川岳	三、〇〇〇
黒松内岳	二、四〇〇	幌別岳	二、二一〇
天狗岳	二、四五〇	雷電山	三、二五〇
後方羊蹄山	八、〇〇〇	幌内山	二、五二〇
幌登山	二、五二〇	硫黄山	三、六〇〇
千勢登山	二、一六〇	西張登山	二、五二〇
金峯山	二、一六〇	朝里山	三、五〇〇
石狩			
手稻山	二、九五〇 ^尺	武稻山	三、四五〇 ^尺
阿曾岩山	二、八〇〇		
天鹽			
曇寒別山	七、二〇〇 ^尺	雄冬山	三、四五〇 ^尺

日 本 地 理 教 科 書

羽幌山	六、一、二〇	幌尻山	六、一、二〇
辨花片山	七、二〇〇	晚花片山	六、四、八〇
膽振			
熊根岳	三、〇〇〇 ^尺	昆保山	三、三、〇〇 ^尺
有珠岳	三、四、二〇	於名振別山	三、三、六〇
室蘭岳	二、〇〇〇	幌別山	三、〇〇〇
來馬山	二、八〇〇	白老山	三、三、〇〇
漁山	三、四〇〇	紋鼈山	二、六〇〇
日高			
保奴加良山	五、四〇〇 ^尺	安保似山	五、〇、四〇 ^尺
猿留山	二、五、二〇		
十勝			
廣尾山	二、五、二〇 ^尺	樂古山	四、六、八〇 ^尺

北 海 道

音調律山	二、〇、六〇	歴舟山	二、五、二〇
十勝岳	二、一、六〇	佐幌山	二、八、八〇
神威岳	五、四〇〇	美波色山	三、六〇〇
安取山	三、六〇〇	韋牛山	三、二、四〇
雪城山	三、二、四〇		
國後			
羅臼山	五、四〇〇 ^尺		

北海道本地ノ主山脈ハ四極ニ縱横ス、以是川河モ亦南北東西ニ流走ス、天鹽川、常呂川等ハ北走スル主要ノ川河ニシテ、西別川、標津川ノ諸水ハ東ニ流レ、利別川及ヒ後志川ハ西ニ流レ、久壽里川、大津川、嶋川等ハ南ニ流走ス、而シテ石狩川ノ主流ハ南下スト雖モ、其一支流ハ殆ト西ニ向フナリ、

前陳ノ諸水中天鹽、石狩、大津、常呂ノ四川ハ其水源相隔ルヲ遠カラズ、

日本地理教科書

然レハ則チ此等ノ川河ハ他日交通上ニ便利ヲ與フルヤ決シテ少小ニ非サルヘシ之ヨリ長十五里以上ノ川河ノ模様ヲ記述スヘシ、

石狩川ニ二源アリ、一ハ石狩嶽ニ出テ西流シ、一ハヒイシリ山ノ東ニ出テ南流ス、雨龍川是ナリ、二川雨龍太ノ近傍ニ合シテ尙ホ南流シ、空知太ニ至リテ空知川ヲ容ル、空知川ハ源ヲ夕張岳ノ東方ニ發スルモノナリ、石狩川ノ幌向ニ達スルヤ河道ヲ西ニ轉シ、石狩ニ至リ海ニ入ル、幌向及ヒ石狩間ニ又數川ヲ容ル、長凡百六十七里、濶三町ニ餘ル、

天鹽川ハ源ヲ天鹽嶽ニ發シ、一帯ノ長溪ニ沿ヒ、西北ニ流走シ、天鹽ニ至リ海ニ入ル、長凡七十餘里、濶三町河道ニヘンチ、パンケ、ホロトウノ三沼アリ、又シベツ、ナヨロ、アシナイ、サルマ等ノ諸水ヲ容ル、

大津川ハ源ヲ十勝岳ニ發シ、初メ南流シ、中コロ東流シ、竟ニ復タ南流シ、大津ニ至リ海ニ入ル、長四十四里餘、濶二町ニ過シ、遙ニ音更川、利別川、サルヘツ川等ヲ容ル、河口ニ一支流アリ、十勝川ト云フ、長二里、十勝ニ至

リ海ニ入ル、

久壽里川ハ又釧路川ト書ス、源ヲ釧路嶽ノ釧路湖ニ發シ、南流シテ釧

路ニ至リ海ニ入ル、長凡卅七里、濶貳町、沼ニシラリウトロ沼ト沼及ヒ

タツマブ沼アリ、支流ノ主要ナルヲセチリ川及ヒ阿寒川トス、阿寒川ハ

源ヲ阿寒湖ニ發スルモノナリ、

遊樂部川ハ源ヲ渡島遊樂部嶽ニ發シ、東流シテ膽振山越郡遊樂部ニ

至リ海ニ入ル、長凡三十四里、

常呂川ハ源ヲ常呂山中ニ發シ、途ニムツカ川ニ會シテ漸ク巨流ト爲

リ、東北流シテ北見國常呂ニ至リ海ニ入ル、長凡三十里、

西別川ハ源ヲ釧路國西別嶽ニ發シ、東流シテ根室野付郡境ヲ過キ、西

別ニ至リ海ニ入ル、長凡三十里、

利別川ハ源ヲ膽振國蟹寒嶽ニ發シ、西流シテ後志國瀬棚村ニ至リ海

ニ入ル、長凡三十里、

日本地理教科書

新冠川ハ源ヲ日高北隅ノ山中ニ發シ、西南流シテ高江ニ至リ海ニ入ル、長凡廿六里、
 鷓川ハ源ヲ日高膽振兩國境ノ山中ニ發シ、西南流シテ膽振鷓川村ニ至リ海ニ入ル、長凡二十里、
 後志川ハ源ヲ膽振國當沸岳ニ發シ、西流シテ後志國羊蹄山下ニ出テ、同國磯谷村ニ至リ海ニ入ル、長凡十八里、潤一町半ニ過ク、
 標津川ハ源ヲ根室國標津岳ニ發シ、初メ東南流シ、後ニ途ヲ東北ニ轉シ、標津村ニ至リ海ニ入ル、長凡十六里、
 長流別川ハ源ヲ膽振有珠郡ノ山中ニ發シ、西南流シテ長流村ニ至リ海ニ入ル、長凡十六里、
 富別川ハ源ヲ天鹽ノ山中ニ發シ、北流シテ北見國富別ニ至リ海ニ入ル、長凡十五里、
 厚別川ハ源ヲ日高國新冠ノ山中ニ發シ、數川ヲ合シ、西南流シテ厚別

ニ至リ海ニ入ル、長凡十五里、

〔備考〕

五里以上ノ川河（地理提要ニ除クル）

北	海	道
渡島		
有川		
後志		
利別川	三〇里	後志川
朱太川	一四里	余市川
堀株川	一一里	積舟川
古平川	七里	
石狩		
石狩川	一六七里	
天鹽		

日本地理教科書

天鹽川	七〇里	留萌川	一四里
北見			
常呂川	三〇里	富別川	一五里
・紋別川	九里	斜里川	八里
膽振			
遊樂部川	三四里	鶴川	二〇里
長流別川	一六里	長萬部川	一二里
白老川	一〇里	敷生川	八里
勇拂川	五里		
日高			
新冠川	二六里	厚別川	一五里
染退川	一五里	三石川	一一里
鳧川	一一里	沙流川	七里

北海道

元浦川	七里		
十勝			
大津川	四四里	雁舟川	一〇里
釧路			
久壽里川	三七里		
根室			
西別川	三〇里	標津川	一六里
千島			
蕨取川	五里		

。舊蝦夷ノ地湖沿數多アリ、北見ノ東北岸若クハ十勝ノ沿岸ニ雁列スルハ低地ニ水ノ滯滞シテ湖沼ヲ爲スモノナリ、其他ハ盡ク皆火山湖ニ屬ス、低地ノ湖沼ニ主要ナルハコムケ沼、猿馬湖、熊取湖、網走湖、楓蓮湖、畝間沼等ニシテ、摩周湖、釧路湖、阿寒湖、鹹湖、又名内灣、支笏湖、又名千歲湖、洞

日本地理教科書

爺湖又名有珠湖大沼ノ諸湖ハ皆火山湖ナリ(渡島東北ノ火山灣又名内浦灣モ亦一大火山湖ト看做シテ可ナルベシ)又曰ク火山湖中島嶼ヲ有スルモノ少ナカラス例ヘハ摩周湖釧路湖阿寒湖及ヒ洞爺湖ノ如シ島湖ノ中央ニ位スルハ一種ノ奇觀ニシテ是實ニ湖中ニ火山頂ヲ顯スモノトス之ヨリ較著ノ湖沼ヲ記述スヘシ、

猿馬熊取及ヒ網走ノ三湖ハ北見ノ東北沿岸ニアリ猿馬湖ハ東西凡八里十二丁南北凡三里ニシテ周圍十八里ニ垂トス湖ノ東北隅鑑別ニ當リ海ニ通ス熊取湖ハ猿馬湖ノ東凡五里ニアリ周圍四里餘細流ニ依リテ海ニ通ス網走湖ハ熊取湖ニ隣ス周圍七里餘網走川此湖ニ注ク、

楓蓮湖ハ根室ノ東隅ニアリ東西三里十五町南北廿町周圍十五里楓蓮川ヲ容ル湖ニ島嶼四五アリ畝間沼ハ楓蓮湖ノ東隣ニアリ周圍凡七里海ニ通ス、

摩周釧路阿寒ノ三湖ハ釧路北隅ノ山間ニ群集シ皆島ヲ有ス摩周湖

北海道

ハ東西一里南北三里釧路湖ハ東西二里半南北十八町釧路川ノ源タリ湖中ノ島ヲトウモシリト云フ阿寒湖ハ東西一里半南北三里湖ニヤイエタイモホロモ等ノ島アリ、

鹹湖ハ釧路ノ東南海岸ニアリ外ニ厚岸灣ト通ス東西凡二里南北一里餘湖口ニ碇泊ノ便アリ鹹湖ヲ内灣ト云ヒ厚岸灣ヲ外灣ト稱ス厚岸灣モ亦一火山湖ト看假シテ可ナリ、

支笏湖ハ膽振國千歲郡ニアリ東西三里南北二里餘周圍凡七里千歲川源ヲ此湖ニ發シ石狩國ニ入り石狩川ニ合ス長都沼ハ支笏湖ノ東北ニアリ周圍五里餘細流ヲ以テ支笏湖ト連ナル、

洞爺湖ハ膽振國有珠虻田ノ兩郡ニ跨ル周圍十里餘湖中ニ島アリ湖水長流別川ニ入ル、

大沼ハ渡島國龜田郡ニアリ小沼湯沼ニ隣シ細流ニ依リテ互ニ相通ス大沼ヨリ一川出テ鹿部ニ至リ海ニ入ル、

千島ニ著名ノ湖沼ヲ舉レハ東拂沼周圍三里餘、瑯岸寄沼周圍二里、美祿沼周圍二里以上國後郡内保沼周圍二里、擇捉郡訪床沼周圍三里餘、紗那郡常路沼周圍二里餘、藍取郡等ニシテ、皆火山湖ニ屬ス。

北海道ニ礫泉少ナカラス、而シテ精細ノ稽查ヲ經タルハ未ダ稀ナリト雖モ、左ニ較著ノモノヲ舉ケテ讀者ノ參考ニ供ス、

渡島

惠山(硫黃質ニシテ酸味アリ)

河汲(少許ノ硫化水素ヲ含ム)

古武井(泉質未詳)

鹿部(鐵氣アリ)

富湯(泉質未詳)

下湯川(炭酸鐵氣ヲ混ス)

落部(鐵氣アリ炭酸瓦斯ヲ含ム)

湯澤(冷泉ナリ)

軍川(泉質未詳)

茂邊地(泉質未詳)

後志

久遠湯(鐵氣アリ)

壽都湯(泉質未詳)

日本地理教科書

北海道

雷電湯(硫黃質)

硫黃山湯(泉質未詳)

藻岩湯(泉質未詳)

石狩

丈山谷湯(少シク硫黃氣アリ)

礦山湯(泉質同上)

北見

硫黃山湯(硫黃質ナリ)

釧路

登別湯(硫黃質ナリ)

大湯湖(泉質未詳)

上湯(泉質未詳)

下湯(泉質未詳)

半花別湯(泉質未詳)

十勝

音更川湯(泉質未詳)

頓羅宇志湯(泉質未詳)

阿寒湯(硫黃質ナリ)

贈菫湯(硫黃質ナリ)

屈斜路湯(硫黃質ナリ)

弟子屈湯(硫黃質ナリ)

根室

良牛湯(硫黃質ナリ)

千島

勢々氣湯(硫黃質ナリ)

千世宇志湯(硫黃質ナリ)

北海道本地ノ地勢ヲ察スルニ、峻峯中央ニ磐居シテ其餘脈四力ニ流出シ、海岸ニ近クニ從ヒ漸ク高サヲ減ス、大川ノ河口亦平坦ナル低地少ナカラス、石狩川口並ニ大津川口ノ如キ是ナリ、又沿海ノ湖流ヲ稽查スルニ、東岸ニハオコツク海ヨリ來ル寒潮流アリ、温暖ナル黒潮ノ支流ハ日本海ヲ經テ北海道ノ西岸ヲ過ク、宗谷海峽並ニ津經海峽ハ寒温兩潮ノ遭遇スル所ナリ、今右ノ事實ヲ以テ諸測候所ノ觀測ト參照セハ本道氣候ノ概要ヲ知ルハ敢テ困難ニ非サルヘシ、北海道ノ氣候ヲ論スルニ

日本地理教科書

當リ、先ツ測候所ノ位置ヲ示スヘシ、

地名	東經	北緯	地名	東經	北緯
宗谷	一四一、五五 <small>分</small>	四五、三一 <small>分</small>	上川	一四二、二三 <small>分</small>	四三、四五 <small>分</small>
根室	一四五、三五	四三、二〇	札幌	一四一、二三	四三、〇四
壽都	一四〇、二三	四二、四八	襟裳	一四三、二五	四一、五五
函館	一四〇、四四	四一、四六			

北海道

右七測候所中上川及ヒ札幌ヲ除クノ外、皆沿海ノ地ニアルモノナリ、數年ノ實測ニ徴スルニ、沿岸ノ寒暖ハ左表ニ示スカ如シ、而シテ上川測候所ハ明治廿一年ノ設置ニ係ハルヲ以テ、觀測ノ數夥多ナラス、故ニ未ダ眞實ノ平均溫度ヲ知ルヲ得サルナリ、

地名	最高	最低	平均
宗谷	七一、四二 <small>度</small>	一八、一四 <small>度</small>	四二、八〇 <small>度</small>
根室	七一、九六	一五、〇八	四二、六二

氣候

三百九十一

日本地理教科書

地名	氣候		
	最高	最低	平均
札幌	七九、一六	一一、六六	四四、七八
函館	七六、四六	一九、二二	四六、四〇
札幌	六八、三六	二二、八二	四四、二八
函館	七八、二六	二〇、一二	四七、三〇
宗谷	八三、八四	〇、八六	四一、〇〇
上川	九一、〇八	(一)三〇、二八	三九、三八
根室	八五、八二	(一)一、八四	四〇、八二
札幌	八九、四二	(一)六、五二	四三、一六
札幌	八六、一八	一〇、九四	四五、一四

此表ニ示ス所ノ最高及ヒ最低温度ハ最高低ノ平均ヲ顯スモノニシテ、之ヲ周年ノ實測ニ徴スレハ大ニ齟齬スルノ點アリ、試ニ廿二年ノ觀測ヲ掲クヘシ、

(一)ハ零度以下ノ數ヲ示ス

北海道

地名	襟裳	函館
宗谷	七五、〇二	一〇、二二
上川	八四、三八	三三、三八
根室	四二、六二	四四、七八
札幌	四四、二八	四六、四〇

前掲兩表ヲ對照スルニ、平均温度ニ於テハ著シキ差異ナシト雖モ、最高低ノ數ニ大ナル差別アリ、是前者ハ數年ノ觀測ニ基原シテ平均ヲ採リ、後者ハ一年ノ經驗ニ依リテ計算スルカ故ナリ、然リ而シテ寒暖ノ極差ヲ知ラントセハ後表ニ依ルヲ却テ便ナリトス、

前表ニ依リテ、北海道本地東西兩岸ノ平均温度ヲ對照セン、

東
根室 四二度六二
札幌 四四度七八
襟裳 四四度二八
壽都 四六度四〇

西
此表ニ依ルニ、西岸ノ地ハ同緯度ノ東岸ノ地ヨリ温暖ナルヲ凡二度ナリトス、而シテ西岸ニアリテハ一緯度ニ對シテ温ニ一度三分三厘餘ノ差アリ、東岸ニハ其差一度一分八厘餘ニ過キス、

日本地理教科書

神保理學士カ地學雜誌ニ報スル所ヲ視ルニ北海道本地ノ恒雪境ハ西部ニ於テハ六千四百尺餘ノ高キヲ爲シ中央ニ於テハ五千尺以上ニアリ、知床半島ノ南側ニ於テハ凡二千尺ニ位スト云フニアリ、然レハ則チ札幌近傍ニアリテハ直立六千四百尺ニ對シテ温ニ十二度餘ノ差アリ、知床半島ノ南側ニ於テハ直立二千尺ニシテ寒暖ニ十度餘ノ異同ヲ生スルカ如シ、

要スルニ本道(千島ヲ除ク)沿岸ノ平均寒暖ハ四十二度乃至四十七度餘ニアリ、内地ト雖モ平野ニ至リテハ其平均寒暖三十八度ニ下ルモノ稀ナルヘシ、

之ヨリ平均氣壓、濕度並ニ雨雪ノ量ヲ示シ、又最モ屢吹來セル風ノ方向ヲ明ニスヘシ、

地名	氣壓	溫度	雨量	風ノ方向
宗谷	七五八、二	八五	一〇七、六	西及南西

北海道

札幌	壽都	根室	襟裳	函館
七五九、〇	七五九、四	七五九、二	七五九、〇	七六〇、一
八〇	七五	八〇	八九	八一
一〇一七、四	一一〇二、五	八七六、六	八六七、六	一一〇五、五
南東及北西	南及北西	南西及南	西及北東	西及北西

明治廿二年ノ觀測ニ依ルニ上川ニ於ケル氣壓ハ七五八、三佛厘濕度ハ八六雨量ハ一、一四六、六佛厘風ハ西及ヒ北ヨリ吹來スルモノ最モ多シ、此表ヲ觀察スレハ雨雪ノ水量ハ西岸ニ大ニシテ、東岸ニ小ナルハ一目ニ瞭然ナルヘシ、

北海道ハ固ヨリ水産ニ富ムモノナリ然レトモ陸産亦乏シカラズ、勝山孝三氏著日本回天ニ本道ノ礦物所在地ヲ舉ク、左ニ其要ヲ述ヘン、(砂金)渡島國知内、膽振山越内ノ太田、同千歲郡ヤマンコ内、同チンコン、ヘ、三ッ俣、石狩札幌郡白上川、日高靜内ノウセナイ、同浦川ノソロカン、